

ポマロイ女史講演特集



# UFO contactee

GAP-JAPAN NEWSLETTER



UFO・超能力・宇宙哲学

コンタクティー

アリス・ポマロイ女史講演「G. アダムスキーの思い出と宇宙哲学」全文掲載

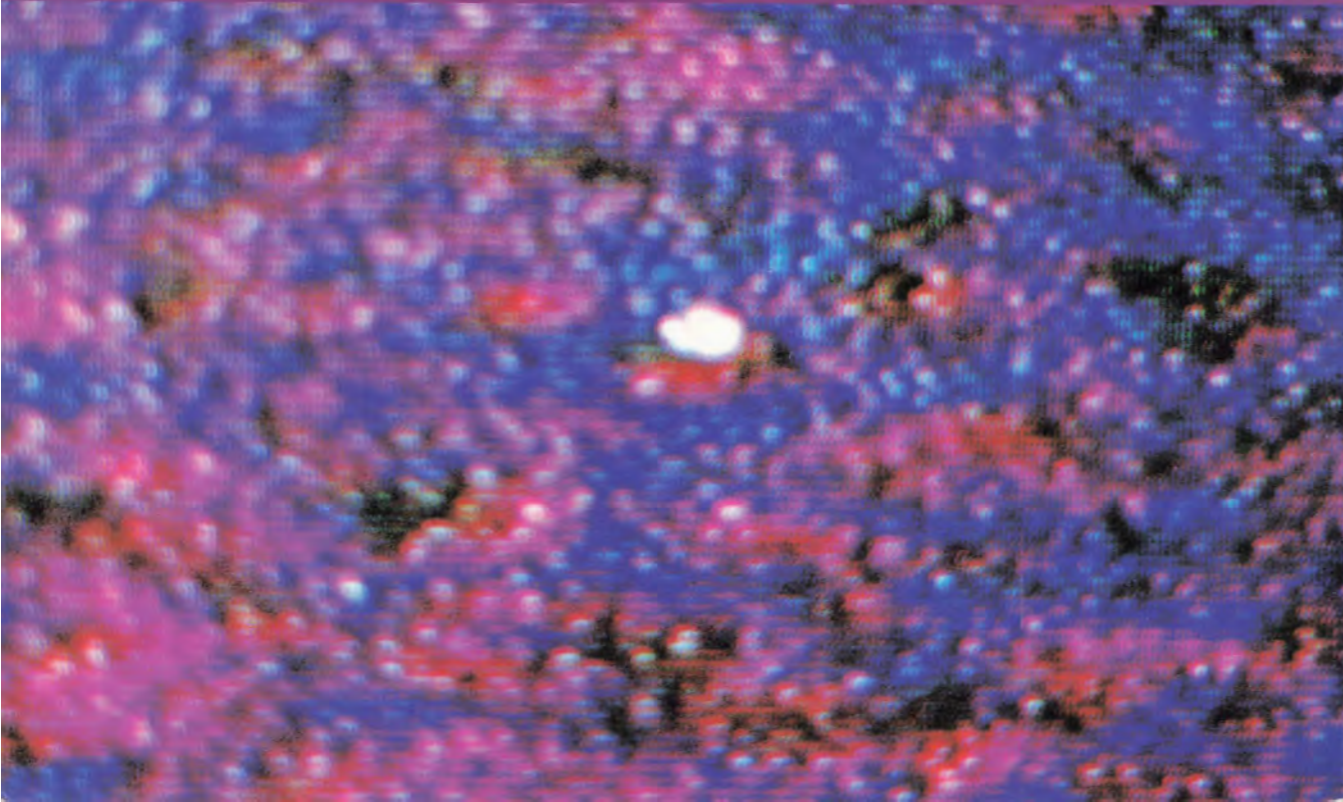
WINTER  
1988

## アダムスキーの体験は真実だった!

我らの惑星に愛と希望を  
カイロ上空に輝くUFOが出現  
私のUFOコンタクトと宇宙的目覚め  
〈連載第6回〉

103

## UFO-宇宙からの完全な証拠 オーラ透視能力開発法





ジョージ・アダムスキーの思い出と宇宙哲学 アリス・ポマロイ 1

我らの惑星に愛と希望を 久保田八郎 12

カイロ上空に輝くUFOが出現 伊東芳和 18

私のUFOコンタクトと宇宙の目覚め 富岡設子 20

巨大UFOと遭遇した海洋観測船 26

GAP短信 27

科学—SCIENCE— 28

〈広告〉アメリカ・南米宇宙ロードの旅 29

UFO-宇宙からの完全な証拠(連載第6回) ダニエル・ロス 30

オーラ透視能力開発法 遠藤昭則 38

昭和63年度日本GAP総会 44

〈投稿欄〉ユーコン広場 46

本誌バックナンバー掲載記事目録 48

旭川上空に銀白色の円盤/ 49

〈広告〉アダムスキー全集/英文版ユーコン/編集後記 50

日本GAP全国月例研究会案内 51



◀金星からジョージ・アダムスキーに伝えられた金星のシンボルマーク。2個の図形の内、左側は宇宙の女性原理(陽)、右側は母性原理(陰)を意味する。円は宇宙をあらわしている。

### GAPについて

GAPは「知らせる運動」という意味の世界的なグループ活動で、世界中の人々がUFOの真相について“知る”機会を与えられるべきであるという見地に基づいて1959年にジョージ・アダムスキーによって創始されました。彼の願いは「最大多数の人が現代の真実を発見して、来たるべき時代に眼を転じること、人間はすべて“コスミック・パワー”の子であり、そのパワーの諸法則が宇宙に遍満している事実を確信をもって知ること」にありました。この諸法則は他の世界(惑星)から来る友好的な訪問者からもたらされた“生命の科学”の研究と理解を通じて体得できます。

日本GAPの目的はUFOとスペース・ブラザーズ問題に関心ある人々に伝えることにあり、奉仕活動を通じて真実の解明と宇宙の法則の実践を呼びかけることにあります。その中心思想は次のとおりです。

1. この太陽系の他の惑星群には偉大な発達をとげた人類が居住しているが、米ソ等の大国政府はこの真相を隠している。
2. 他の世界から来る人々はこの世界の政治家や科学者とひそかにコンタクト(接触)しており、危機にひんした地球に対して救援の手をさしのべている。官民を問わずスペース・ブラザーズとコンタクトしている人々が少数存在すると思われるが、通常その真相は洩らされていない。
3. ジョージ・アダムスキーがもたらした哲学は、人類の精神の向上と地球の輝かしい未来を築くために不可欠のものである。

本誌は他の団体・個人と対立するものではなく、政治・宗教と関係のない非営利刊行物です。本誌が読者に対して多少とも役立てば幸いです。

#### 表紙写真

昭和63年8月、日本GAP海外研修旅行に参加した伊東芳和氏(東京)がカイロのギザ地区でシアグホテルのベランダから8mmビデオカメラで撮影したUFO群の1部。詳細は本号記事「カイロ上空に輝くUFOが出現」を参照。



# ジョージ・アダムスキーの思い出と宇宙哲学

●アリス・ポマロイ／久保田八郎訳

昭和六十二年日本GAP総会における講演

**アダムスキーの体験は真実だった！**

アダムスキーの晩年に師事し、親しく薫陶を受けた高弟で唯一の現存者ポマロイ女史の招待大講演会が去る九月二十五日、東京中央区の銀座ガスホールで開催されて、全国から出席した超満員のGAP会員間に感動の嵐を巻き起こした。以下、女史の貴重な秘話とアダムスキーが伝えた宇宙的な生き方の真随に関する講演の全文を収録

ジョージ・アダムスキーを知る特権を与えられた私たちほとんどの人と同様、私も彼に会うずっと前から彼の『円盤』関係の書物類に引き込まれま

れによって生きるようにと私が教えられていた約二千年前のイエスの教えに非常に似ているように思われました。私はこの二人の方の教えのあいだにある類似性について深いフィーリングを起こしましたために、私はかりでなくあらゆる人にとってアダムスキーが特別な人であり、彼の人生が重大なものであったことを確信するようになったのです。

ジョージ・アダムスキーとは一体何者であったのか？ 私は心から彼に会う

て待ちきれない思いをしました。最初の夜、多くの人が出席して公開講演が行なわれました。私たちが初めてアダムスキーに実際に会うことができたのはその翌日で、友人の家の昼食会に集まったときです。それはたしか二十名ぐらいの非公式の集まりで、友好的なあたたかい雰囲気になっていました。

## 初めてアダムスキーと会う

ある遠い町にいる親しい友人がアダムスキーのスパンサーになりましたので、アダムスキーはその町へ講演に来ることになりました。別な一人の友人と一緒に私は車で終日八時間以上もドライブしてそこへ行ったのです。アダムスキーを迎えて三つの行事が計画されていきました。私たちは彼に会いたく

私たちのほとんどはリビングルームにおりましたが、そこには所狭しとばかりに椅子が置かれていました。アダムスキーは食事用の場所で数名の男性とともに心地よさそうに座っていました。食事はおいしかったです。私はひどく興奮して食べられませんでした。アダムスキーはすでに彼の持つ魅力とカリスマ性でもって私の心をとらえていたのです。

コーヒーが出されたあと、私はダイニングルームの入口の所に静かに残って、だれにも面倒をかけることなしに





話していたアダムスキーの話の内容を聞きとろうとしていました。しかしアダムスキーは顔を上げて偶然に私の目をとらえたのです。彼はチャリと私を見て、それから話を続けました。

それからもう一度、あの深味のある、人の心をとらえるような黒いまなざしが鋭く私を見つめていました。三度ほどアダムスキーは顔をむこうへ向けて、それから私の視線と彼の視線が会い続けたのです。私の目は揺れ動くことなく、実際は彼の注意深い凝視から私を解放するまでは彼の目から私の目をそむけることはできなかったのです。

それは不安なフィーリングでした。大団体に今までにそのようなフィーリングは起こったことがなく、私にはそれが理解できなかったからです。

私は着物を脱いでハダカになったようには感じませんでした。心の中は、まるで私の自我そのもの、私のあらゆる想念、フィーリングなどがハダカにされたかのような気分になったのです。彼が私を見つめたときに彼の心の中に何が流れていたかを、そのとき私が述べるのはむづかしかつただろうと思います。

回想してみますと、彼にとつては、それが真実そのものだというふうな私を「認識した」のだと私は確信しました。それ以来何度も私はこれと同じ凝視を感じましたが、彼がその凝視の目を説明した後、私は彼が注目してく

れたことに対して謙虚になり、名譽あることだと、それだけを感じていました。

### 他人のすべてを見透した 大超能力者アダムスキー

『宇宙からの訪問者』の中に、スペース・ブラザーズはアダムスキーのあらゆる想念を見透すことができたとしてあるのを皆さんは覚えていらつしやいますか？そしてブラザーズがアダムスキーの心の中にどのような想念を見出し、アダムスキーを非難しなかったことをアダムスキーも知っていた、ということ覚えていらつしやいますか？皆さん、アダムスキーも実はこのことが（他人の心を見抜くことが）できたのです。そしてあの日、ダイニングルームの入口で、私はこのような事が発生すればどんな感じがするかを体験したのでした！

次のようなことが何度も言われてきました。「目は魂の鏡である」と。これは文字どおり真実です！各個人の魂の内部には本人の生活の完全な記録があります。この生涯ばかりでなく、過去世のあらゆる生涯の記録です。

充分な理解力を持つ人ならば、『宇宙的記憶』である『生命の書物』から内容を読みとることができのですが、アダムスキーによれば、地球でこれができる人はほとんどいないということ



です。

『魂』というものは気心の合う人に対しては、その本人のもろもろの体験を洩らすのです。一人の人間を調べることよってジョージ・アダムスキーは、その人の過去世、どんな運命をカルマとして背負っているか、どんな能力を本人が持っているか、どのような失敗をやってきたか、本人がどんな人々につきあってきたか、などを知ることができたのです。アダムスキーは自分自身の事に関しても、この事（過去世その他の事）を知ることができました。このようにして彼は別な生涯でまじわった人々を識別することができたのです。

アダムスキーが教えを伝えた初期の頃、すなわち宇宙船（スカウト・シツプ）が彼に会うために砂漠に着陸する以前の頃、彼は以上のような能力を用いて多くの人に助言をしました。彼は通常、他人を助けようとしたときには、難問を解決するにはどうすればよいかを大要明瞭に話すことができました。

### 驚くべき博識とテレパシー能力

（話は元へ戻って）その日の午後、私たちは非公式にアダムスキーが語るのをほとんど三時間聞きました。私は彼のすぐ近くの小さな階段のステップに座りました。ダイニングルームの会合のあと、私は何を期待したらよいの

かわかりませんでした。アダムスキーはもう私に注意を払いませんでした。私はこの人を注意深く観察し、彼の深い英知と理解力の源泉を探り出そうとしたことを思い出すことができました。

このときまでに私は、彼が普通の人間ではないことを確信していました。これまで彼のような人に会ったことは全然ありません。私たちがどんな話題にふれたかは問題ではなく、アダムスキーは完べきに博識で、自分の所見を説明しようとしているようでした。

彼はすぐれたユーモアのセンスを持っており、聖人ぶった態度とはかけ離れていました。私は、彼が自分の考えを説明するのに聖書を引用する能力に特に注目しました。彼はこんなこともやれましたし、しかも私が知っていた牧師さんたちよりもうまく説明していましたが、非常に異なる力強さを示していました。驚いたことにそれは全く宗教的なものではなかったのです。

創造主やあらゆる生き物、生命のあらゆる微小な部分に対する彼の尊敬感の強力な証拠がありました。万人に対する彼の深い関心や、人類とこの世界に対する彼の愛などを人は容易に感じることはできませんでした。彼の考え方には論理と秩序という新鮮な輪がはめられており、常識というものを帯びていません。このことは、こうした新しい考え方や概念を計るのに良い方法だと思われました。

アダムスキーが語る話は、私たちのだれもが知っているような話題に向けられましたが、アダムスキーの説明はみんながよく知っているような内容どころではなく、はるかに詳しく、すべてに渡るような内容でした。

その日初めて私は次の事に気付きました。これは後にアダムスキーとともに活動するようになってからは普通の事になったのですが、彼が話すにつれて人々が驚くような物事を簡単に「知る」という異常な能力、そして人々から質問が出される前でさえも、すでにその質問に答えてしまうというような能力です。

ここには私に多くの解答を与えてくれると私が思った一人の人物がいたのです。またここには私にとって未知の人ではないような、すでに私が一種の親密さを感じていたような人がいたのです。しかしまだ個人的な会話の時間はありませんでした。

以上がジョージ・アダムスキーに対する私の前置きです。

### 講演会場にきた三人のスペース・ピープル

その夜、このディナーパーティーが終わったあと、ついにアダムスキーと個人的に話し合う機会がありました。彼は各個人と話すことに関心があるようでしたが、ただしいかなるときでもだれか一人だけを選び出すとはせず、

出席している人たちが近寄りやすい状況にあるときは自分のそばへ招き寄せていました。

私の若い仲間と私がアダムスキーの注意を引くことができたとき、私はすぐにその好機会をつかみました。実は前夜の公開講演で胸のわくわくするような体験がありましたので、そのことについてアダムスキーに質問したので

す。その出来事は次のように起こりました。講演が始まる前、人々が会場へ到着していたあいだ、友達と私は絶えず鳴り響いている近くの電話に出ることができるよう中央廊下の近くにいました。事務所の出入口に立ちながら私は戸口の所に立っているのは多くの時間を無駄にしているように思われました。電話が鳴ればそれを聞くことができますし、しかもそれは仕事のなかの一部分にすぎないのです。

アダムスキーが公開の講演をするときはスペース・ピープル（異星人）が必ずやって来るということが私たちにわかっていましたので、会場へ来る人たちを見つめていて、ブラザーズ（友好的な異星人）を見つけることができました。私にはそれがむづかしいことがわかっていました。というのは、ブラザーズは地球人と全く同じように見えるというところをアダムスキーの本の中で読んでいたからです。しかし「虎穴に入



「らずんば虎兎を得ず」という言葉があります（訳注IIが女史は日本語で発音した）。つまり冒険をしなければ何も得られないという意味です。

それで私は見つめ続けました。一方、私の友達は電話に応答しながら残っていました。時間が経過し、人々が続々とやってきました。会合の時間が切迫して私の望みは薄らいできました。

一時的なときれがあつて、続いて最後になって三人の男の人がドアの所を通り抜けて入って来て、切符を買うためにちよつと立ち止まりました。その短い合間に、私の内部で何かが警告しましたので、私は自分の目で探すようにして、その三人のあとに続きました。

彼らがバルコニーへ通じる階段を急いで登るにつれて、私は奇妙な確信をもつて、この三人がブラザーズにちがいないことがわかりました。一人のグレイのツイードの外套の背中が階段を登り、視界から消えるにつれて、釘づけになった私の視線によって外套の生地が焼けて穴があきそうになったことでしょう。それほどまでに外套の背中を凝視し続けたのです。

この人たちがその夜会場へ入った最後のお客さんでした。私はそのあと、それ以上の重要な点を見出しませんでした。

講演が終わったあと、アダムスキーがステージからゆつくりとロビーの方

へ向かつて通路を歩いて行くあいだ、聴衆は彼に質問をし続けましたので、そのたびに彼は立ち止まって回答していました。

最後になって、熱心な小グループがなおもドアの近くに居残つて、もつと多くの知識情報を得ようとしていましたとき、私はあの三人の男の人が静かに立っているのに気付きました。

三人はすぐうしろに立っていました。その主なグループの片側にくつつき、なおもその一部分をなしていました。三人は会話には加わらず、ただ黙って立ったまま話を聞いているだけでした。

ていねいに、そしてできるだけ控えめに私は三人の男の人を観察しようと思いました。私にとつて、その三人はアダムスキーが「全くわれわれと同様だ」と述べた姿のように見えました。

その人たちはみな黒のビジネススーツを着ており、無帽でした。彼らの髪は私たちの習慣的なスタイルどおりに短く刈つてあり、きれいにブラシがかけてあります。

私が立っていた場所に最も近い男の人の注意を引くことを私は望んだのですが、その人は例のグレイのツイードの外套を着ていました。その人の髪は色が砂色で、目の色はグレイでした。クツは黒で、きれいではあったのですが、私は特にそのクツが思ったほどきれいに磨いてないことに気付いたので

す。これはわざとそうしているのかもきれいな外観だと思われました。磨きあげたきれいな外観だつたらもつと目立ったかも知れません。このスペース・ブラザーズはうしろの方にいて、必要以上の注意を引くような物事を避けねばならなかつたのです。

私を認めてくれることを望みながら私はこの男の人の目を直接にのぞき込もうとしました。それは確実に認められる手段になることがわかつていたのです。しかしその人は私と目が会うことを避けて、わざと自分の足のまわり一帯を観察し続けていました。

私が受けていた強い印象からみて、相手は私の心の中を読み取つていたこととは明白でした。それで私は解答を得たのです！ 大いなる喜びが全身に満ち溢れました！ 彼がかりに確証するような言葉を出してくれたとしても、これ以上に私を納得させないでしょう。

それは最高に胸のはずむようなことでしたが、私の秘密を洩らそうという考えはありませんでした。これは私のためばかりでなく彼らのためでもあるからです。ひどく気の進まぬことながら私は自分の視線をアダムスキーと、質疑応答を続けているグループの方へ向けました。

他のあらゆる人と同様に私もそのグループに「もうやめて下さい」とは言いたくなかつたのですが、すでに時間が遅いですし、責任者である私の友人

はアダムスキーが立っていた場所へ行くことができず、しつこく私の腕を引っぱるのです。それで私はアダムスキーに話しかけて、一同は立ち去る準備をしました。

私たちが家に向かつて出発するとき、あの三人の男の人はまたもドアを出て行った最後の人たちとなりました。外へ出てから私は三人の男の人たちが車の方へゆつくり歩いて行くとき、そこへ行って挨拶をしようと思死になつてしまいました。しかし私は自分の気持ちを抑えました。というのは、彼らはこれ以上私たちと話し合おうとはしてないことがよくわかつていたからです。

### スペース・ピールは危険を冒さない

さて話をディナーパーティーにもどしましょう。私はアダムスキーに尋ねました。

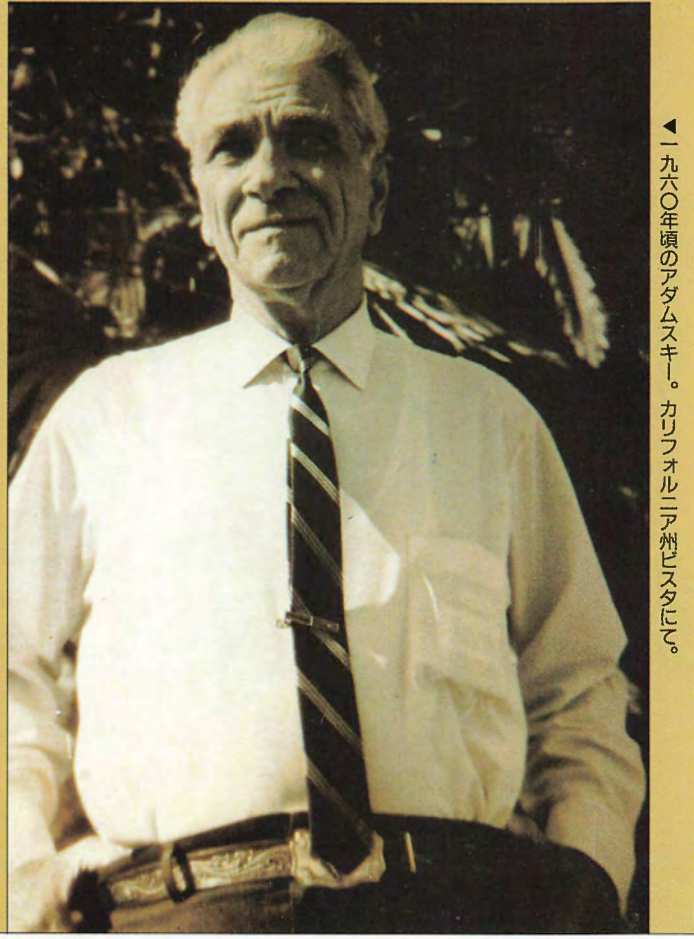
「講演会のときにブラザーズが来ていましたか？」

「ただちに彼は反応を示して言いました。「あなたが見たとおりのことを話さない」

彼は声ははずませて要求しました。「あなたの言っていることが正しければ話してあげよう」

私とその男の人たちのことや私の反応について話しますと、アダムスキーはたいそう喜んで言いました。「そうだ。あの人たちはブラザーズだ





◀一九六〇年頃のアダムスキー。カリフォルニア州ピスタにて。

つたのだ」

静かに思い返しながらアダムスキーは優しく説明しました。彼らはアダムスキーの講演のときにはいつもやって来て、彼の奮闘を支え、可能な場合は彼を援助するというのです。アダムスキーは彼らがいることをいつも知っており、彼はいつも三人のブラザーズに気付けているのだと語りました。

「なぜ彼らは私を認めようとしなかったのですか？」と私は熱意をこめて尋ねました。

「彼らは、あなたが何をしでかすか、よくわからなかつたんだ」とアダムスキーが答えます。

「でも彼らは私を信用できることが、わかっていたはずですよ」と私は続けました。

「いや、彼らは一か八かやってみる(危険を冒す)ようなことはしないんだ。彼らは地球人の心をわれわれが知っている以上に、はるかによく知っている。もしあなたが興奮してそのことを他人にしゃべって、そのために彼らが気づかれてしまったならば、彼らは地球での仕事が完了しないうちに故郷の惑星へ帰らねばならなくなるだろう」

私はこのとき次のことを大変良く理解しました。つまりこの人たち(スペース・ピープル)とともに働くことや、

この人たちにとって本当に役立つために何をすればよいかを知ることがいかに重大であるかという点です。それは賢明な洞察力ばかりでなく献身的態度をも必要とします。私がそれを身につけていたかどうかはよくわかりません。

その後、他の公開講演(複数)でアダムスキーと私が一緒におりましたとき、またもあのブラザーズを見かける機会がありました。そしてアダムスキーによれば私は彼らに気づいたということ。何度も彼らは私たちに話しかけるのだけれども、私たちはその正体に気づかないというアダムスキーの言葉が私にはよくわかります。しかし私の知る限り、私はまだスペース・ブラザーズに個人的に話しかけたことはありません。

### 人間個人がみな大宇宙

私はイエスの教えのほとんど完璧な実践見本であった両親のもとにキリスト教徒の家庭で成長しました。私が大変愛しているものもその価値あるものは幼少の頃から身につけたものであり、当時でさえも生命の基本的な真理を探求しようとしていたのですが、そうした態度から身についたものです。

これらの原理のすべては私たちがアダムスキーとともにいたあいだに話されました。彼は、私が言ったりしたりした事にしたがって私の信じている事に

ついて、ときどき私に質問したものでした。そして彼は私の生き方はブラザーズの生き方にしたがっていると喜んでくれました。

アダムスキーが私たちと一緒にいたとき、静かな哲学の話のあいだに、彼が何度も説明してくれた二、三の重要なポイントがありました。もし他人を助けようという態度や、自分ばかりでなく全人類を高める方法などを身につけていなければ、宇宙的な生活のすごし方についてどんなに学んでも、それは重要ではありません。

アダムスキーは「自分がこう言ったからというので、それをすぐ信じ込むようなことはするな」と私たちに注意していました。「常にまずそれを分析しなさい」と彼は激励したものです。

「そしてそれから自分自身の結論を引き出しなさい。こんなふうにするれば、あなた方は、ただ信ずるだけではなく、知る」ようになるだろう」と。

討論においてアダムスキーはしばしば次のように宣言しました。「私はあなたの方に何も教えることはできない。何もできない！」と彼は強調しました。「私はあなた方の内部にすでに持っている物をあなたの方に気付かせるだけだ」

彼はこうした事柄について非常に強く感じていました。なぜなら彼はあらゆる人に本人自身の内在する力と本人自身の価値を認めさせようとしていた



からです。彼はいつも他人よりも自分を偉大にしようとはしませんでした。

「自分を知らないさい。そうすればすべてがわかるだろう」という言葉を彼はよく引用しました。

自己を研究することは非常に重要で、人体はこんにち世の中で最も精妙な装置でして、生命におけるあらゆるものを表現することができます。

彼の考え方は宇宙的なものでした。すなわち、あらゆる人間はまず第一に、現れている生命の「宇宙的な意識体」であるという考え方です。

「あなた方が大宇宙なのだ」と彼はよく言っていました。みなさん方の内部に全宇宙のあらゆる情報と体験が内在しているのです。「あなた方はそれに気付くようになり、それを引き出して応用しさえすればよいのだ」と彼は言っていました。

続いてアダムスキーは私たちの心の中に、万人の間で働いている「宇宙力」のイメージを創り出したものです。

あらゆる人間は生徒であるばかりでなく教師でもあるのです。なぜなら、私たちはこうした事柄を話し合うとき、自分から自発的に与えているからで、そしてかわって各人が他人から受け取るようにしているからです。

私たちがこのことに気付くようになりさえすれば、そしてそれによって生きていることを学びさえすれば、いつか各人は自分自身の教師になるでしょう。

私たちに必要なすべてのものは、すでに私たちの内部に実際にあるからです。

以上がアダムスキーの伝えた、簡潔ながらも最も重要な真理の一部です。

### アダムスキーは原稿なしで講演をやっていた

皆さん方は私がお話するのに数頁の原稿を用意していることにお気付きでしょう。アダムスキーは決して原稿を用いませんでした。彼はいつも皮製のフォルダー（紙ばさみ）を持ち歩いていましたが、それには彼の重要な書類や手紙などが入っていました。

講演をしている間に彼がこれらの書類を引用しようと思ったときは、彼は上衣の内ポケットに手を入れて、その皮ケースを引つ張り出し、注意深く内容を調べて、望みの箇所を選び出します。ゆつくりと注意深く彼は関係のある部分を読みます。

それから書類はみなフォルダーの中へ戻されて、フォルダーはふたたび彼の上衣の内側に入ります。しかし事前に原稿を用意したことはありません。この賢明な方法によって彼は生で話したのです！ それは彼にとつて非常に簡単なことでした。

彼は聴衆を見渡して、話しながらみんなを見つめ、話を進めるにつれてテレパシーでみんなの想念や質問をピツクアップしていました。こんなふうにして彼は聴衆が何を必要としているか、

何を聴きたがっているかを正確に知っていたのです。

ときどき彼は、もし緊急のメッセージを得た場合、急に話をやめて全く違う話題に入つてゆくことがありました。彼が何をやろうとしているか、そしてそれを行なうための彼の方法はどんなものか、などを一度理解すれば、彼の態度を見つめるのは大変興味深いことでした。

### テープ録音を消したスペースブラザーズ

アダムスキーはいつも自分の話を録音してもらいたがった人で、だれかが録音の許可を求めるといつも喜んで許可を与えました。

大変多くの聴衆が出席したある公開講演会に、テープ録音をするためにはどんな事でもやりかねない空軍の将校が二名来ていました。彼らは録音の許可を得ようとはしませんでした。許可されないだろうと思つていたので、彼らはテープレコーダーを上衣の下に隠してこっそりと会場へ持ち込んだのです。

「あとがどうなったかわかりますか？」とアダムスキーは勢いづいて聞きます。彼はこの話をするのが好きでした。彼はくすくす笑いながらとても楽しそうにしている少年のように見えました。「ブラザーズはそのテープを消してしまつたのです。彼らのテクノロジに

よれば、こんなことはたいそう簡単にやれるのです。あとでその将校たちがテープを再生しようとしたら、テープは空白になっていました。何も録音されていなかったのです。彼らが許可を求めさえしたら、あらゆる事がうまくいって、彼らはテープに録音することができたでしょう」とアダムスキーは説明しました。

ブラザーズがアダムスキーと働いているときには不可能な事はほとんどありません。それは「香を盗む者は香にあらわる」(訳注)香料を盗む者は香料の匂いがする、つまり罪というものは外に現れるの意」という言葉を強調するのによい例でした。

賢明であるばかりでなく、ブラザーズは気楽で楽しさに溢れていました。そして彼らはアダムスキーと同じほどに、このようなちよつとしたいたはずらを楽しんだのです。

### 人工衛星の作り方を空軍に教える

空軍に関してお伝えできる全然別な話があります。アメリカがアリゾナ州の空軍研究センターから最初の人工衛星を打ち上げたとき、それは外側が金で覆われた二十一インチ(約五十二センチ)の球体でした。当局は宇宙空間のチリが金をひつかくのを防ぐため、表面からマイナスの電気を放射させました。

宇宙空間のあらゆるチリはマイナスです。マイナスはマイナスに反発します。だから世の中の女たちはうまくやっつてゆけないのです。女たちは互いに反発し合うからです。同じことがプラスの側にある男たちにもあてはまりません。

米当局はその人工衛星に百万ドル相当の装置を積み込みました。しかし当局がそれをテストするたびに装置の部品が焼けるのです。彼らは法則の一方の例だけを応用していたのです。そうでしょう？

そこで彼らはアダムスキーの所へ行き、どこが悪いのかと尋ねました。彼は、あなた方がどんな事をやったのか話して下さいと言いましたら、彼らは言いました。「言えませんが、それは極秘です」と。

「よろしい。あなた方が持っている物について私に話さなければ、どこが悪いかを言うわけにはゆきません」と言いましたら、彼らはいくつも話しました。そこでアダムスキーは説明しました。

「あなた方は外側へ作用して放射するマイナスのフィールドを作っています。マイナスのフィールドが起るとすぐにプラスのフィールドはそれ自体をどこかで作り出します。この場合、それは装置の表面にできますので、あなた方は装置をニュートラルにしようとしてます。さあ、どうすればよいでしょうか」

彼は言いました。「もう一つ別な球体を作って、それを球体の内部に入れて、両方を絶縁しない。そうすれば両方の球体は全く互いに干渉し合いません。マイナスのフィールドが外側へ流れるや否やプラスのフィールドは第二の球体の内側の壁にそれ自体を作り出します。そこで中心部はニュートラルになり、装置類はうまく作動します。」

### 心を訓練する方法と、信ずること、知ることの差

人間の心を内部の深いフィリリングと結びつけるように訓練し、内部の意識と一体化するように訓練することは大変むづかしいことです。人間がまじめで、本当に続けて努力しようとして、このことを行なうのには長い年月を要します。

アダムスキーは次のように説明しました。一個人は理解力において本当に進歩するために、ほんの小さな一つのアイデアをも取り上げることができ、あるいは別な進歩の段階に入るのに一千年かかるかもしれない。私はここで時間の永遠性、つまり永遠の進歩について話しております。日々のありふれた出来事についてお話ししているではありません。

人間はアダムスキーがすごしたのと同じような全生涯をすごすことができます。そしてただ一人の他人が本当に

救われれば、あなたの生活は軽くなったことになり、それがそれは何と困難なことか」とアダムスキーはよく言っていました。

私たちは、本人の物事がうまくゆかなかったかもしれないようなときに、それだけの価値があったとアダムスキーが感じていたかどうかと長い年月を通じて何度も想像してみただけです。しかし私は物事を長い目で見て、アダムスキーは確かにそう感じていたと思います。

人間の心が信ずるといふことと、意識が知っているとこととのあいだには大変な相違があります。この二つの力を結びつけて一体化させることにいてスペース・ブラザーズが話される場合、私たちはブラザーズが何を言っているかを、ここでもっと良く理解することができず。

そこには一定のパターンがあるので、アダムスキーはそれを父性原理と母性原理という言葉で説明しました。それは「原因と結果」でもありません。

「スペース・ピープルがやっているように、あなた方もその二つ（心と意識）を一体化させなければ、あなた方がやっている物事の努力はむなしなものになる。母なる地球は父なる創造主と同じほどに聖なるものなのだ」と彼は言っています。

心を訓練するには二つの異なる方法があります。一つの方法は、心を訓練

するのには、心に「聞かせる」ようにする方法です。たとえば、私たちが病気になる時、私たちが「私は調子がよい。私は健康で丈夫だ。生命の意識が私の内部に溢れていて、絶えず生命をよみがえらせている」と言えばよいのです。もし私たちがこれをひんぱんに唱え続け、しかも充分な信念をもつて唱えらば、その言葉が体にしみ込んで私たちは健康になります。しかし私たちはときどきトラブルを起こして、そのような言葉を受け入れるのを拒んだりします。

もう一つの方法は、心が開放的になつていて受容的であるとき、意識が心に警告する方法です。それは緩慢ですが、たぶんより以上に確実な手段です。三番目の方法は、心と意識を一体化させるのですが、それには二つを組み合わせてしまうのです。この場合、心は常に開放的になって意識から来る印象に対して受容的になるように心を作らして訓練しなければなりません。これだけは大変にむづかしい事です。

学ぼうとまじめに努力している人は次の事に気付けてください。まず第一に、心は何か新しい物、見なれない物、今までに見た物とは異なる物、心が理解していない物などに注意を向けねばならない、ということなのです。これは単なる知覚または概念にすぎません。

するとある日、たぶん偶然の観察がなされて、次のような考え方と関連の



ある想念が不意に顔を出すかもしれない。「それは以前に心が推論しなかつた事かもしれないが、心は実際にはこれを信じているのだ」

そこで次の段階は、続いて真実が出てくるということを充分に認めて、自分の内部で深く「知る」ことになるのです。そこで「信ずる」ということと「知る」ということの差は、どのようにしてわかるのでしょうか？

ここでアダムスキーがよく言っていたような一例をあげましょう。かりに私が久保田さんと京都へ観光に行くことになっていると言つたとします。皆さん方は私の言葉を信ずるでしょう。皆さんは私が言っていることを疑いません。そこにはある種類の容認があります。

しかしもし私が太陽が明日の朝昇るでしようと言つたとしたら、皆さんはそれが真実であることを「知る」でしょう。この違いがわかりますか？

初めの「信ずる」ということはセンスマインド（感覚器官類によつて形成される心。普通という心）から来るもので、あとの「知る」という行為は内部のハート（魂）から来るものです。したがって私たちは心に対してただ信ずるだけでなしに、「知る」ように訓練しなければなりません。

皆さんがまじめに真理を探求されません場合、皆さんは以上のような二つの異なる面を通ることになるでしょう。

まず知覚し、「ハテナ？」と考えてみることで。それから私たちはときどきいろいろな異なる体験を持ちます。そして多くの考えが心を通過します。そうすると、ゆつくりと真理が現れてくるのです。

すると突然あらゆる事がハメ絵パズルのコマのように適当な位置に並びます。続いて太陽が昇るように自分の内部にフィーリングが起ります。「意識」という太陽があなた方の胸の中に昇ってきて、その光を散らし、そしてあなた方の全身に輝いて、あなた方は「知る」ことになるのです。あなた方はかつてないほどの大いなる方法で理解するでしょう！そこには魂の高揚がありますし、あなた方の全身の内部で感じられる「一体化」の認識があります。あなた方は日常の物事を行ないますが、ある日「ハテナ？」という気分が起り始めて、以上の手順が始まるのです。

これが進歩です。私たちが理解して充分に知るようになる物事だけを、私たちは次の生涯に持ち越すことができます。私たちが気付いて信じているにすぎないような事柄でも、やはりいつか別な体験を通じて受け入れて吸収されねばなりません。それはたぶん別な生涯で吸収されるかもしれません。

しかしアダムスキーはよく次のように言っていました。「なぜ急ぐのだ。われわれはみな永遠

性を持つているのだ。忍耐力こそあなたの必要とするすべてだ。ゆつくりとやってゆくほうがよい。一度に一つの事だけをやり、それを徹底的に学ぶことだ。急ぐのあまり、別な時にふたたび学ばねばならないような重要な事を見失つてはいけない。あらゆる生命はゆつくりとした確実な進歩をしてゆくのだ」

## 物が進歩してゆくパターン

すべての生命における進歩は同じパターンに従います。進歩する物質に関してアダムスキーがよく語っていた話があります。アダムスキーは次のような話をするのを好んでいました。これはプラザーズの法則の諸原理を説明する日常の体験に関する簡単な話です。アダムスキーは話し始めました。第一段階の領域は地中の鉱物と宇宙空間の化学上の元素類で、これらは第一学年と呼ばれてよいものです。

それらは植物帯において植物によつて吸収されます。たとえば草の葉によつて吸収されるのです。

さて次に第二段階の領域があります。先程の基本的な元素をその生命の中に吸収した草の葉は、その元素にもっと高度な体験と成長を与えます。

「さあ今度は」とアダムスキーは続けます。「一頭の牛がやって来て、その草の葉を食べます。そこでその草の葉

はその牛の体の一部分になり、第三番目の段階である動物界でもつとはるかに大きな物事を体験します。

もしその草の葉が牛によつて食べられなかつたならば、それはおそらくしばらく枯れてしまつて、それだけの体験に終わるでしょう。しかし牛がそれを食べたために、その草の葉は別な段階にまで進歩し、牛の体の一部分になったのです。

「さて」とアダムスキーは言います。このときまでにはアダムスキーもその問題に対して十分に熟を上げていて、彼の声は興奮して響きます。

「さあ今度は私たち人間がやって来てその牛を殺し、それを食べます！そこでその牛はかわつて私たち人間を通じてもつと多くの体験をします。それは牛自身であるよりもつと大きな体験です。各部分がいかにか互いに頼り合っているかに注目して下さい。あらゆる生命は相互に関係があるのです」

ここには根本的な原理、すなわち一つのパターンがあります。人間もより大いなる物に向かつて一段一段と進歩することを学んでいるのです。

子供の頃、私たちはみな学校へ行き、生長して学ぶにつれて学年から学年へと進級してゆきます。人間は食べる食物によるばかりではなく、自分が持つさまざまな体験、絶えず増大する理解力、同胞とのまじわりにおける表現などによつても成長してゆくのです。人

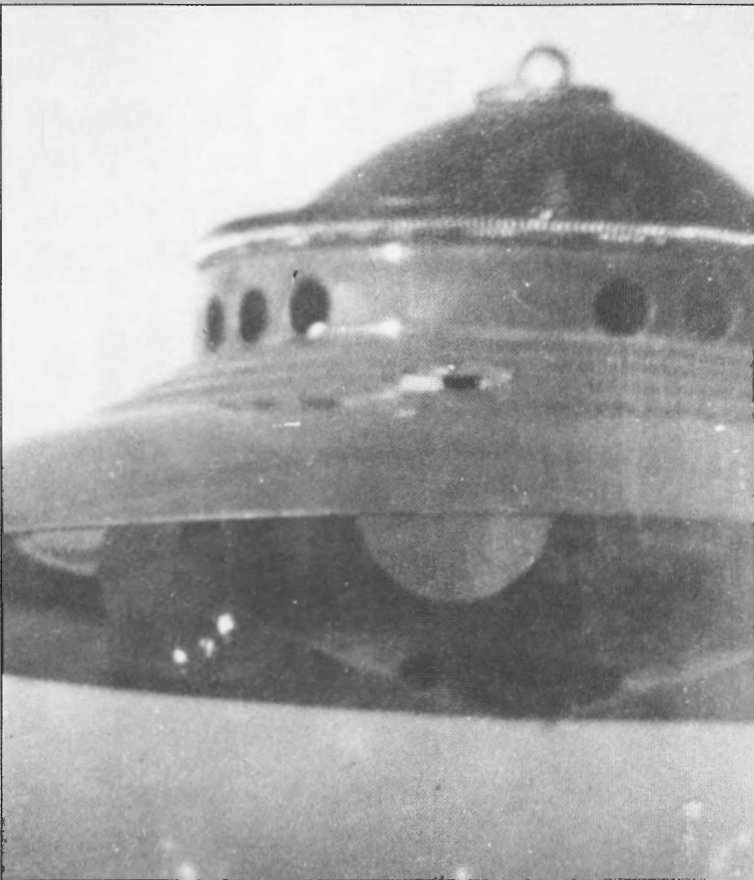
間の成長はより、大きな肉体になることではなく、万物のより、大いなる理解力を持つように成長してゆくことにあります。

スペース・ブラザーズは、彼らの惑星では地球のように短い年月ではなく、生涯を通じて絶えず勉強し、学ぶのだと言っています。私たちも今日ではブラザーズがやっているのと同じように学んでいると言っています。

### 自然界が人間の指導者

もっとも広大なスケールで言えば、人間は気付こうと気付くまいと、常に学びながら常に成長しながら、一生涯から別な生涯へ進歩してゆきます。そして常により高度な運命を持ち、より困難な目標に向かうのです。文明もまた同じパターンに従って同じようにして進歩するのです。

◀一九五二年十二月十三日午前九時十分頃、米カリフォルニア州パロマー山のパロマー・ガイデンスでアダムスキーが六インチ反射望遠鏡で撮影した金星のスカウト・シッフ円盤。このタイプのUFPOは世界各地で目撃・撮影されており、「アダムスキー型円盤」と呼ばれている。



ブラザーズは次のように語りました。長い時代を通じて、新しい時代が到来するごとに私たちは地球人類のための大いなるメッセージをたずさえた新しい指導者が与えられてきたと。

しかし必ずしも異なる生涯において異なる指導者ではなくて、いつも同じ指導者だとしたらどうでしょうか？

私はこの日本においてこのことをお話しできるのです。というのは、いわゆる転生（生まれかわり）についての皆さん方の理解と受け入れ方は、アメリカにおけるよりも大きいからです。

この日本におきましては、アダムスキーが自然界について語った重要なポイントのいくつかを語ることにし、ジョージ・アダムスキーの業績についてお話をするわけにはゆきません。これは宇宙の法則の最も重要な一部分です。私たちは大自然が教師であるという考え方を無視していますが、人間は今日、自分が知っている物事を教えられたのは、最初に「自然」によって教えられたからです。人間は「自然」とともに働くことができるのであって、「自然」は人間が求めている解答を人間に与えてくれるのです。

### アダムスキーは世界中の米軍基地へ入れる許可証を持っていた

アダムスキーがスペース・ブラザーズに会った後の奉仕活動の全年月を通じて、彼を公然と非難したりサギ師だ

と言ったりした人たちがいました。彼の体験は世界の主な国々すべての政府や軍隊によって受け入れられ、手本として応用されましたけれども、人々は依然として彼をインチキだと言って繰り返し非難しました。

アダムスキーがこうまで迫害を受けたという事実そのものが、彼が真実を知っていたということを証明しています。政府は重要な事を知っていない人を沈黙させようとはしません。政府や軍部はアダムスキーという人物と、彼の情報の源泉をよく知っていました。しかし政府も軍部も常に彼を恐れていました。なぜなら彼らはアダムスキーが次に何を言い出すか、どこで、だれに洩らすかが全くわからなかったからです。

アダムスキーは世界中の米軍基地へ入れるための正式な許可証を持っていました。これは小さな事ではありません。このような身分証明と特権は普通のことではないのです。彼は私にその証明書を見せてくれましたし、どこへ行くにも財布の中に入れていつも持ち歩いていました。

彼は当局が彼を信用し、彼を頼りにしていたことを正当なことながら誇りにしていましたが、自分を重要人物だとは思っていませんでした。

### カリフォルニア工科大学からアダムスキーに教授資格をノ



あるときアダムスキーは、世界的に有名な学校であるカリフォルニア工科大学から教授の資格を与えようという申し出を受けたことがあります。また彼はアメリカ政府の各種官庁から経済的その他の援助をしてあげようといわれたこともあります。

しかし彼はこれらのすべてを断りました。それはスペース・ブラザーズが依頼した仕事を行なうために自由な立場にあることを望んだからです。彼がそれらの名譽や援助を受け入れたならば、彼が伝えねばならなかった事柄や、その情報の源泉を関係者たちが検閲する権利を持つようになることが彼にわかっていました。

またポーランド政府も、もしアダムスキーがポーランドへ行くならば、彼のお父さんの所有地から定住地を与えてあげようと申し出たのですが、彼はポーランドへは行きませんでした。というのはポーランドはソ連の影響下にありますので、ソ連がアメリカへ帰らせないだろうと考えたからです。

私たちは、アダムスキーがブラザーズとの仕事があつたために、いろいろな難儀な目にあつたことや、感情的な衝突があつたことをただ想像してみるだけです。彼は自分の仕事以外にはお金も財源もなかつた人です。そして彼は、人は書物を書きながら生活することはできないと何度も言っていました。彼を信じていた人たちからどんな

に多くの援助を受けたかを知っている人はほとんどいません。彼が誘惑されたことが何度かあつたと私は思います。アダムスキーは私たちのだれもと同じような人間であり、そして私たちのだれもが扱わねばならないのと同じような感情の苦しみを味わつたのです。

若い時代における彼を知っていた人たちで、彼はすぐエゴが強かつたと言う人がありますが、私はその証拠をほとんど見たことはありません。彼は常に自分の責任について、その重要性をよく心得ていましたが、同時にスペース・ブラザーズと活動できる特権に感謝していました。私が彼を知っていた最後の数年間にはたぶん彼は円熟していたと思いますし、また、たぶん彼はその頃までには必要な地球上のレッスンを学んでいたと思います。

### 偉大な人物とみなされるのを好まなかつたアダムスキー

何かのグループまたは団体間の闘争やトラブルは、すべて「言葉による戦い」です。私たちは互いに殺し合うこととはしませんが、互いの考え方を殺し、このような人間同士の交わりを通じて可能であつたかもしれない調和ある活動または体験を無価値にしてしまします。しかししもつと良い方法があるかもしれません。スペース・ブラザーズはアダムスキーを通じて、そのことを何人も私たちに示しました。

アダムスキーはいつもスペース・ブラザーズとのコンタクトのための時間と場所を非常に注意深く残していました。彼はどこへ旅してもブラザーズから来るかもしれないメッセージに注意を向けていました。

彼はいつもホテルかモーテルに宿泊しました。こうすればブラザーズは多少とも気付かれないで公共の場所に自由に入ってきて、彼らはアダムスキーを訪ねて個人的に物事を話し合うことができます。もし彼が個人の家に泊まれば、他人に知られないでブラザーズと話し合うことはできません。

ジョージ・アダムスキーにとつて大変重要な事が三つあります。彼が何度も述べていたことですが、大切なのは話題の的になつた宇宙船の来訪ではなく、この地球の人類の向上のためのメッセージであり、これが最も重要だといふのです。

彼は自分を偉大な人物とみなされたり、銅像の台座の上に据えられて神のように扱われることを全然望んでいませんでした。彼はいつも普通人であろうとしましたし、ブラザーズの教えから宗教が作られることを望んでいませんでした。

これら二つの事はイエスに対して起こつたことでして、アダムスキーはこのことを非常に気にしていました。ブラザーズは宇宙の法則が全人類に開かれることを望んでいたのです。アダム

スキーが説明したことです。長い時代を通じて、人々は予言者たちや指導者たちがもたらした本當のメッセージを忘れることが多すぎたのです。人々は指導者を神として崇拜し、教えよりもその神のまわりに宗教を作りました。「逆なことになつてしまふんだ！」とアダムスキーは力をこめて言っていました。

### スペース・ピープルがアダムスキーの生涯を導いていた

彼がまだ幼児であつた頃、アメリカ合衆国に向けて船で出る前に波止場で彼に会つた男の人は明らかにスペース・ブラザーでした。その人はアダムスキーをつれて散歩をし、一袋のキャンディーをくれました。アダムスキーはこの事を決して忘れることはなく、そのたぐいのキャンディーはいつも好物でした。アダムスキーが私に語つたところによりますと、彼がアメリカに来た後に、それと同じ人がアダムスキーに会つて、またも彼を散歩につれて出たといふことです。アダムスキーがチベットで数年をすごすように手配したのはこの人だったのでしようか。アダムスキーが初期に教えていた頃は彼は定期的にロサンジェルズへ出かけて、彼が「マスター」と呼んでいた別な指導者たちと会つていました。この人たちがスペース・ピープルであつたことはまず間違いありません。私たち

は彼が非常に愛したクリスタル・ペンダントにそのちよつとした証拠を見出ししています。彼はそのクリスタルペンダントは金星から来た物で、ブラザーズがそれを彼に与えたのだといつも言っていました。

アダムスキーは一九五二年にオーソンがカリフォルニア砂漠に着陸して彼と話すまでは、たぶんブラザーズに会わなかったと思われまゝ。しかしもつと若い頃のアダムスキーが講演をしており、そのときゴロランの黒いリボンについているクリスタル・ペンダントを首のまわりにかけている写真を私たちは持っています。ですからたぶんブラザーズがその頃にそれを彼に与えたと結論づけてよいでしょう。

いずれにしても、私たちが以前に考えていたよりもはるかにスペース・ブラザーズは彼の全生涯の一部を占めていたように思われます。

## トリテリア民族の指導者だった

アダムスキーがトリテリア民族について述べているのは『宇宙哲学』の中です。そのことをここで少しお話ししましょう。

あらゆる民族の聖書の中には、人間として完全な状態で、しかもエデンのような土地に住んでいた人の記述が含まれています。トリテリア人はこれらの記録に先立って地球上に存在しまし

た。

トリテリア人は自分たちを『生命の完全さ』から分離しませんでした。彼らは『宇宙の因の英知』の指導のもとに物質の知識を得るためにこの地球へ派遣されてきました。彼らの地球は自然の美の完全な表現体でした。彼らと『宇宙の意識』とのあいだには分裂の想念はありませんでした。

生活はこうして平和で調和しており、彼らの肉体は常に若々しいものでした。彼らは地球で自分たちの任期を務めたあと、より大きな奉仕のために別な太陽系へ宇宙船で運ばれたのです。

アダムスキーが私に語ったところによりますと、トリテリア大陸は南半球の現在オーストラリアがある場所の近くのどこかに存在したということです。アダムスキーとは何者だったのでしょうか。彼はこのトリテリアの人々の指導者だったのです！

## 万物と万人に対して希望を！

ジョージ・アダムスキー！

私たちは彼を神としてでなく、『真理』の象徴として彼の名を尊敬してよいでしょう。私たちは彼を偉大な教師として、万人の友として尊敬してよいでしょう。私たちは彼を、過去および現在において私たちすべての兄弟として愛してよいでしょう。私たちは彼が残してくれたあらゆる『真理』を心

にいただき、常にそれによつて生きるように努力するといよいでしょう。

アダムスキーの生涯の終わりにおいて、彼が亡くなるわずか数日前に、私とアダムスキーの二人はボストン空港にいました。その日は良き金曜日で、イエスがはりつけにされた日の記念日でした。私が初めてアダムスキーに会った後、家に向かって車を走らせたのは、わずか一年前の良き金曜日でした。その一年間に何と多くの事が起こったことでしょうか！ 私はアダムスキーとすごしたその一年間に対して永久に感謝し続けるつもりです。ただし私はたぶんそれにあたいする人間であるとは思いませんが――。

私たち二人はアダムスキーを最後にワシントン市へ運ぶ飛行機を待ちながら搭乗待合室に座っていました。私はその待合室を通りすぎる人々のすべてから絶えず印象を受けていました。人々はしだいに増えてゆきます。すると一つの想念がわき起こってきましたので、私はアダムスキーに大きな声で話しかけました。

「生活をもつと良くしようということに関心のない人があまりに多いのに、他人を援助しようと努力するのがイヤになりはしませんか」

アダムスキーは同意しましたが、きびしい顔でつけ加えました。「そのとおりだ。しかしあなたはそれをそんなふうと考えてはいけない」

「じゃ、どんなふうを考えればよいのですか？」と私が尋ねましたら、彼は強い確信に満ちた口調で答えました。「あなたは常に希望を持たねばいけません！」

常に希望を持つこと。他人に対する希望、全人類に対する希望、私たちの世界やあらゆる世界に対する希望を。完成と達成を目指して常に前方を見続けて下さい。失望してはいけません！ 若い人たちに対する希望も大切です！ 日本GAPにはずいぶん多くの若い人たちがいます。アダムスキーは特に、いつも若い人たちに関心がありました。私たちは常に若い人たちに関心を持ち、それらを助けて、指導し、希望をいだかせるようにしなければなりません。なぜなら若い人たちは私たちの未来であるからです。アダムスキーは以上のことをよく理解していました。彼は常に若い人たちのために時をすごしました。

ですから親愛なる皆さん。気楽な態度を保って、常に最善を尽くして下さい。そして常に希望を持ち続けて下さい！ アダムスキーは「自分はいつもあなた方とともにいる」と言ったことを覚えておいて下さい。彼は進歩への道で、常に私たちを助けてくれるでしょう。彼は言いました。「私は自分の『意識』からあなた方を決して忘れ去ってしまうことはありません。ブラザーズも忘れないうでしょう！」



# 我らの惑星に愛と希望を

## ●久保田八郎

### 日本GAP企画第十回海外研修旅行「エジプト・イタリアの旅」報告

今年度の海外研修旅行は第十回記念として当初エジプト・イスラエル・イタリアの三カ国訪問を企画したが、イスラエルのパレスチナ人暴動事件頻発にかんがみて途中でイスラエルを除外した。そのためか参加者が少なく、総員十三名というこじんまりとした旅行団になったけれども、それだけに家族的な親密感の溢れた、まとまりのよいツアーになった。

#### まずエジプトが出現

予定通り八月三日、午前十時に成田空港南ウイングに全員集合後、アリタリア航空機で十二時四十五分に離陸。今回は提携旅行会社の添乗員・田中正氏（日本GAP東京本部役員）が別なグループを引率してイギリスへ先発したため、かわって私（久保田）がローマまで皆さんを案内した。

日本時間の夜十時（現地時間午後四時）に暗い霧囲気のもスクワ空港着。

免税店内を散策後、同じジャンボ機で出発。日本時間で午前二時二十五分頃、右隣の窓際にいた伊東芳和君（東京）が、眠っていた私を起こして窓の外を指さす。見ると、遠方に一定の長さの白い航跡を残しながら水平に左から右へものすごいスピードで飛ぶ物体がいる。ジェット機ではなさそうだ。UFOか？

日本時間の午前三時十五分にローマ空港着。北回りのため成田を出てから十四時間三十分を要したのみ。ここでイギリスからかけつけた田中氏と合流、以後のツアー全行程は同氏が添乗することになった。ローマはまだ八月三日の夜八時十五分だから同じ日に着いたことになる。早い。といつても片道十四時間を無為にすごすのはもったいないので機内で私はずっと翻訳の仕事をやっていた。ただちに市内のパラティーンホテルへ入る。

翌四日はローマのレオナルド・ダ・ビンチ空港を昼すぎに出発。約四時間

後にエジプトのカイロ空港へ着いた。日程の都合によりエジプトの観光が先になる。ギザ地区のシアグホテルへ夕方入り、まぎらわしい三基の大ピラミッドがすぐ近くに見える。

五日、九時すぎに一同バスで出発。今日からエジプト国内の本格的な遺跡見学が始まる。ガイドはエジプト女性のサルワ・エルシヨバギーさん。日本語はペラペラ。それも道理、カイロ大学の日本語科を出て日本へ留学し、関西の追手門大学と奈良女子大の各大学院修士課程で学んだという。小柄でチャーミングな彼女は二十九歳というが、一見二十五、六歳にしか見えない。相当な才女らしい。

#### ピラミッドの謎は解けぬか

都合により午前中にギザの三大ピラミッドを見学に行く。私としては三度目なので初回ほどの感動は起こらぬが、千古の謎を秘めたこの雄大な建造物には、やはり瞳目のほかない。十年前、最初にここへ来たとき、早稲田大学の発掘隊を指揮しておられた吉村作治先生にご案内頂いたが、そのとき先生は「ピラミッドには解けない謎が六十

くつかある」と言われていた。これを要約すれば①いつ（時代）②だれが（建設者）③何のために（目的）④どのようにして（技術）建てたか、に尽きる。

考古学上では四千五百年前、古王

国時代の第四王朝におけるクフ王、カフラー王、メンカウラー王の陵墓として建造されたということになっている。最大のはスフィンクスの方から見て右端のクフ王大ピラミッドで、高さは百三十七メートル、基部部は一辺二百二十メートルあり、平均二・五トンの石二百三十万個を「十万人の労働者が二十年の歳月をかけて積み上げた」と、前五世紀のギリシアの史家ヘロドトスが言っている。

しかし近代になって、宇宙人が円盤を用いて石を引っ張り上げたとか、重力を遮断する機械で石を空中に浮かせたなどの諸説紛々、もっともらしい話が出現しては消えたが結局、真相は不明である。そのほうがいいだろう。謎のままのほうが夢とロマンがあつてよい。クフ王大ピラミッドの玄室へ通じる入口は現在閉鎖されているので今日はまん中のカフラー王大ピラミッドの玄室へ入る。トンネルはクフ王大ピラミッドほど天井が低くないのでわりと楽に歩ける。玄室にはクフ王と同じく空の石棺があるだけで壁画も象形文字もない。

外へ出てスフィンクスの方へまわると、こりやどうじゃ、首から下の胸部が白いモルタルで塗りつぶしてある。車が増加して大気汚染がひどくなり、スフィンクスの石が崩れ始めたので防汚処置を施したのだという。そういえば後日訪れたルクソールの両神殿の浮き彫りなどの壁面も剝落防止のためモ



ルタルがあちこちに塗ってある。六年前にはオリジナルの状態だったのに——。こういうことになるから遺跡見学はとにかく早く行くほうがよい。

スフィンクスの前面から河岸神殿へまわるとカフラ王の像が立っている。ただし複製。本物はカイロの博物館に

▲スフィンクスとカフラ王ピラミッドをバックに。前列左より菊地啓子(栃木県)、高橋泰代(大分県)、栗林新一(埼玉県)、エジプト人ガイドのサルワさん。後列左より久保田八郎(東京)、田中正(千葉県)、越智三千可(愛媛県)、栗林聰(埼玉県)、栗林トセ(同)、曾我部くみ子(鹿児島県)、高橋徹(大分県)、氏家明美(北海道)、梅沢明(静岡県)、伊東芳和(東京)。

ある。スフィンクスもカフラ王の顔を再現したもので、体はライオンをあらわす。力の象徴である。ピラミッドよりもかなり後世に岩を彫り抜いて作ったことが最近の調査で判明したという。

マンションの五階目ぐらいに相当するカフラ王ピラミッドの正規入口まで登って休憩しながら思いをめぐらす。

**カーターの不屈の信念に感動**

午後はカイロの国立博物館へ行き、たっぷり時間をかけて見学する。今回のエジプト旅行は第二回目のおかげ足の旅にかんがみて、思いきりゆったりとした周遊にしようとして田中氏に提案し、二人で練って設定したスケジュールなので、充分に落ち着いて見学できる。

世界の至宝ともいえるべき遺物や出土品が充満する館内の圧巻は二階のツタンカーメン王のコーナーで、一九二一年、英国の考古学者ハワード・カーターが絶望の縁の一步手前まで行きながら超人的な気力を発揮して探りあてた副葬品が所狭しとばかり展示してある。眼前の宝の山もさることながら、ここへ来るたびにカーターの偉大な信念と希望を失わなかった力とを感じさせられて胸が熱くなる。

夜は再度ピラミッド前の広場へ行き、椅子に腰をおろして光と音のショーを見学。ナレーションは運良く英語版。英国のロイヤル・シェイクスピア劇団

の俳優たちの純正イギリス英語が響く夜空に、巨大なピラミッドやスフィンクスが色光を浴びて浮かび上がる光景は壮観。これは以前に見たとおりだ。

**アブシンベル大小神殿の見事な復元**

六日は早朝四時半にホテルを出てカイロ空港から六時発の飛行機に乗る。今日から二泊三日の予定でルクソール、アスワン、アブシンベルをまわるのだ。アスワン空港経由でエジプトの南端、アブシンベル空港に着いたのは八時すぎ。ここからバスで現地へ行く。私はうっかりしてフランス人旅行団のバスに乗り込んでしまい、おかげで日本製カメラの性能等を説明させられるハメになったが愉快だった。ちなみにエジプトとイタリアで見た外国人の持つカメラは百パーセント日本製である。

現地では仲間と合流して、まず小神殿に入る。このアブシンベル大小神殿は、ナセル大統領によって計画されたアスワン・ハイ・ダム建設により水没の危機にさらされた岩窟神殿をユネスコの協力で元の位置から六十メートル引き上げて復元したものである。よく見ると巨石をノコギリで切ったスジがある。三万個のブロックに分けて解体したという。

小神殿は約三千二百年前、第十九王朝の大権力者ラムセス二世が王妃ネフェルタリのために建てたもので、正面



▲アブシンベル大神殿の入口。ラムセス2世の4体の巨像が並ぶ。

には同二世の立像四体と王妃の像二体が並ぶ。内部へ入ると王妃がハトホル女神と右側のイシス女神によって冠を授けられる名高い浮き彫りの壁画がある。写真で見ると現物を目撃するのとは大違いで、迫力と美しさに感動する。

次に左手の大神殿へ入る。例のごとく、正面の傾斜した壁面の前にラムセス二世の巨大な像が四体屹立しているが、一体は両足だけ。高さ二十メートル。内部は古代のオリジナルそのまま、継ぎ目が全くわからぬほどに見事に復元してある。大列柱室には各種の石像が並んで偉観を呈しているが、北の壁面にはラムセス二世の大軍団がヒッタイト帝国軍とカディシユ(現在のシリアの一部)で大激戦をやった状況が描かれた美麗な浮き彫りが残っている。





▶夕暮れの母なるナイル河。

▲船上で歌い踊るヌビア人とGAP旅行団。

この岩窟大神殿の天井の裏側はコンクリートの巨大なドームになっており、ここはカラッポ。そのドームの上を石で覆って一見岩山のように見せかけてあるのだ。このドームの出口から外へ出ると元のバス道路へ通じる道がある。だからガイドさんは先に小神殿を見せたわけだ。

再度アブシンベル空港から飛び立つて、十一時にアスワン空港着。バスで古代の石切場へ向かう途中、ハイ・ダムで停車して人工湖とダムを見る。かなり大ざっぱな作りで、コンクリートばかりでなく土を盛った斜面もある。

十一時四十分石切場へ到着。ハトシェプスト女王の巨大なオベリスクが未完成のまま横たわっている。古代にここで切り出した石を積んだ舟がナイル川を航行してピラミッド建設に使用されたらしい。石を舟で運搬する壁画は残っているから、大昔はかなり栄えた土地だったのだろう。

十二時すぎにフェリーでナイル河を渡り、中洲のホテル「オペロイ」に入った。このホテルの部屋は広くて設備は優秀で、すごく快適。

六時五十分、夕方の一刻を利用して一同小型ヨットに乗船、ナイル河の中洲に出る。ヨットは三名のヌビア人(黒人)が操るのだが、当初不気味な感じがしたものの、やがて彼らはタンバリンに似た太鼓を叩いて民謡を歌い、歓

声をあげながら踊り始めたので、底抜けに陽気な人たちであることがわかってきた。船上のわれわれも手拍子を打って踊り、唱和する。メイジャーの旋律によるリズムカルで牧歌的なヌビアの民族音楽が母なるナイルの水の面に流れて愉快この上ない。

夕食後、ホテル内のバーでヌビア人の民族舞踊があり、そのあと各国人が輪になってゴーゴーを踊っていた。日本人グループは私たちだけ。田中氏によるとアスワンやアブシンベルまで来る日本人観光団はあまりいないという。大抵はカイロどまりで、ギザの大ピラミッドにたまって帰る程度だそうだ。

七日朝、高橋泰代さん(大分市)がホテル前で空中の白い光体を撮影した。良いフィーリングを感じたという。

### 人なつこいヌビア人

七時半にフェリーでナイル河を渡り、東岸に着いてからバスでナイル河沿いに北上、ルクソールを目指して疾走する。沿線の風景は原始的なるも、黒い民族衣装の女性が頭に物に乗せて歩く姿が見られ、異国情緒をかもし出している。男もほとんどガラベアヤという長い衣に似た民族衣装を着ている。

エジプトの風俗は十年前と全く変わっていない。暑い国だからそれなりの理由があるのだろう。

広義のサハラ砂漠の東端をなすヌビ

ア砂漠の黄土色の幻想的な風景が展開する中をバスはつつ走り、八時十五分にラクダ市で名高いガラワという町を通過。ロバに乗った男や少年が多い。家屋を見るとメキシコの風景に似ているけれども一味違う。古びた日本製の車が意外に多く、ダイハツ、トヨタなどの横文字が後部に見られる。

八時四十分ダブートというヌビア人の部落で停車し、一軒の屋内を見せてもらうことになった。土俗的な家屋だが、内部はわりと整っている。広いベッドルームや応接間があり、古いけれどもテレビや冷蔵庫もある。主は留守で、沢山の子供をかかえる奥さんが案内してくれた。部落では「上流」に入るらしい。雨が降らぬので家の一部には屋根がない。

この黒人の大家族と隣近所から来た人たちは非常に人なつこくて純粋で親切であった。子供たちは白い歯をのぞかせて絶えず微笑し、歓迎の意を表し続ける。奥さんが一同に冷たいコーラを飲ませてくれた。田中氏が三十ドルの謝礼を出したが彼女は恐縮して受け取らない。子供たちも金品を欲しがらず、顔にたかる沢山のハエを払いのけようともせずカメラを珍しそうにのぞき込むので、撮影すると大喜びする。バスが出るときに大勢のヌビア人が笑いながら手を振って見送ってくれた。私たちも手を振った。

ヌビアとはアスワン以南スーダンの





▲ヌビア人の婦人たち。

ここは第十二王朝から二十王朝までの王たちがアモン神に寄進した主神殿の複合体で、豪壮な各種塔門、大列柱室、オベリスクなど、圧倒的な巨石建築の大遺跡となっている。摂氏四十三度という炎熱下を見学してゆくうち、前述のごとく浮き彫りの壁画のあちこちがモルタルで塗りつぶされているのを見て失望感を拭い得なかった。遺跡保存のためとはいえ、他に方法はなかったかと思う。

### カルナック神殿上空の光体

十一時二十分に、以前来たことのあるエタツプホテルへ入り、昼食少憩後、三時よりカルナック神殿を見学。

次に副神殿のルクソール神殿へ行く。ここにもラムセス二世の巨像やオベリスクが残っている。エジプト中に自分の石像を建てさせたこの王はとてつもなく自己顕示欲や名譽欲の強かった人らしい。しかし三千二百年昔の超絶した彫刻作品はまさに白昼夢だ。

夜は八時よりカルナック神殿の「光と音のショー」を全員で見に行ったが、曾我部くみ子さん（鹿児島市）が数度光体が飛ぶのを目撃、私も見た。隣にいた越智三千可さん（愛媛県）も別な光体を見たという。

八月八日は朝フェリーでナイル河を渡り、八時頃メムノンの巨像を見た後、ハトシェプスト女王葬祭殿へ行く。ポランド調査隊の手により以前とは見違えるほど修復が進んでいる。四角な列柱のテラスは三層になり、男まさりの偉大な女王をまつるにふさわしい石造の大建築が高い岩山のふもとに展開。土産物店が軒を並べている。



▲ルクソール神殿にて。壁画のあちこちがモルタルで塗りつぶされている。

九時半にバスで王家の谷に向かい、まずツタンカーメン王の墳墓へ入る。以前よりも壁画の損傷がひどくなったような気がした。続いてラムセス三世の墓へ入る。王がオシリス神に捧げ物をして壁面に感嘆。アメンホテプ二世古墳の壁画の新鮮なのに一驚を喫した。保存状態がすごく良好で、三千二百年昔の絵画はまるで昨日描かれたかのように鮮烈である。

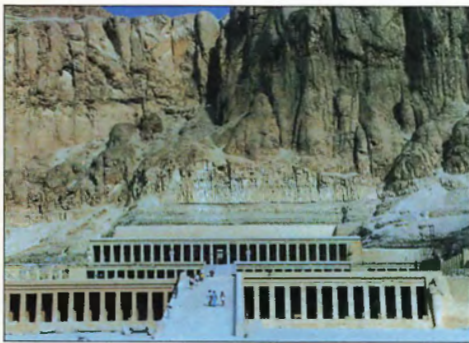
エジプトへ来ると硬質の巨石文化と日本の可塑的な木造文化の差をイヤというほど感じさせられる。両者の優劣については論外だが、石が「永遠なるもの」の象徴に見えてくるのは確かだ。いったんホテルへ引き揚げてから三時にルクソール空港を離陸、五時近くにカイロ空港へ到着。夜はホテル内で

中近東民族舞踊のベリーダンスを見るも、女性が腹を出して踊ることはエジプトでは禁止されているのでトルコほどの妖艶さはない。そのあと田中氏と二人でアラブ人専用のナイトクラブへ行ったが、やはり同じだった。しかし周囲のアラブ人たちは私たちに非常に友好的な態度を示した。

三度のエジプト旅行で気付いたのは、エジプト人の男が女性を卑猥な目で見ないこと、外国人をからかわないことなどで、特に日本人に敬意をいっているらしい。これには宗教的、政治的理由があるのだが、ここには書ききれない。

### 夏のエジプトは摂氏四十三度

九日は自由行動の日なので、三名の仲間と共にタクシーでまずメンフィスの遺跡へ行き、次にサツカラの階段状



▲ハトシェプスト女王葬祭殿。



ピラミッドを訪れる。古王国時代、第三王朝のジェセル王の墓として宰相のイムホテプが設計施工したもので四千六百年前の建造物。これが原型となつてその後第四王朝時代にギザの三大ピラミッドが建てられたという。このイムホテプというのは不思議な人物で、ひょっとすればこの人がスペース・ピールの一人ではなかったかと、むかし吉村先生が言っておられたのを思い出しながら現地へ着くと、すでに高橋徹君夫妻（大分県）や菊地啓子さん（栃木県）が来ていた。

ここはリビア砂漠の一角で、ものすごく暑い。計ってみるとやはり摂氏四十三度ある。夏のエジプトは摂氏四十三度の国と覚えておけば間違いない。ただし水を常に持ち歩けば大丈夫。

このあと二台のタクシーでギザへ行き、レストランで昼食後、三時半まで再度スフィンクスやピラミッド群を個人でたつぷりと見学し撮影した。こんなにゆつたりとしたエジプト旅行は初めてなので暑さも気にならない。

## カイロ上空UFOが出現！

今回も6×7判のブロンカメラを携行して本格的な写真を撮るつもりだったが、ローマへ着いたとたんに電気系統に故障が起こつてダメになつてしまった。やむなく伊東芳和君から35mmのニコンF3を借りて撮り続けたが、こ

れもまもなくオートの露出計が故障したので、すべて勘で撮り続けた。私のパワーが強すぎるのか、それとも外部からのビームによるものかはわからぬが、後者だとすれば「目という視覚器官がフアインダーに振り回されぬようにせよ」という意味がこめられていたのかもしれない。だから今回の旅行では「万物は創造主のあらわれ。すべては良くなるよ」という祝福の言葉を心中となえながら歩いた。

夜、ホテルの自室で大洗濯をやつたあと、休息していると、突然十二時すぎに曾我部くみ子さんから電話があり、「いま上空にUFOが出ているから早く外へ出て下さい！」と言う。急いでペランダに出たが空の半分しか見えぬために見逃してしまった。伊東芳和君やその他の人たちも目撃したという。この詳細は伊東君の別掲手記に述べてある。

翌日の十日からイタリア・ローマへ移動してローマ市内、バチカンのサンピエトロ大寺院、アッシジの聖フランチェスコ大寺院その他の見学で三日間をすごしたのだが、紙数が尽きかけたので概略のみ。

まず先にウンブリア県アッシジへバスで二時間の旅に出て夕方アッシジ着。十一日、聖フランチェスコ大寺院へ行く。日本人修道士の方の案内で巨大な堂内を見学。清貧に甘んじたフランチェスコをまつる本堂の上院は二二三〇



▲アッシジの聖フランチェスコ大寺院。

年、下院は一二三九年の建築。いずれも天井や壁に描かれたジオットらによる美しい壁画で圧倒されるが、なぜか重苦しい雰囲気包まれる。古い大聖堂にありがちな汚濁した空気の影響によるのかもしれない。

ローマへ帰る途中デルータの町で少憩し、陶器製造工場と店を経営する家族の家屋内を見学。豪華というよりも高度に合理的機能的な西洋人の生活様式を見て沈思黙考する。東洋人の真似のできない、何かがあるのだ。

## サンピエトロ大寺院の頂上展望台へ登る

翌日訪れたローマのバチカン市国のサンピエトロ大寺院は一同の憧憬の的。古代ギリシアの神殿パテオンを見た

あと、サンピエトロへ行く。私としては六度目の訪問だが、いつ来ても十七世紀完成の世界最大の聖堂と美術館を思わせる内部の壮麗な壁画、彫刻類に驚嘆のほかない。だいたいこの大寺院内は非常に明るい波動に満ちているのだ。

今回は最初の試みとしてドームの頂上にある展望台へ登ることを私から提案し、一同で実施した。まずエレベーターで五十メートルの高さまで昇る。すると正面上方にイエスと十一弟子（ユダを除く）の像が並ぶテラスへ出る。ここからさらに高さ七十メートルもある五百三十七段の階段を歩いて登るのだが、これが大変な難行！人間一人が通れるぐらいの狭い螺旋階段を延々と果てしもなく登って行く。途中で何度も休息してやっと地上百二十メートルの展望台へたどりついたときははぶっ倒れそうだった。重いバッグを背負うとはいえ六十四歳の体力を感じる。

しかし苦あれば楽ありで、しばし休息して元氣回復後、ローマ市内の素晴らしい眺望を満喫した。西歴一五〇〇年代初頭から百二十年をかけたとはいえ、現代のようなクレーンもない時代にこんな途方もない石造の大建築をよくも完成させたものだ。

午後は古代の闘技場跡コロッセオ、古代キリスト教徒の地下墓地カタコンベ、スペイン広場、テレビの泉、フォロローマーノ等名所旧跡を見学し、夜は



▲サンピエトロ大寺院。上方矢印の所が高さ120mの展望台。

▼展望台から大寺院前の広場を見おろした光景。



### 旅ほど人間を成長させるものはない

数千年の大昔、無数の巨石を材木のごとく軽々と操り、粘土細工のように自在に彫刻したエジプト人の英知とパワー、ヨーロッパ各地の大聖堂のすごい建築技術等を考えれば、地球人の知

旧アッピア街道沿いのレストラン「クオ・ヴァデイス」でカンツォーネを聴きながら楽しい一夜をすごした。こうして翌日昼すぎにアリタリア航空機に乗り、ミラノ経由でソ連、中国上空を飛行後、八月十四日午前九時半、全員無事に成田へ帰着することができた。

性も相当なものである。UFO研究者がとかくおちいりがちな、地球は劣等な惑星だという考えは払拭して、先人たちの偉大な業績を見直すことにし、我らの惑星に対して限らない愛と希望とをもちたいものだ。そのためには旅に出かけて未知の事物を実際に見聞するに越したことはない。

また世界のいづこを訪れても人種の差こそあれ個人的に人間はみな同じだとの感を強くする。こちらが善意を示せば相手も必ず善意で返す。これは万人が根本的に宇宙の意識（神）に生かされているからで、結局は国籍を超えてだれもが仲良くしたがっているのだ。自分だけの価値観による判断で他人や他人種を批判することのむなしさは、海外へ一歩出て他国人と交流してみればわかることである。

宇宙問題の研究も結構なことだが、まず狭い井戸からとび出て私たちのホーム惑星たる地球の現状をこの目で見ながら視野を拡大することが先決であろう。その意味で旅こそ人間にこよなきレッスンを与え、人間を成長させるものはない。今後も日本GAPは毎年海外研修旅行を続けるので、多数参加されたい。

来年度の旅行はアメリカのアダムスキー関係旧跡と南米ペルーのインカ遺跡を見学の予定。本号29頁を参照。

〔掲載写真はすべて筆者撮影。集合写真はセルフタイマー使用〕



Luminous UFOs Responding Telepathy over Cairo  
by Yoshikazu Itoh

# カイロ上空に輝くUFOが出現

●伊東芳和

テレパシー送信に呼んで出現した光体群



このたびは日本GAP第十回海外研修旅行「エジプト・イタリアの旅」に参加できて感謝したい。特に今回は当初計画されたイスラエル訪問がとりやめになった分、ゆったりとくつろぐことができてゴージャスな旅行気分を満  
ルクソール神殿にて筆者（撮影：久保田八郎）

喫できた。これもひとえに久保田先生、田中さんのご尽力のたまものと心より御礼を申し上げる次第である。

GAPの旅行の、他に類を見ない大きな特徴は、UFOがたびたび旅行団の頭上に出現し、それを観測する機会に恵まれるということだろう。特に今回は少人数でもあり、スペース・ブラザーズから特別のご配慮があったのか、しばしば目撃されたのである。

## ヨーロッパ上空の不思議な物体

私も幸運にも何度か目撃することができた。最初はローマのレオナルド・ダ・ビンチ空港に到着する五十分ぐらい前だった。機内から見るとはるか水平線上に黒い帯状の雲が長く横たわっていたが、その先端の中段に白い線状の物（見かけ上片腕を伸ばした手の位置で七、八センチぐらいの長さ）が浮かんでおり、当初はかすかな動きなので「はてな？」と思った。左隣の座席の久保田先生を起こして二人で見ていると、その白い雲状の物体は加速し、時間にして十秒ぐらいで飛行機の窓の視界から消えて行った。

それより前、ソ連の上空を飛行中、ジェット戦闘機が二、三回接近してくるのを見たので、白い物体とジェット戦闘機とのスピードを容易に比較することができたが、明らかに白い物体は地球上の乗り物より速く、また意識的

に黒い帯状の雲のまん中を通り抜けたという印象を受けた。これでわれわれの旅行の無事と成功を確信するに至ったのである。

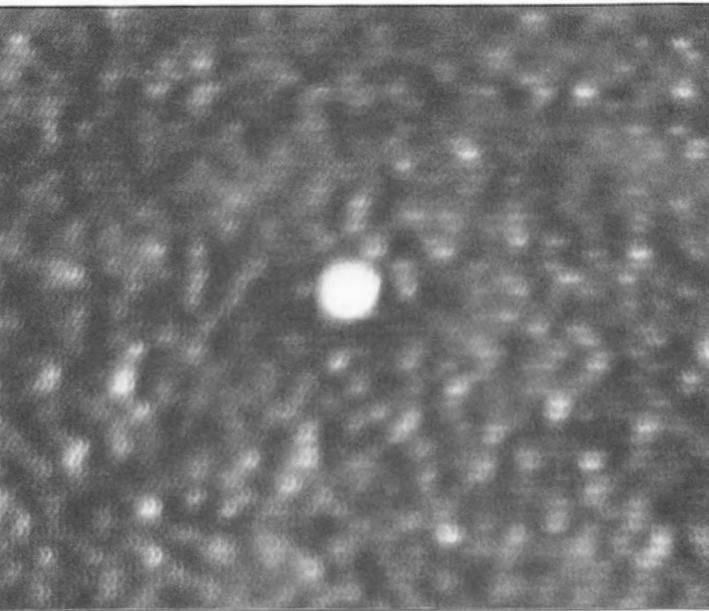
## 偉大な古代エジプト人の知恵

エジプトは何から何まで異質であった。エジプトの上空に達したとき、砂漠の白さと上空の青さが、飛行機の巡航高度である一万メートルで混ざり合い、まさに炎が燃えるような青白さがかもし出し、とても砂漠の上空とは思えない感じであった。地球を外から見た青白さとはこのようなものかと一人感慨にふけた。

ピラミッドの大きさ、雄大さにはただただ驚くばかりで、実際に自分の目で見なければ形容する言葉は出てこない。これらは何の目的で、いつ、だれが……疑問はとまることを知らない。今世紀中の解決は悲しいかなムリな感じ！しかし答はいつでも与えられているような気がするが、われわれはそれに気付かないだけなのだろう。幾人かの人は気付いているのだろうか……。

アスワンの石切り場で未完成のオペリスクを見た時、これらの疑問は頂上に達し、すべてを忘れさせられた過去に思いを馳せるのであった。しかしどうしても思い出すことは出来ない。

現地人ガイドで流暢な日本語を話すサルワさんの「木のクサビを石の間に



▲筆者が8月9日の夜12時すぎにギザのシアグホテルのベランダから8ミリビデオカメラで撮影したUFO。表紙写真とは別な物体。

打ち込み、それに水をかけて、その膨張力で石を割る」という説明は、われわれの知識概念の未熟さをあらわしているようで、自分自身を痛々しくさえ感じた。

そのオペリスクは岩盤からまだ切り離されず、しかも二百五十トンの重量のある一枚岩である。しかしわれわれにはまだあずかり知らぬ科学力を用いた形跡を、切りかけのオペリスクの壁面と岩盤との間の溝から見出すことができた。このように疑問がはつきりした分だけでもエジプトに來た甲斐があった。

## 二度目のUFO目撃

UFOからの二度目の挨拶は、アスワンのオペロイホテルに滞在したときである。対岸のアスワンの街の灯火とナイル川に揺らぐ美しい夜景を、同室の梅沢明さん（静岡市）とベランダで眺めていた時のこと。ほぼ真向かいの東の方向に一等星か二等星ぐらいの明るい星があった。それは仰角十ないし十五度ぐらいの低い地平線上にあり、時間は夜の十一時二十分頃だったと思う。

突然その星の真下あたりに白い光体が現れ、四十五度の角度で右上に流れるように消えた。流れ星かとも考えられるが、はたして下から上に流れるものだろうか。その速さは人工衛星の比ではなかった。

旅行七日目のカイロは終日自由行動でモーニングコールはない。しかし八時前に起床、九時には朝食をすませていたので、のんびり昼まで寝ているということはできない。

その夜十一時すぎに曾我部くみ子さん（鹿児島県）と氏家明美さん（北海道）の二人が来て、梅沢さんと四人で夜空に向かってテレパシーの想念放射を実行しようということになり、話をしているうちに、十二時七分前後だったか、まず曾我部さんが動いている光体を見つけ、それを合図に全員ベランダに出た。光体はオレンジの光で、やや左寄りの正面からそのまま左の方（東の方）に仰角十ないし十五度ぐらいで、目の高さよりやや高い感じで、ゆっくり移動を続けていた。上下にもあまり変化はなく、見ようによつては飛行機かとも思ったが、かといつて直線的でもなく曖昧さの残る動きだった。時間にして一分半ぐらいだったろうか。それからあまり時間がたたないうちに二機目が現れた。これも一分少々現れていたが、大体に前の光体と似たような進行速度と方向でホテルの建物の左手に消えて行った。

## 輝く一等星が突然動き出した！

ところが、これら二個の光体が消えてまもなく、それまでやや東寄り、仰角十八度ないし二十度の近辺で静止して輝いていた一等星と思われる光体が、突然動き出したのである！それはフラフラと上方に行きかから、先程の二個の光体と同じ方向に消えた。目撃時間は夢中だったのでよくわからないが、大体二十ないし三十秒ぐらいだろうか。一同は驚くと同時に騒然となり、深い感動で全身が震えるような気分だった。全員で手を振って消えるのを確認した。

これでもって旅行前に「7」という数字が強く浮かんでくると春川正一氏が言ったという先生の言葉は、旅行の第七日目に大きなUFO出現事件が発生することを示唆したものである。

さて、旅行中は二年前のトルコ旅行のときと同様に腹をこわし、同行の皆様には何かとご配慮頂いて感謝にたえない。また楽しさも分かち合うことができ、一体感溢れる旅だった。スペース・ブラザーズの皆様にも旅行中は何かと見守って頂き、あらためて感謝の想念を送らせて頂きたい。今後も可能な限り日本GAPの海外研修旅行に参加して国際的視野を開きたいと思っている。

My Practice in Cosmic Philosophy and UFO Sightings  
by Setsuko Tomioka

# 私のUFOコンタクトと宇宙的目覚め

## ●富岡 設子

幼少時より人間の本质を思索し、長じては種々の不思議な体験と辛酸を経てついにアダムスキー哲学にたどりつき、一大光明を見いだした筆者の真摯な研鑽談。

〈日本GAP東京月例研究会における講演より〉

### 人間とは何なのか

私が日本GAPに入会して二年になります。いまはアダムスキー哲学を学べる好機に恵まれて大変生き甲斐のある楽しい日々を送っています。

私は幼い頃から自分の中に全く異なる二つの人格が同居していました。その一つは劣等感のかたまりで、もう一つは高尚なもの、特に宇宙的なものに憧れる建設的な人格です。劣等感は生まれつき体が弱かったことと、六歳のとき交通事故にあったときの肉体的、心理的なショックが原因だったと思います。それから「私は運が悪いのだ」と決めつけて、マイナスヘマイナスへと思考パターンを自分でゆがませていきました。

一方、宇宙的な物事に憧れる私は、UFOの存在もなんとなく信じていましたし、自分の中にいわゆる超能力的なものが潜んでいて、いつか必ずその力を使うことができると思い込んでいました。

幼い頃から心の奥にあった疑問が成長するにつれてどんどん大きくなってゆきました。小学校の三、四年生になると、「自分はなぜこの世に存在しているのか、本当に確かに存在しているのか、私はいったい誰なのだろう」と考えては、よく眠れぬ夜をすごしたものです。

### 初めのUFOを目撃

小学校五、六年生の頃は、世の中の矛盾や人間関係に強く疑問をいだくようになり、今考えるとおかしいくらい真剣に考えていました。その頃、夜になると窓から空を眺めていた時期があり、なぜか「いつか必ずUFOがやって来る」と思っていました。

あるとき妹が「たしかに一度だけUFOを家族全員で見た」と言うのです。妹の話によりますと、そのとき私が、「UFOだ」と叫ぶので、皆で庭に出て夜空を見上げると、上空に黒くて平べったい長円形の物体がフワフワしながらしばらく浮かんでいたそうです。そして妹が一同にむかって、「このことは絶対に絶対に忘れないでね」と念を押したそうです。

しばらくは私も覚えていたようですが中学へ入ってからまもなく、「覚えていない」と言ったので、妹は大変なショックだったと言っていました。自分でもなぜ忘れたのか判りません。

### 飛鳥での不思議な体験

中学高校の頃よく不思議な体験をしました。なかでも最も不思議だったのは、高校二年のとき、研修旅行で行った奈良の飛鳥での出来事です。

飛鳥の民宿に宿泊した最初の夜でした。なぜか皆が眠り始めるにつれて目が冴えてきて、全然眠れなくなりました。そのうち、まだ十月初旬というのに異様に寒くなり、ガタガタと全身

が震え始め、ふとんの中にもぐり込んで膝をかかえて丸くなっていました。風邪をひいたわけではないのに――。

あまり寒いので何か気になり、ふとんから顔を出すと、窓の外に丸くて白い光体が煌々と輝いているのです。今度はまだよく眠れません。明け方まで寒さとまぶしさを相手に戦っていました。

朝になって窓にかけ寄り、外を見ましたがすでに光体はなく、街灯の類も見当たりません。今にして思えばこれもUFOではなかったかと思えます。本当に忘れることのできない不思議な体験でした。後の体験類から推測しますと、飛鳥は私の過去世と深い関係があるような気がします。当時はUFOブームでしたが、あまり深く追求しようとは思わず、その類の本や雑誌も読みませんでした。むしろ「人間とは何なのか」という哲学的思索にふけるほうでしたが、解決は見い出せません。

### 不可視の力への警告

グラフィック・デザインの専門学校時代でした。なんとなく力が出ないまま家でゴロゴロしていたとき、突然、体が動かなくなりました。しかしときどき経験する金縛りとは性質の違う現象でした。そのうち体中にビリビリと電気のようなものがかけめぐり、激しくしびれて、息ができなくなりました。一瞬、死を予感したほどです。



やっとな解放されたときは汗びっしょりで、しばらく呆然自失の状態でした。そんなことが同じ状況で二度ほどありました。精神の向上欲をなくした私に警告するために何かの見えない力が働いたのではないかと考えていました。

就職してからはいろいろな体験を積みむことで少しずつ自分に自信が持てるようになりまし。しかし不思議なことに一生懸命働いても、なぜか心の片隅で「さぼっている」という声が聞こえるのです。その後もしばらくはその声が消えませんでした。

とうとう無理が重なって体を壊してしまいました。これは大きな躓きです。将来への不安と焦りが起こり、間違った生き方をしてきたのではないかとこの気持ちがして、行き詰ってしまったのです。このときほど不可抗力の世界を思い知らされたことはありません。そこでまた「自分は何のために生まれてきたのか」と考えるようになりました。

### 不思議な光景を透視する

一九八四年の九月でした。絶妙なタイミングで妹がおもしろそうな話を持ってきたのです。「友達の紹介でもおもにビジネスマンを対象とした潜在能力開発のセミナーを体験してきた」というのです。自分でも奇妙に思えるほどの妹の話にぐいぐいひかれてゆきました。

ところが私がセミナーを受ける前から潜在能力が始めてきたのです。た

ぶん仕事柄、常に固定概念を打ち破り、より自由な発想を展開してゆこうとする訓練が少しずつなされていたからでしょう。その後は思いもよらずセミナー以上のものが出てきました。オーラ透視、過去世と未来の透視、透聴などです。

そのなかでも一つだけ忘れたくない出来事がありました。心をニュートラルな状態にするためにロウソクの炎を見つめていたとき、不思議なことに、ロウソクのまわりにお坊さんが二人現れたのです。それから古いお寺が現れました。

しだいにお寺の戸が開き、中に数人のお坊さんにまじって美しい赤い袈裟を着た方が私のほうを見て、この世のものとは思えないほどの至上の微笑を浮かべていたのです。他のお坊さんも私を見てニコニコ笑っていました。生まれて初めて見る美しい笑顔でした。

カラーで立体的にはつきり見えました。この方は私の先祖と何かの関係があるのかも知れません。あのような美しい微笑を浮かべられるようになりたいのです。

### 家庭も明るく変化してきた

この頃から私は宇宙的意識に目覚め始め、潜在能力のことよりも真実の宇宙の法則を知りたいと思うようになり、謙虚に学ぼうという気持ちと、あらゆる事がすでにうまくいったイメ

ージを描くように心掛けていました。「できない」「無理だ」といった可能性をふさぐようなマイナスの言葉を生活の中から消してゆく努力もしました。

その結果はまず家庭に現れたのです。それまで我が家は厳格な雰囲気、堅苦しい感じでしたが、どんどん明るくリラックスした雰囲気変わってゆきました。私をも含めてまるで皆が生まれ変わったような感じがします。本当に嬉しくて心から感謝しました。私のしたことは「思いやりを積極的に態度に示す」のそれだけでしたのに――。

その年明けの一九八五年一月頃からときどき夢の中にはつきりした声で啓示のようなものを受けるようになりました。びつくりして目を覚ますと大抵明け方の四時頃でした。それからは枕元に必ずペンとノートを置き、不思議な夢や声などを記録するようにしました。

それから気持を新たに仕事に打ち込みました。責任ある仕事を頂けるようにもなり、大いなる意欲が湧いてきたのです。

### マイナスの想念で電灯が消える

ところがしばらくして思いもよらずまたも会社のトラブルに巻き込まれるハメにおちいりました。それは以前の体験とは比較にならないほどの規模です。「なぜ私はこんな目にはかりあうのだろう」と考えれば考えるほど意識

の中から鮮明に印象が浮かんできました。それは物事の裏側まで見透す力をつける必要があったということです。また事件に巻き込まれるということとは、巻き込んだ側の質に引き寄せられる同質としての原因が自分の中にあるのだから、それを理解したほうがよいという印象もありました。

私はこれを自分がステップアップする一つのチャンスだと考えて、さまざまな角度からトラブルを分析してみようと思いました。

最も信頼のおける同僚にも協力してもらいながら、私達は問題解決のために連日夜遅くまで喫茶店やレストランで話し合いました。分析は一歩間違えば非難になるので、目的をはつきりさせて慎重に話し合うことをいつも確認していました。それだけ内容は重大なことだったのです。

しかしストレスが極度にたまっていったせいか、「たまにはいいや」と思っ二人で悪口大会をしてしまいました。その瞬間、突然レストランの電灯が消えて店内が真っ暗になったのです。二人はとて驚いて口もきけません。

それから二人は言葉に注意し、プラスの言動を強調するように心掛けましたが、また、つい分析が悪口に変わってしまったことがあります。別な店でしたが、ここでも同じように電灯が消えてしまい、さすがに口をつつしむようになりまし。たぶん意識の力が

強く働きかけたのでしよう。この頃は見えぬ力にぐいぐい引つ張られていくような気持でした。

### UFO問題に目が開く

潜在能力(超能力)が開発されてきて、なぜかUFOの存在が気になり始めました。その間、「あれはUFOだ」とはつきり気付いて目撃した体験もあつたりして、その正体を知りたくなつたのです。

そんなある日、都内の書店で偶然にUFO関係の本を見つけました。その本はアダムスキー氏のものでありませんでしたが、この太陽系のすべての惑星に人類が住んでいると書いてありました。思えばこの本が宇宙探求の入口の扉を開いてくれたのです。

しかし非常に疑い深い性格でもありませんので、その本を書いた著者に連絡をとり、お話をうかがいにに行きました。大変誠実な方でしたが、しつこく考えますと、多くの矛盾も感じられましたので、その矛盾を解決してくれる本はないかと思うようになりました。

### 奇妙な現象が続発

この頃から不思議な事がさらによく起こるようになりました。ある日、空が訴えかけて迫ってくるような感じがして上空を見上げていますと、雲の陰に少し隠れて動かずに浮かんでいる白銀色の平べったい物体を見つけました。

私があがついてから二〜三秒すると、その物体は斜め上方に音もなく移動して行きました。

不思議な形をした雲をよく見かけるようにもなりましたし、おもしろいことにやたらとUFOや宇宙人の夢を見ました。円盤の感触、乗り心地、宇宙人との会話など、どれもすぐくりアルなものでした。

その他、はつきりした声によるテレパシーよりも声なき声のテレパシーの受信が最も興味深いものでした。これはよほど心をニュートナルな状態にしないと受けられないもので、その内容は自分にも理解できないような難しいものでした。

夢ではなく突然頭の中にはつきりと人の声が響くこともありました。それは他人の会話をキャッチした場合もありましたが、私に向かって発せられたこともありました。

### 超小型円盤が出現

一九八六年に入ってから私の意識はさらに深く目覚めていったように思えます。心中の疑問を解決してくれるものに出会えるような予感が高まってきました。

そんなある日、帰宅途中、自宅付近で奇妙な物を見たのです。一緒にいた妹がいきなり「キャーッ」と叫び声を上げるので反射的に上空を見ると、頭上の電線の所に半透明の白っぽい長円

形の物体が浮かんでいるのです。

そして次の瞬間、その長円形物体は8の字にねじれて、さらにVの字を描き、上方へ消えてゆきました。あとで妹に聞くと、妹が見たときはオレンジ色の丸い光体だったそうです。

後日また妹と一緒に歩いていると、自宅の門の前で、突然、小さな青い光の玉がものすごい速度で回転しながらこちらへ近づいて来て、あつという間に二人を取り囲み、ぐるぐる回り始めました。二人は驚いて逃げてしまいましたが、後にこれが超小型円盤であるらしいことを知って驚いたらしいです。先の長円形物体も円盤の一種ではないかということの後に関かされましたが、やはり未知の物に対する恐怖心があるために、納得するまでにずいぶん時間がかかりました。しかしそれでもその正体を知りたいという気持は日増しに高まってゆきました。

### UFO誌との出逢い

同じ一九八六年三月のある日曜日、特別欲しい本もないのにふと本屋さんへ行ってみたくなりました。店内へ入って気がつくくと、非常に目を魅く雑誌が目の前にありましたので、ワクワクしながらページをめくると「これだ!」と直感的に思うものがあり、家に飛んで帰って一気に読みました。それがUFO contactee誌との出逢いです。そして一カ月後に開かれるGAP主催の

東京月例会にぜひ参加してみようと思いました。

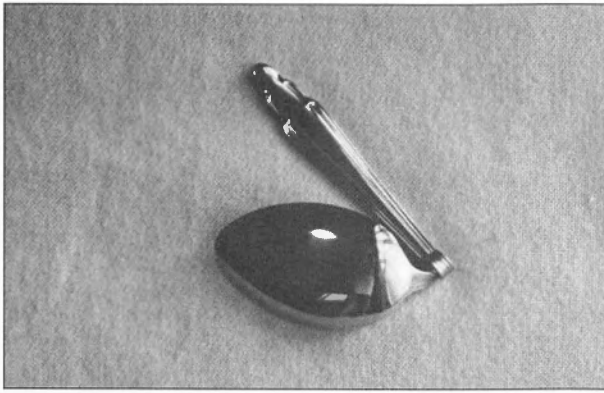
その間にアダムスキー全集全巻を読んでおいたほうがよいという印象があり、さっそく購入して次から次へと、あさましいばかりに読みました。これ以上に適当な表現で書かれた本が他にあつたかと思議に思うぐらい感銘を受けました。

特に『宇宙哲学』と『生命の科学』は私のいだいていた疑問を見事に晴らしてくれました。私は毎日これらの本を持って歩き、超満員の通勤電車の中でも読んでいました。すると不思議なことに私の立っている前の席が空くのです。この現象は読み終えるまで続きました。

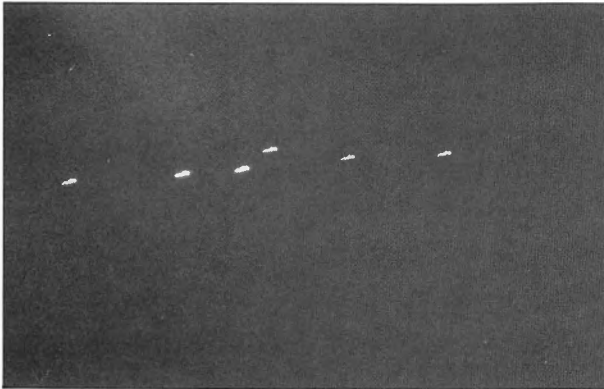
さていよいよ月例会の日です。会場のある上野公園は桜の花が満開でした。まるで入学式に出席するような気持でした。それというのも幼い頃から意識の奥底で求めて求めてやまなかつたものに出逢えたのですから、言いようのないくらい喜びで一杯でした。やつとここまでたどり着けたと思うと心から安心しました。私の中で二人の人格がやつと一つになったような気持でした。

### 予知夢で良き未来を知る

その頃、トラブルに巻き込まれた会社をそろそろ卒業したいと思っていました。しかしかなり仕事をまかされて



◀筆者が超能力で曲げたスプーン。現在この力はない。



◀一九八八年八月三日午後七時三十分頃、筆者が北海道からの帰途、東北地方上空に現れた多数のUFO群を機上から連続撮影した内の一枚。

いましたので、どうにかならないかと困っていると、予知夢で、これから会社の状態がどんどん変化するのが判りました。このまま時期を待てば自然な形で辞められるという印象があり、その時期をじっくり待っていると、本当にそのときがやってきて無事抜けることができました。

おまけに会社の上司には「本当に一番大事な時によく頑張ってくれた」と言ってお返ししましたので、私も「こち

らこそよい勉強をさせて頂きました」と頭を下げて感謝し、良い意味で文字通り卒業しました。ここで私が学ぶべきものを学び終えたのだと思えました。それからはずべてが良い方向に進んでゆきました。仕事をしながら心ゆくまで宇宙哲学を学べるようになったのです。

これまでに潜在能力がせっかく開発されても、しっかりと哲学がなかったために感情のバランスがとれにくくなり、

つらい目にあつた人を知っていましたので、ここで基礎をしっかりと身につけるまでは潜在能力のことは忘れようと思いました。すると超能力に興味を失せると能力も半減しました。しかしまた時期が来れば今度は哲学の理解に応じて自然に現れると信じることにしました。

その後とても調子のよいとき、オーラが色ばかりでなく、今までになくはつきりと、その流れる様子がこまかい粒子の単位で見え、しかもオーラの発する振動音まで聞こえたことがあります。少し希望が見えてきたので、これを自分でコントロールできるようにしたいと思うようになりました。

### 呼びかけに応じUFOが出現

その頃は夜空に向かつての呼びかけは、プラザーズ（異星人）側も忙しいのだから迷惑だろうと思ひ遠慮していました。

ところが日本GAPに入会して一年目の春（一九八七年四月二十三日）、将来のビジョンを何となく夜空に向かつてイメージし、スペース・プラザーズに「どうぞ見守って下さい」と心の中でつぶやいたら、スーッとオレンジ色の光体が滑るように我が家の庭の上空を水平に横切って行ったのです。まさか呼んでしまうとは思わなかったで、しばらく目をこすったり、今起こったことを頭の中で再現させてみたり

して、長い間その場にボーツと立ちつくしていました。

その夜はもう軽々しく呼びかけをしてはいけないような気がして、しませんでした。それから仕事も家庭もすべて順調で、何事もなまくまういっていましたが、いつのまにか現状に満足し始めていました。

そうなつてくるとオーラも見えにくくなつてきました。少し練習をするとすぐに効果が上がるので安心してやめてしまふというようなことの繰り返しでした。結局、本当のところ、テレパシー能力を開発する意味や目的が、本の上の素通りの理解で、本当に自分で体得してはいなかったのです。

### また辛い試練がきた

そのようなとき、またしても仕事で辛い試練がやってきました。しかし今度のは私自身の身にふりかかってきたために、せっかく素晴らしい哲学を学んでいながらも希望を失つて死人のようになつてしまいました。

そのとき、今までにない意欲で取り組んでいた仕事で、まだ企画段階で幸いでしたが、信頼していた人に裏切られたことが、ある日突然テレパシーによつて判つたのです。こんな形で判つたのもショックでした。

もちろん自分にも原因があることはよく判っていました。でもそのときは激しい後悔と憎しみをどうにかして押



さえないと必死にもがいているのが精一杯でした。アダムスキー全集を読み返しましたが、私の心にはまぶしすぎて、もう何も響いてきません。

そんなとき、ふと聖書を手に取りました。たった一行でもよいから私を救ってくれる言葉はないものかと、すがりような気持ちでした。目にとまったのは意外な個所でした。

貧しくて病気でもあり、人から後ろ指をさされるような女性の「救われたい」という一途な気持が静かに心にしみ渡ってきたのです。

やっと安らぎを得て落ち着いてきました。そして今度のレッスンがなぜ与えられたのがよく判りました。私のある弱さがこれからの宇宙哲学を学ぶ上で最大のネックになっていたのです。しかも乗り越えるのが一番難しい根の深い弱さでした。

それからは、上空の円盤から送られる愛の想念放射を今までにないほど感じられるようになりました。胸の中に熱いものがジワッとと伝わってくる感じです。

またアダムスキー全集を新たな気持ちで読み返しました。一字一句もらさずにシラミつぶしに読んでゆきましたら、以前と同じように電車の前の席が空くようになりました。

### 絶対に希望を失わない!

全集を読み終えて一番印象に残った

言葉を自分のものにするために、それを繰り返して繰り返して心の中でつぶやきました。それはアダムスキー氏にコンパクトしたブラザーズの一人、フアーコンという方の次のような言葉です。「私達は、つと昔、信念の力、希望の力、絶対に諦めない力などを学びました。昨日失われたゴールを明日は勝ち取ることができなのです」

なかでも最重要なのは、何があっても決して希望だけは失わずにいることが大切であるという印象を受けました。この言葉は私の最大の原動力となりました。

それからいつのまにか、ごく自然に語りかけるように夜空に向かって想念を送るようになりました。初めはどんな曇りの日でも想念を送ると、少しづつ雲の間から月が現れるという現象が起きました。そして私が玄関の扉をあけると月も雲の中に隠れるのです。とても興味深くその現象のおもしろさを味わっていました。

そのうち雨の日も雪の日も月が見えるようになりました。後に天文手帳と自分で観察した月の記録を照らし合わせてみますと、二、三、手帳と合わない部分が出てきました。月に擬装した円盤の可能性があるかもしれません。

マイナスの想念では何の現象も起きないので、必死で想念のコントロールをしました。そのとき受ける印象も毎日ノートにかかさず書いてゆき、それ

を励みにしました。ちなみに想念は歩きながらも起こりますから、目をあけたままイメージと言葉で送りました。その時点でテレパシーの練習のつもりでしたので反応は求めませんでした。

とにかく一日もかかさないことが大切だと思い、月が見えないときでもがっかりせずに続けました。

### 自分からブラザーズに近づくこと

あるとき、ふと印象を受けたのです。私はひらめいたように次々とその印象を理解し始めました。その印象とは次のようなことです。

私はたしかにスペース・ピープルに積極的に呼びかけをしましたが、それでもまだ、反応を待っている。姿勢にすぎなかったのです。とても大切なのは、自分からブラザーズに一步でも近づこうとする気持なのです。

たとえその一步がたった一ミリでもいい。その一ミリを自分の大きな喜びにして、またその先へ進もうとする姿勢が大切なのです。そのことに気付いて本当によかったと思いました。ですからブラザーズに想念を送るときは、直接、ダイレクトに相手の心の中へ愛の想念と勇気をもつて入り込んで行くような感じです。

それからはUコン誌の書店卸しの帰りなどのように何か具体的な行動に出たときに、オレンジ色の光体を見せてくれました。また偶然とも思える人と

のつながりや、望んでいた本との出逢いが頻繁に起こるようになりました。

### 忍耐力をもって、ゆっくりと着実に

無理をせず、マイペースで何でも楽しんでやれるように心掛けるようになってから忍耐力が出てきました。進み方はカメのようにはゆっくりでも、一步一步忍耐強く進んで行くことが賢明だと思ふようになりました。また自分を過小評価することなく、同じ人間であるブラザーズを身近にイメージし、ブラザーズを手本にして歩もうと努力することにしました。それには何と云っても一日一日の積み重ねがとても大切だと思えます。昨日より今日、今日より明日の自分を少しでも良くしよう。そんな気持です。

最近UF Oの目撃だけに迫われがちで大切なことを忘れていたのですが、こうして東京月例会で体験講演をさせて頂くにあたってまたUF Oの不思議な出現があり、私をブラザーズが激励して下さったものと思つて初心に返ることができました。講演の機会を与えて下さった久保田先生と本部署員の篠さんに心より感謝申し上げます。

付記 その後、旅先、自宅付近でUF Oの目撃が増えてきました。超小型機、スカウトシップ(円盤)、母船などを目撃して、宇宙の偉大な友人たちの存在とご援助を再認識しています。

潜在脳力を開発し、願望実現を早める奇跡の音楽

# この音楽を聴きだしてから 願望が次々と実現し始めた

アメリカで話題騒然のスピリチュアル音楽ライブラリー  
ついに日本でも独占販売開始

### アメリカで各界から熱狂的注目を欲びる常識を超えた奇跡の音楽

「スピリチュアル・ミュージック」、「ニューエイジ・ミュージック」と呼ばれる不思議な音楽が遂に日本へも上陸しました。このスピリチュアル音楽に関しては、日本でもニューサイエンス関係の書籍や一般の雑誌・新聞でしばしば紹介されているので既にご存知の方も多いことでしょう。今から十数年前にウェストコースト（米国西海岸）で湧き起こった、意識と物質を同一の次元でとらえようと



●記憶力・集中力・創造力などの潜在能力が曲を聴くことにより自然に開発される。  
●一二年の長期にわたって、これらの曲を愛好していると、超能力者・ヒーラー（心霊治療家の典型的脳波であるアルファ波とシーター波の同時高レベル波形とよく似た脳波があらわれるようになり、その結果鋭い直観力——これがさらに高まると未知予知や読心力などの超能力——の持主になる。  
●夜、寝る前に聴くと熟睡でき、疲れが翌日にあまり残らず、朝の目ざめがとてさわやかになる。又、小さな事にクヨクヨしなくなる、包容

力がつく、他人に寛容になり対人関係がスムーズにゆくようになる等々の人格向上効果が見られる。  
●潜在意識が活性化されることにより、円滑現象（願望がスムーズに実現される、自分の思い通りの方向へ物事が進んでゆく等の現象）が起きるようになります。  
これだけでは、まだとても説明しきれないくらい驚くべき効果を持つたスピリチュアル音楽は、その多様な効能が、早くからアメリカの教育界・医学界・宗教界・実業界など各界から熱い注目を浴び、数々の実験・科学的基礎研究が今日まで行なわれていきます。

するニューサイエンス運動、エコロジー思想等のニューエイジ革命の嵐の中から生まれ出たスピリチュアル音楽——。

この音楽の特徴をまとめると、  
●作曲家・演奏者達が皆、30代前半から半ばと若く、瞑想愛好家の上、幽体離脱や超常現象を日常的に経験するなど、きわめて豊饒の意識が高い。  
●今までの音楽のように単に曲を聴いて楽しめるという点だけではなく、「もちろん音楽的に非常に魅力に富んだ曲が多く充分に楽しめるが」意識を高め、潜在意識を刺激するとうう、「意識・無意識への作用」という事に重点をおいて曲がつけられている。

### アメリカでは脳力開発に、願望実現にと幅広く活用されている。

アメリカでは、これらのスピリチュアル音楽の科学的な研究、神秘主義の側面からの経験データに基づいて、応用面での研究、実験もさかに行なわれています。現在のところ最も利用が進んでいるのは教育の分野で、サジェストベディア（超高速学習法）のバックミュージックとしてさかんにこのスピリチュアル音楽が利用されています。又、能力開発、霊性開発を目的とした瞑想教室では、スピリチュアル音楽はもう空気同然の必需品で、大脳の潜在脳力をめざまさせるのに著しい効果のあることが何千人の生徒達を使った実験でも実証されています。

又、成功を夢みるビジネス界のエリートの間でもスピリチュアル音楽はたいへんな人気で、脳力開発に、ストレートコントロールに、又、願望の早期実現のために、いろいろな使い方をされています。



◇「スピリチュアル・ヒットUSA」ライブラリーの中の1曲ご紹介◇  
曲名：TEMPLE IN THE FOREST  
作曲演奏：DAVID NAEGELE  
曲の内容：アコースティックピアノ、シンセサイザー、エレクトリックピアノ、自然音で潜在意識の波動をあらゆる森のリズムが形づくられる中を、「オーム」の神聖なマントラのバイブレーションが限りなく広がってゆく様をみごとに表現している。  
瞑想用に、又直観力・創造力開発に最適な曲の1つ。

### ★想像以上の効果にびっくり！★

はじめのころは何かおもしろい音楽だナっていう感じでも聞いていくと心が落ちついてくるし、まあ車の中へ聞くとしなやかな静かさが、くらくらの印象がなくなってきたのです。しばらくして色んな異常に気づきはじめてました。低血圧で朝は二ガ手だったのが、すこく寝ざめがよくなくなったのが、仕事がよくなりました。午前中の仕事のノリがよくなったとか、仕事上の判断が正確になったとか、みたくどジをやらなくなったとか。それにいちばんの異常は、女の子持に美人と話をするとどうも変なところへ緊張してしまつて話が土足りしたりして、どうも恋下手だったんですが、それが最近じゃ前みたいに変

は気負いがなくなり、ほんとに音楽にストレートに話ができるようになってきました。おかげで、会社の女の子がみんなボクの恋人に見えちゃってます。何か会社へ行くのが楽しくなり、毎日かかさず聞きます。次のテープが楽しみです。埼玉原 山口浩和 最近、人とのつきあいが信じられないくらいうまくいきます。

広島県 船越照政  
こうなつたらいいなあと思つてたことがもう立続けに二度も現実のものになつてしましました。

東京都 高見隆春

### 米国のスピリチュアル音楽ベストヒット48曲 24巻を一堂に集大成

アメリカンライブラリー社では今アメリカで最も人気の高いスピリチュアル音楽のベスト曲、48曲（テープ24巻）の独占販売権を獲得し、「スピリチュアル・ヒットUSA」として

日本の皆様にも頒布会方式で通信販売いたしております。  
「スピリチュアル・ヒットUSA」の頒布システムを説明しますと、初回から12ヶ月にわたって、毎月カセットテープ2巻が届けられ、支払いは毎回五、六〇〇円の送料三〇〇円。初回二回目以降を問はず、商品到着後5日間の無料試聴期間がありますから、万、曲が気に入らなければ自由に返品できます。（二巻のうち一巻のみの購入の場合は代金は半額の二、八〇〇円プラス送料）又、途中で購入をストップしたい場合は、所定の入力カード又は電話で通知すれば、その時点で購入を止められます。

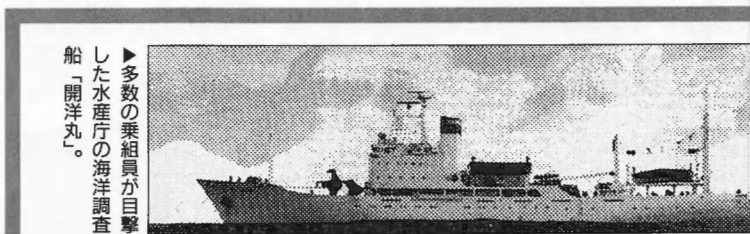
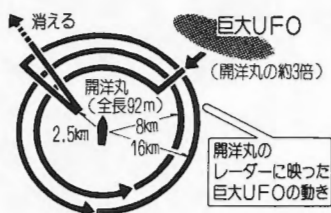
商品は、2週間前後で到着します。瞑想ガイドランス、願望実現マニュアル、脳力開発マニュアルがつけられていますので、それぞれ目的に応じてこれらのマニュアルを、ご利用下さい。

第一回目の試聴のお申込みは、〒107 東京都港区南青山1-26 4 アメリカンライブラリー社 U.F.® 係 電話 東京03(479)5864  
また、ハガキも電話で、住所・氏名・年令・職業・電話番号を明記の上、「スピリチュアル・ヒットUSA」試聴希望とお申込み下さい。



A Japanese Ship Encountering a Huge UFO

## 巨大UFOと遭遇した海洋観測船



▶多数の乗組員が自撃した水産庁の海洋調査船「開洋丸」。

## レーダーにタンカー大の物体、急接近「ドオン」

— 九人の証言

巨大なUFO（未確認飛行物体）が迫ってニアミス。水産庁の海洋調査船「開洋丸」（二、六四五ト）が航海中に二度遭遇したというUFO体験記録が、今月（八月）二十五日発売の科学専門誌「サイエンス」（日経サイエンス社）九月号に掲載される。目撃者は計九人になり、海洋水産資源開発センター調査員の永延幹男さん（三七）が代表して記録。UFOが船の周りをぐるぐる回ったり、レーダーに映し出される様子が科学者の目で克明に記述されている。日経サイエンス社は「信頼性は高く、特異な現象の目撃記録として掲載に踏み切った」としている。

## 太平洋西南部と中部太平洋で

永延調査員の記述によると、一回目の遭遇は昭和五十九年十二月十六日午前零時すぎ、場所はフィリピン諸島に近い大西洋西南部の海上。永延調査員のほか、操舵（そうだ）室で当直中の船戸健次二等航海士（三三）ら四人が北進中の船首前方上空で、オリオン座付近にフラフラと動く二等星ほどの明るさの光を目撃した。途中から東

（右方向）へ速度を上げて一直線に飛んだかと思うと視界から消えた。

この光は約十分おきに計八回同じ場所に現れ、うち四回は右へ、二回は上方へ、二回は下方へスピードを上げて消えたという。流れ星や人工衛星の動き方とは明らかに違っていた。

二回目は六十一年十二月二十一日午後六時ごろ。北東太平洋にマジジの資源調査のため向かう途中の中部太平洋で、操舵室の佐々木洋治二等航海士（四二）が、船の左舷（北方向）五〇の位置に巨大な円形の物体があるのをレーダーで確認した。日没前だったが双眼鏡では何も見えなかった。

さらに同午後八時半ごろ、当直を交代した下条正昭三等航海士（三九）ら三人が、別のレーダーで、ものすごい速度で動く巨大タンカーほどの大きさの物体を確認した。物体は船の前方から接近、八一十六キ離れて、またわりつくように船を二周した後、左斜め前方から二・五キまで接近。停止した途端、来た方向に真つすぐ引き返し、レーダーから消えた。

この直後、船の後方に再び出現して急接近し、村塚正信甲板員（三三）が、「ぶつかると叫んだ瞬間「ブオーツ」「ドオン」という音がし、これを何人も聞いた。この間、肉眼では何も見えず、衝撃の振動もなかったが、レーダーから顔を上げた村塚甲板員が船首前方に卵を押しつぶしたような形の赤

い光が一、二秒間輝くのを見たという。レーダーの動きから計算すると、この物体は長さ数百メートルが開洋丸の約三倍速さはマッハ4（秒速一・四キ）強だった。

永延調査員は①レーダーの映像は明らかにどんな飛行機よりも大きい②低空を超高速移動する③Uターンではなく、Vターンができる④真上を通過する時以外は音がしない⑤目撃者はいずれも目視観測のベテランである——ことなどから、通常の飛行機や自然現象ではなく、UFOだと結論している。

永延調査員は「科学者の一人として、事実をしっかりとした形で記録に残しておきたかった」と話している。

レーダーを製造している日本無線船舶レーダー部の話

レーダーにはいくつかの電波の種類があり、鳥の群れやスコールの雨域、雪などの自然現象もよく捕らえることがある。レーダーに映っても肉眼で見えない現象としては「偽像」といってレーダーを放射する船のマストや煙突の影響でとんでもない所に変な形として現れることもある。しかし、この物体の動き方や速さからすると、どれにも当てはまらず、通常では考えられないと言っほかはない。

（北海道新聞）一九八八年八月十五日付より。資料提供：日本G.A.P. 旭川支部代表・川上三秀氏、札幌支部代表・高野省志氏

## ■エジプト・イタリアの旅

日本GAP第十回海外研修旅行「エジプト・イタリアの旅」は去る八月三日より十四日までの十二日間実施。十三名の旅行団は歓喜と収穫の旅を終えて全員無事に帰国した。詳細は本号12頁よりの紀行「我らの惑星に愛と希望を」を参照。

## ■高松支部、誕生！

もと東京月例会や神奈川支部月例会の定連の一人であった関高明氏（香川県高松市）が今春故郷へ帰り、九月より高松支部を設立した。これに先立って四国全域と広島県・岡山県一帯の会員からアンケートをとった結果、約五十名の方から熱意ある賛同と激励が寄せられた。きわめて誠実にして信念の強固な氏を中心となる高松支部の発展が期待される。月例会については本号51頁の「全国月例研究会案内」を参照。

## ■今年度総会、空前の大盛況

かねてから予告されていた今年度日本GAP総会は去る九月二十五日午後一時より東京銀座七丁目の銀座ガスホールで、アメリカ東部よりアリス・ポマロイ女史を迎えて盛大に実施された。満員の聴衆に対しアダムスキーの高弟ボ女史は大講演で熱気と感動の波動を巻き起こし大喝采を以て終了。夕方は七時より中央区晴海のホテル浦島の虹の間大ホールでボ女史歓迎晩餐会を開催。約百二十名が出席。豪華多彩なプログラムが華麗に繰り広げられて十

時に終了した。詳細は本号44頁。

## ■旭川・札幌合同支部大会

去る六月二十六日、北海道旭川市ターミナルホテルで第七回合同支部大会が開催され、熱意に満ちた高次元な雰囲気にもまれて進行、五時に終了した。詳細は本号49頁。来たる十月二十三日には福岡市で福岡支部大会が開催される。詳細は本誌102号45頁に掲載。

## ■新潟支部主催UFO写真展

去る八月五日より九日までの五日間、新潟市内大和デパート八階文化センターで開催されたUFO写真展は計一千二百名以上の入場者があり大成功であった。特に初日には新潟総合テレビと新潟テレビ21の二局が取材に来てその日の夕方六時からニュース番組の中で放映した。新聞では八月一日付の新潟日報が夕刊の大和デパートの広告欄にUFO写真展を写真入りで紹介。八月五日付の同紙朝刊にも再度同デパート

の広告欄にUFO写真展の予告を掲載した。

会場では栃木支部製作のスライドを六回上映し、いずれも満員になるほどの入場者があり大好評であった。ビデオコーナーには本誌101号に掲載された長野県喬木村のUFOビデオと東宝ビデオ製作の「これがUFOだ！」を交互に公開、人だかりで通路がふさがるほどだった。

入場者には星支部代表が編集製作した「UFO写真展」と題する二十頁の解説書を無料配布して啓蒙の一端としたがこれも大いに喜ばれた。今回の新潟写真展は星支部代表と支部会員による控え目でも押しつけでもない、にこやかな客観的態度が功を奏した。

## ■六十四年度海外研修旅行

六十四年八月の第十一回日本GAP海外研修旅行は「アメリカ南米宇宙ロードの旅」に決定した。米西海岸ロ

サンゼルスを皮切りにアダムスキーゆかりのパロマー山天文台、パロマー・ガードンズ住居跡、デザートセンターのコンタクト地点その他を視察後、南米ペルーへ飛び、リマ、クスコ、マチユピチュ、ナスカの地上絵、ティティカカ湖等、幻想とロマンに満ちた大イアンカ帝国の遺跡を見学する。詳細については本号29頁を参照の上、案内書を申し込まれたい。八年前にも南米へ行ったが今は円高で費用が安くなっている。ただし今回ボリビアは除外。

## ■会員同士の華燭の典

去る十月十五日、GAP会員の青木雅孝氏（神奈川県秦野市）と越崎裕子さん（東京・GAP本部役員）が都内港区の八芳園でめでたく挙式。新婦の出身大学の地、米フロリダ州ハネムーン。新居は静岡県御殿場市。

以上の他に六十四年度はさらに一、二組が誕生するとみられる。

▼新潟支部主催UFO写真展。  
写真上の左より2人目が星支部代表。



〈国内有力紙に掲載された科学記事を抜粋紹介。各記事末尾のカッコ内数字は掲載月日を示す〉

### 火星にフォボス2打ち上げ

ソ連はモスクワ時間七月十二日午後九時一分、火星と火星の衛星に無人探査機フォボス2をカザフ共和国のバイコヌール宇宙基地から打ち上げた。フォボス1は七日に打ち上げられており、双子の探査機は二百日後に火星を回る軌道に到達。三カ月かけて火星を調査した後、衛星フォボスを回る軌道に入り五十日以上まで接近し、地質の調査をする(7・13毎日)。

### 「空」と「地下」夢のプロジェクト

通産省は八月十六日、東京―ニューヨーク間を三時間で飛ぶ超音速旅客機(SST、HST)の実用化技術と、大深度地下利用のための掘削、大空洞施工技术を来年度スタートする大型工業技術研究開発(大型プロジェクト)のテーマとして取り組むことを明らかにした。来年度から七年間でそれぞれ二百億―三百億かけて開発、二十一世紀の実用化を目指す。SSTはマッハ3、HSTはマッハ5のスピードで飛ぶ夢の旅客機で、米欧、欧州でも開発計画が打ち出されている。わが国も基礎技術開発に遅れないよう、国のプロジェクトとして超音速機の推進システムを手がけるもの。同システムはターボジェットエンジンとラムジェットエンジンを組み合わせたコンバインドサイクルエンジンと呼ばれる推進システム。一方、大深度の地下利用のための、もぐら技術開発プロジェクトは、地下五十メートル以上深いところに、大規模なドーム状(直径五十メートル以上)の地下空間を開発するために必要な技術が中心。①地質・地盤調査技術②掘削技術③環境、防災な

どの利用技術を開発するのがねらいとなる(8・17毎日)。

### ソユース、無事帰還

ソ連とアフガニスタンの飛行士を乗せたソ連地球帰還に失敗したソユースTM5宇宙船はモスクワ時間九月七日午前四時五十分、ソ連中央部カザフ共和国内のジェズカズガン市の南東百六十キロの地点に無事着陸した。モスクワ放送が同日午前五時半すぎ、音楽番組を中断してソユース速報として伝えたもので、また国営タス通信も無事帰還を速報し「ウラジミール・リャホフ船長(四七)、アブドル・アハド・モマンド飛行士(三七)の着陸後の気分は良好である」と伝えた。二飛行士の地球帰還延期は解説者が「無事帰還を祈るが、事態は深刻でもある」と語るなど、視聴者をハラハラさせる異例の報道ぶりだった(9・7毎日)。

### がん細胞を正常化する新抗生物質を発見

国立がんセンター研究所の西村連生生物学部長、岡田信子主任研究員らのグループは、がん細胞の増殖を止め、正常細胞に戻す新しい抗生物質を発見した。正常化した細胞は抗生物質添加をストップしても長期間、がん細胞に戻らないという。まだ試験管内実験の段階だが、がん発生の基礎研究に役立つだけでなく、全く新しいタイプの制がん剤開発が期待される。この抗生物質はアミノ酸の一つ、チロシンに似た物質(チロシン誘導体)で、ストレプトマイシン・チバネンシスという細菌が分泌する物質。がん細胞の増殖を特異的に阻害する物質を探しているうち、この抗生物質をみつけた。マウスの培養細胞に人のがん遺伝子である「Hras」を入れてがん化した後、同抗生物質

を加えた。すると増殖はすぐストップ、六日後には細胞の形も八五％は正常に戻った。そして正常に戻った細胞は、抗生物質を添加しなくても四カ月間(その後については現在観察中)も正常状態を維持している。がん細胞を正常にする抗生物質はこれまでいくつか見つかったが、抗生物質の添加を止めると、元のがん細胞に戻るものばかりだった。正常に戻った細胞十萬個を免疫機能を失ったヌードマウスに移植したところ、がんは一カ月間でできなかった(9・9毎日)。

### 丸山ワクチン、白血球増殖剤で製造承認申請へ

ガン免疫療法剤・丸山ワクチンの濃厚溶液である白血球増殖促進治療薬「Z1100」の臨床試験を続けていたゼリア新薬工業(本社・東京)と橋本省三慶応大学医学部教授(放射線医学)らの研究チームは十一日までに、放射線治療を受けたガン患者約百五十人へのZ1100投与例を検討した結果、放射線のために減少していた白血球の回復が著しいことを初めて確認した。このため同チームは近く、より多数の患者を対象に投与する「第三相試験」に着手するが、同社ではデータが得られ次第、すでに申請している「抗ガン剤」とは別に厚生省に白血球増殖促進剤として製造承認申請する方針(6・12読売)。

### インフルエンザ予防新薬ワクチン実験成功。鼻、ノドの粘膜に抗体

国立予防衛生研究所の病理学グループは北里研究所の協力で気道粘膜にウイルスをやっつける抗体をつくらせる新しいタイプのインフルエンザ・ワクチンの開発に成功した。ワクチンをマウスの鼻に

注入して四週間後、死亡率百割のウイルスを注入したところ、発病率がゼロでワクチンの効果が極めて高いことが確かめられた。開発したのは田村慎一・細胞病理室長と倉田毅病理部長(6・14読売)。

### エイズ感染細胞を「各個撃破」

エイズ(後天性免疫不全症候群)の病原ウイルスに感染した細胞だけを見つけて結合するモノクローナル抗体に毒素を付け、実際に感染細胞を選択的に殺す「ミサイル療法」の実験に熊本大医学部の松下修三助手(ウイルス学)を中心とする研究チームが成功した。試験レベルの実験とはいえ、エイズに感染した細胞を殺せることが確認されたのは初めてで、エイズの治療法につながる成果として注目を集めた(6・15読売)。

### 「茶」に抗菌作用がある

茶には薬効があるのか。この疑問に昭和和医学部細菌学教室の島村忠勝教授と戸田真佐子助教らがこのほど答を出した。茶には細菌の増殖を抑える効果(抗菌作用)があるという。玉露、せん茶、番茶、ほうじ茶、抹茶、中国茶、紅茶、コーヒーを用いた実験結果によると、人の指の傷口などから感染するブドウ球菌に対してはすべての茶に抗菌作用のあることが確認された。食中毒の主たる原因になる腸ビブリオにも多くの茶が有効だった。コレラ菌にもほとんどの茶が強い抗菌作用をもち、赤痢菌や食中毒をおこす他の細菌にも茶やコーヒーがいいことがわかった(7・1読売)。

### 「第三の力」新たな証拠

全米科学財団は八月一日、米国のロスアラモス国立研究所と空軍などの科学者グループが、自然界に働く「第五の力」



☆☆日本GAP企画第11回海外研修旅行☆☆

# アメリカ南米 宇宙ロードの旅

昭和64年8月9日→8月20日(12日間)

参加費用 ¥595,000/30名まで/分割払い可

●昭和64年度の日本GAP海外研修旅行はアメリカ西海岸と南米ペルーに決定しました。アダムスキー問題に関心のある方は一度ならず何度でも行きたくなるアメリカのアダムスキーゆかりの土地、南米ペルーのプレインカとインカ帝国の遺跡、謎のナスカの地上絵等、宇宙につながる特殊な場所をあこがれ訪う大旅行の素晴らしさを満喫して下さい。日程は下記のとおりです。

## 日 程 表

8月9日(水)夕方成田発、約10時間の飛行後、同日朝ロサンゼルス着。ただちに市内を見学、ファーマーズマーケット、オリベラ街、ハリウッドその他を視察。同夜ロサンゼルス泊。
10日(木)はバスで南下、モハーベ砂漠の一角、デザートセンターへ行き、1952年11月20日、アダムスキーが金星人と会見したコンタクト地点を見学。同夜ロサンゼルス泊。
11日(金)バスでパロマー山へ登り、アダムスキーガーター族と共に住んだパロマー・ガーデンズの住居跡、山頂の天文台を見学。バスでロサンゼルスへ帰り、深夜ロサンゼルス空港から空路ペルーの首都リマへ。
12日(土)朝リマ着後、市内を周遊、インカ時代の遺物を展示する国立人類学博物館、黄金博物館、その他史跡を見学。同夜リマ泊。
13日(日)朝リマより空路クスコへ。高地に栄えた太陽の帝国インカのかつての首都クスコのエキゾチックな街を散策後、午後はバスでサクサワマンに残る15世紀石垣城塞大遺跡、ケンコー遺跡、タンボマチャイ遺跡を視察。同夜クスコ泊。
14日(月)早朝クスコから列車で出発、アンデスの雄大な風景を眺めながら謎の空中石造都市マチュピチュへ。標高2500mの断崖絶壁上の都市遺跡へバスで登る。同夜はクスコ泊。
15日(火)朝、高原列車で出発。大アンデス山脈のまっただ中を10時間の列車の旅。雄大な山並みと大平原の牧歌的な素晴らしい風景を楽しみながら夕方チチカカ湖畔の町プノ泊。
16日(水)午前中は標高3800mの名高いチチカカ湖へ行き、トトラ葎を編んで作った浮き島で原始的な生活を営むウロス族を観察。湖畔を周遊。午後は円柱石塔遺跡シユスタニの遺跡その他を見学。同夜プノ泊。
17日(木)朝、空路プノ発リマへ帰り、さらに空路ナスカへ行き、ここで世界最大の謎のひとつとして有名な地上絵をセスナ機で観察(これは希望者のみ。要別途料金)。同夜リマ泊。
18日(金)夕方まで自由行動。各自リマ市内を散策。夕方空路ロサンゼルスへ飛び、夜、着。同夜ロサンゼルス泊。
19日(土)午前中、自由行動。午後ロサンゼルス発、空路日本へ。
20日(日)夕方、成田着。

※諸種の事情により日程等に多少変更がある場合もあります。

詳細については下記宛ガキに「64年度GAP旅行案内書送れ」と記してご請求下さい。お問合せも下記へ。

〒150 東京都渋谷区東3-24-9、サンイーストビル2F  
ワールドセブトラベル社 田中正(宛)  
☎03(499)2461/夜間は0474-77-4728(田中宅)へ。

の存在を示す新しい証拠を見つけたと発表した。研究グループはグリーンランドの氷原に直径十センチ、深さ千六百以上の深い縦穴を掘り、穴の中で特殊な装置を上下させながら重力を詳しく測定した。その結果、重力がニュートン力学の予想値よりわずかに高く、重力を強めるように働いている新しい力が存在することを裏付けた。自然界に働く力は、長い間、重力、電磁力、素粒子間で作用する強い力、弱い力の四種類だけと信じられてきた。第五の力が存在すれば同じ重さの物質でも理論的には地球への落下速度が違うことになり、ニュートン力学の大原則が当てはまらないケースが出てくるほか、さまざまな科学の分野や宇宙論に大きな衝撃を与えるという(8・3読売)。

中国でまた新しい毛生え薬が発売された。「現在最も理想的な毛生え薬」と薬学、医学者が太鼓判を押しており、日本でも爆発的な人気を呼んだ先行の毛生え薬と激しいシェア争いを演じそうだ。八月十四日付「経済日報」によると、この新薬は「麗爾(リアル) 高効生髮靈」。どんなハゲにも効き、特に脂症の脱毛には九〇%の効果があるとされる。人民解放軍軍事医学科学院基礎医学研究所が開発。「一〇一毛髪再生精」と同じ大きさの容器で月産三十万本。北京市内のホテルなどに一本二百四十二二百六十元(一元二約三十六円)で出回り始めた(8・15読売)。

五日、船型の水槽実験や六百五十馬力の超電導モーターの試験結果などから実用化のメドがついた。六十七年に設計を完了、完成すれば全長二百メートル、時速五十(九十二・六)ノット。日本とアメリカ西海岸を四日間で行ける、ジャンボ機の十機分に相当する約二千トンのコンテナ荷物が運べる(8・16読売)。

四日間で行ける(8・18読売)。夕暮れの空に巨大な火の玉。九月九日午後六時二十分ごろ東北の青森から長野、北関東や千葉、埼玉などにかけて広い範囲で巨大な火のかたまりのような物体が西から東にかけて飛ぶのを多くの人が目撃し、各地の警察や天文台に問い合わせが殺到した。目撃者によると満月の数倍の大きさで後方に尾を引いており、ジェット機のようなスピードで飛んだ。目撃した時間は数秒から四十秒近くまで分かれており、色についても「青白かった」「オレンジ色」「金色」とさまざまだった。航空機関連の事故情報はなく、新東京航空気象台のレーダーにも何もうつっていないことから「火球」と呼ばれる巨大な流れ星説が有力だ(9・10朝日)。

超電導船、実用化へ  
超電導モーターを使った超電導船の開発を進めている住友重機械工業は八月十

超電導船、実用化へ  
航空貨物に押され気味の海上輸送に再び活気を取り戻そうと運輸省は五十(時速約九十三)ノットの超高速で外洋を航行する「テクノスパーライナー」と名付けた新型超高速船の開発に乗り出すことを八月十七日までに決めた。水中に双胴型の浮力用船体と水中翼を持ち、九万馬力のガスタービンエンジンで海水をジェット噴流の形で噴き出す。アメリカまで

UFOs and the Compleat Evidence from Space  
by Daniel Ross

# UFO 宇宙からの 完全な証拠

金星、火星、月に関する真相  
●ダニエル・ロス／久保田八郎訳

連載第6回



荒涼たる死の世界といわれた月面には大気も水も生命も存在している！ 真相を知るNASA(米航空宇宙局)の隠蔽策を指摘し、正統派天文学界の盲信ぶりを突く衝撃の論説。

## 第6章 月の真相を暴露する

月には生命が存在する。

この主張はもちろん月に関する現代の科学的見解や大衆の知識に反するように見える。そこでひとつ読者に対して生命存在の根拠を徹底的に展開し提示することしよう。

月には空気も水も生命も存在しないのではない。これを証明するためのかなりの根拠がある。そして等しく重要なことは、UFO問題は地球に最も近い天体と密接な関係にあるということである。

まず最初に月に関するいくらかの真相を述べることにし、次に信頼し得るデータを綿密に再検討してみることにしよう。

(1)月はかなり量の量の大気を保持している。標高最低の土地で一平方インチあたり約四百二十二グラムある。  
(2)月は従来の理論値よりもはるかに強い引力を持つ。それは地球の引力の五〇パーセント以上の値となる。

(3)月には水と植物が存在する。

(4)常に地球に面している表側と、月の軌道からしか見えない裏側とのあいだには環境的に大きな相違がある。

(5)月にはスペース・ピープル(宇宙人が生活している。表側には人工的な基地群、裏側にはより自然な形の基地群が存在する。その証拠はこれまで写真に撮影され、確認されてきた。

人が何かに関して真相を学ぼうとするとき、古くさい考えや、ありふれた間違った考えなどをずるずると引きずってはならない。いつときそれらを捨て去る必要がある。われわれはある学生が、自分がすでに知っていると思っている物事や信じてきた事柄などを教授に話すためにのみ大学の授業に出てくるのだとは思わない。そんな人物はすぐれた学生だとはいえないだろう。また彼が大学の権威者を万般の知識を持つものとして認めるにすぎないならば、やはり優秀な学生とはいえないだ

ろう。

本人は努力して新しい知識情報を学ぶ必要がある。そうすればその新しい知識情報とこれまでの限られた知識とを比較研究できることになり、そうすることによって、これまで一般に受け入れられてきた知識を超えて前進する道を知ることができるだろう。

## 真相を隠したNASA

月に関しては、一九六九年から七二年にわたる有人月探査計画に関して見聞させられた情報以外に人々はほとんど何も知らない。月着陸船(複数)の着陸地点は比較的月の赤道付近で、予想どおり荒涼とした不毛地帯だった。

というよりもむしろそれらの地域は初期(一九六六年―一九六七年)の無人ルナ・オービターの観測によってあらかじめ決定されていたのである。

こうした理由のため、人々が我らの仲間の天体である月をむしろつまらない存在と思うように仕向けられたのは仕方がないことである。しかし本書に述べる信すべき根拠によって実は月がきわめて興味ある世界であることを証明するつもりである。

宇宙飛行士たちが月面で徒歩または月面移動車に乗って活動した範囲は、わずか数キロメートルだった。ところが月の全表面積は約三千六百万平方キロメートルもある。

また月を回る軌道上のアポロ宇宙船

は月面の二〇パーセントを詳細に撮影したにすぎない。この計画には、その発見事が公表されるにせよ、されないにせよ、やむにやまれぬ限界があつたのだ。しかし月に関して長く認められてきた理論やオーソドックスな考え方を変えるような情報は、NASA(米航空宇宙局)によって述べられなかったし、科学界にも伝えられなかったのである。「月には空気がなく生命も存在しない」という発表によって、基本的な偽購(ごん)があらゆる公式発表に浸透していた。しかし少数の発見事が結果的には洩れたのだ。これに関しては後程述べることにしよう。

## クレーター内の不思議な現象

火星の場合と同様、ここでも天文学者たちの望遠鏡による記録の世話になる必要がある。百年以上におよぶ観測の結果、月面における周期的変化、大気現象、そして知的にコントロールされた活動などが存在することを立証した。霧、黒い物、点滅したり輝いたりする光、クレーター(複数)内で変化する植物の色、黒い点や球体群、動く影、不可解なドームの突然の出現などが、慎重な望遠鏡観測によってすべて記録されたのである。われわれはいく冊かの科学雑誌や書物にこれらの詳細な証拠を見ることができ。この記録

されたデータのなかには検討を要するものが含まれているけれども、ほとんどは議論の余地のないものである。

保守的な科学界でさえも、不思議かつ不可解な光が月面に見られてきたことを認めてきた。そして科学者はこれらの光を「つかの間の月面現象(TLP)」として分類したのである。こうした奇妙な報告類の二〇三を検討したある記事の中で、「ナショナル・ジオグラフィック」誌一九六九年二月号は次のように述べている。

「このような報告がもし八百件以上にのぼらず、さらにそれらの多くが権威ある天文学者たちによるものでなかったならば、だれも注意を払わないだろう。」

こうした目撃は少数の地点に集中して行なわれた。とりわけアリスタルコス・クレーターとアルフォンズス・クレーターである。それらは一時的に輝く点、赤い輝き、赤と青のスジ、幕状のもの、紫色がかつたもの、その他、つかの間の現象として一般に知られる奇妙な現象類である」

(原著者注)この八百件という数字はきわめて控え目な数である。実際には何千件もの報告がなされていた。英国王立天文学協会は、ほんの二年間の観測だけで少なくとも千六百件の奇妙な光の観測を記録したのである。多くは輝き、多くはキラキラ光る光の点であった)

## 月面にドーム群が出現!

一九五三年、すぐれた天文学者で月に関する名高い権威者であるH・P・ウィルキンズ博士は、月面にドーム群が最近発見されたと発表し、その数が急速に増大しているにつけ加えた。同様な報告が多くの特門観測家たちによってなされている。

ウィルキンズはそれらの突然の出現が説明できなかったが、他の天文学者連も不可解だった。というのは新たに発見されたドーム群は望遠鏡によって特定することがほとんど不可能だったし、はやけた状態が決定的な結論を出すのを妨げたからである。

しかし二百を超える不思議なドーム群の出現は、何かが確実に発生していることを示していた。

この独自の情報が一九五〇年代初期に流れたとき、米政府は控え目に言ってもこれに注目したのである。その現象を克明に見るため、しかもそのゆえに月面で発生している出来事をつきとめるためには、巨大な望遠鏡を用いる必要がある。したがって米国防省はパロマーを含む二〇三の大天文台に依頼して極秘の観測研究を行なわせたのである。

## 月面に巨大な橋も出現した!



この研究が行なわれていたあいだ、ピュリッツァー賞科学作家のジョン・J・オニールによって驚くべき発見がなされた。

一九五三年七月二十九日の夜、月面の危機の海一帯を観測中、彼はその北部地域に存在した物体を見て仰天した。二つの突き出た峰に架かっている長さ約十九キロメートルのまっすぐに伸びた橋があるのだ！ それは地上に影を落としているばかりでなく、その下に日光がさし込んで見えた。

彼がこの発見を公表してまもなく、イギリスの一流天文学者H・P・ウィルキンズ博士とパトリック・ムーアの二人がその橋の存在を確認したのである。

その年の十二月にBBCラジオのインタビューでウィルキンズ博士は、この一連の観測に誤りはなく、この建造物はずつと変わらずまっすぐな形で今もそこにあり、土木工学的な物体のように見える」と説明した。

一方アメリカでは新発見のドーム群を調査する国防省の研究が続いていた。光る現象と各種クレーター内のこれらのドームの出現のあいだには明らかに関連があったのだ。極秘の討論によって、地球に面した月の表側にある種の建築ブームが進行中であった可能性が認められた。しかも月固有の人類によるのではなく、惑星間を航行するUFOに乗ってくる訪問者たちによるのだ

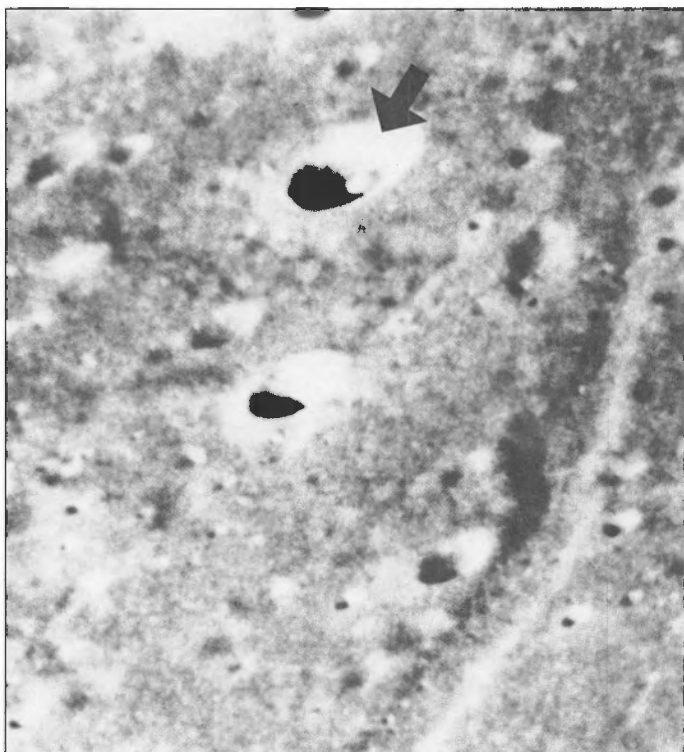
というのである。

オニールの謎の橋もパロマー山で働く天文学者連によって目撃され、分光写真分析の結果、それは金属の構造物だということを証明した。

(原著者注) 私はこの橋がおもそこにあるという最近の報告を見つけることができないので、非常に巨大な母船が着陸したのではないかと思う。もし修理その他の作業を行なう必要があれば、母船は山の二つの峰にまたがってそれ自体を支えながら着陸するだろう。しかしこの謎に関しては、他の地域(複数)に後になって出現したものと小さな恒久的な橋(複数)があり、現在もそこに存在している)

### 月の異星人活動を国防省は知っていた

こうした極秘の研究が続いたあいだ、数カ月にわたって慎重な観測を行なった結果、月面における異星人の活動の存在が確認された。そしてその新しい確証は地球の上空で行なわれるUFO活動の間断なき報告と見事に一致していたのである。各情報機関はUFO問題を機密扱いにし、大衆の目に疑わせる任務を負っていた。国家安全保障局は、月の表面で何の変化も起こっていないと言いつける組織化された天文学界の主張などを気にしなかった。月面で何かが可視的な変化を起こしていたのだが、探知は困難だった。そ



▲月のクレーターの中にある人工的な白いドーム(矢印)。アポロ宇宙船飛行士が撮影。

れで世界最大の天文台のみが可能だったのである。月面の諸変化は自然発生によるものではなく、地質学的な原因によるものでもなかった。

実は、観察された月面の諸変化なるものには、ドーム型の格納庫、橋のような構造物、少数のクレーター壁に沿っている採掘用切り通しなどを含んでいたのだ。

これらの知的な活動のシルシと、以前には「つかの間の現象」として説明できなかった奇妙な光体群が関連していたことは疑問の余地なしに認められたのである。国防省のひと握りの人た

ちが月に関するその解答を把握していた。そして彼らは宇宙探査機が月へ送られて写真を送り返すようになるまでにはかなりの年月がかかることを知っていた。だから科学的な隠蔽と大衆に対する欺瞞を続けるのに必要な方法を準備し完了するための十分な時間はあったのだ。

米政府(すなわち国防省とその各機関)はそのときから大望遠鏡を持つ天文台で行なわれる月観測研究を、国家安全保障という名目によって組織化し統制することに決めたという、初めからわかりきった結論を考慮にいれる必

要がある。正規の天文学界については気にする必要はなかった。彼ら天文学者は月に關してほとんど関心はなく、恒星や銀河系の研究を好んで、月を無視することを選んでいたのである。

この傾向は一九四〇年頃から定着していた。その頃、望遠鏡による月に關する研究のすべてはすでに達成されたという考え方が一般に受け入れられていたのだ。たとえ彼らが月を放棄したことを取りやめようとしたとしても、自由を利用できる望遠鏡では、あの異常な諸変化を確実につきとめるほどの解決を与えないだろう。そして実証し得る、写真による明確な証拠となる記録がない限り、月面で何かが変化したという意味のコメントまたは推測などを出しても激しい反論を呼び起こし、それに対抗して優勢を誇る正統派の重圧に屈するだろう。

### 天文台を押さえた米政府

一九五三年以来、国家安全保障局はUFOに關する情報の公式機関の背後にいた。そして今や月面における異星人の活動のいかなる証拠に關しても、同局が安全保障の名で取り締まること

が等しく必要となった。  
一九五四年までには月に關して大天文台が行なう写真撮影または公式発表について指導基準と規制が設定された。その年の後半に政府は火星の方向にも

動き出したが、まず規制を強化し、次には、前章で述べたように火星パトリック委員会からの公式報告の抹殺を圖つた。そして人間は存在しないという説をしりぞける可能性のある月、火星、金星の調査研究は、今や国家の安全保障の問題になったのである。

どのようにして政府はこんな力が持てるのか？ 大天文台はそれ自体の収入源を持たない。それは商業ではないのだ。天文台運営の莫大な費用は助成金や政府資金でまかなわれている。一學術団体は政府が財政的に援助するならば（その資金がなければ成り立たない）それは権力に屈することになるのである。これがわれわれの世界のシステムが機能する実態である。

たとえば世界最大級望遠鏡の基地であるパロマー天文台を例にあげよう。この天文台の建造物は三種類のロックフェラー關係団体によって資金が提供された。後の開発と運営はアメリカ科学財団とNASAによって資金が出た。初期の多くの宇宙開発プロジェクトのために、NASAはパロマー天文台と契約し、プロジェクト計画と探査後の研究で援助してくれと要請した。

このプロジェクトは共同開発であつて、NASAの公表された業績に対抗するような天文台側公式発表はあり得なかつた。そして惑星の探査研究の間中は、天文台のスタッフは当然のこ

う本来の仕事にもどつたのである。

### 政府は月面のUFO活動を 知っていた

月と火星の望遠鏡による観測研究と考察は、一九六〇年代なかばには古くさくて無意味なものになつた。というのはNASAのレインジャー七号が一九六四年に月を写した最初のクロウズアップ写真を送り返し、マリナー四号が一九六五年に火星表面の少なくともそれらしい写真を撮影したからである。このわずか二年以内に宇宙探査機による写真が、地上の望遠鏡がもたらした最上の写真を凌駕して、惑星に關する情報のすべては全くNASAの領域下に入つてしまつた。こうして一九五〇年代における大望遠鏡による月の極秘観測研究から、今や一九六〇年代のNASAの宇宙開発による極秘諸発見へと発展したのである。

「受け入れられそうな」写真類とデータだけが公表されたが、これは真実のなかのほんの一部である。正統派がダメージを受けることはなかつた。古くさい理論を打ち破るような事実は何一つ発表されなかつたのである。科学者たちはまさしく彼らが熱意をもつて期待していたとおりのものを与えられた。岩石やクレターの写真、荒涼たる、空気も水もない月の写真などである。

政府はUFO（複数）が月面にいた

のを知つていたが、地球上空におけるUFO活動と同様、国家安全保障局の指示する問題として公式に否認または不信に付され、真相は完全に押さえられたのである。

### 月面のドーム群は 異星船の格納庫

『我らの月』の著者である故H・P・ウィルキンス博士を含むあの昔の観測者たちに鮮明に出現したドーム群はいつたい何だつたのだろうか。ウィルキンスは明確な意見を述べていないけれども、ほとんどのドームにはその頂上に穴があつたと記録している。この報告されたドーム群のほとんどは太陽系の地球付近を航行する惑星間宇宙船のための格納庫なのだ。そして頂上に見えた「穴」は出入り口である。

理想的なシーイング条件下の夜、三十六インチ望遠鏡で識別できる月面の物体は、少なくとも一・六キロメートルの大きさでなくてはならない。しかも望遠鏡によって明確な物に解像するには、その物体が何倍も大きくなければならぬ。それでも地球の大気は望遠鏡で見える像をぼやけさせる傾向がある。

記憶すべき基準は、直径約六・四キロメートルのクレターが月面上の地形として解明され得る最小の物だということである（ただし月面の光現象はそれ自体が光を發しているので、普通

の望遠鏡でも見ることができ(る)。これに比較してパロマー山天文台は二百インチ(五メートル)の望遠鏡をそなえているので、そこで政府の秘密研究が行なわれたのである。

ときどき天文学上の報告として、小さなクレターが消滅して、その跡に白い点またはドームが現れたという指摘があった。またその新しい凸面が楕円形をしていたという報告もたびたびあった。

しかし後に観測すると、数週間または数カ月後にはその表面はふたたび元のクレターとして現れたのである。これらの一時的に出現したドーム群は、いつときその場所にいた巨大な宇宙船だと説明してよいだろう。

## 月面の真相を伝えた アダムスキー

宇宙人たちから彼ら自身の月面活動について直接に聞かない限り、政府の各種情報機関が月の秘密研究で知った事柄の内容を推測するのはむづかしいかもしれない。これまでに述べてきた内容は、証拠固めというよりも論理的な理由付けといえよう。なぜなら秘密研究の結果は(もちろん)公表されていないし、(不思議な月の光や不可解なドーム類の)天文学上の記録も、それだけでは前記の結論を証明するには不十分なのだ。

しかしその確証は宇宙から来た訪問

者たち自身からもたらされている。このことはジョージ・アダムスキーの二冊目の著書『宇宙船の内部』の中で述べられているのである(訳注Ⅱこの書の日本語訳は文久書林刊・アダムスキー全集第一巻『宇宙からの訪問者』中の第二部に収録。本号50頁を参照)。

月の状況に関して、月面で活動している人々から直接知識を得る方法以上にすぐれた学び方が他にあるだろうか? 一九五五年に出版されたアダムスキーの著書は、UFOと別な惑星から来る訪問者たちに関する最も明確な最も完全な情報源である。

一九五四年八月の接触で、アダムスキーは金星の母船コンタクトに乗る機会を得た。飛行中にその宇宙船は月になりに接近し、操縦室にいたアダムスキーは月の一部分の詳細な光景をクローズアップで見せられたのである。進歩した形式の望遠鏡による画像が大きなスクリーンに映し出され、月の表側の謎のドーム群を見ることができた。

宇宙の友人が彼に教えた。

「あなたがごらんになっているのは地球から見える側の月面ですが、私たちはそこに着陸するのではありません。この光景は、最初あなたが来られたときに操作されなかった望遠鏡から、このスクリーンに投影されているのです。本船は月の表面に接近しますから注意して見て下さい。かなりな活動状況が見えます。

地球から見える多数の大クレターの中に、巨大な格納庫(複数)が見えますよ。——地球人はこのことを知っていません! 注目して下さい。この地形は地球の砂漠とほとんど同じなのです。

私たちは本船よりもはるかに大型の宇宙船が容易に入れられるように、こんな大規模な格納庫を建設していますし、これらの格納庫の内部には多数の作業員とその家族用の宿舎があり、あらゆる設備がしてあります。豊富な水が山々からパイプで引かれています。これはちょうど地球の荒地を肥沃にする目的で地球人がやっているのと同じです」(訳注Ⅱこの部分は『宇宙からの訪問者』三〇六頁に掲載されている)

## ガンは頑固な天文学者の 独断的見解

次のような結論には皮肉な調子が含まれている。米政府が月の活動のシルシを調査していた同じ時期に、われわれの世界は月の植民地から観察されていたのである。この人工基地から惑星間の訪問者たちはわれわれが核時代に入つてゆくのを観察する準備ができていたのだ。

彼らの観測地から見て、地球上のわれわれの活動のシルシはかなり不気味に見えに違いない。なぜならわれわれは破壊力を試すために、おびただしい数の原子爆弾を大気中で忙しく爆発

させていたからである。

月面上のこのような活動すべてが大気存在しない所で行なわれたと考えるのは不合理である。もし人々が宇宙船の外で快適に過ごせないとすれば、橋や主要設備を建設することは不可能だろうし、造つても意味がない。外に空気がないために人間が宇宙船の中に閉じ込められているとして、なぜ物を造るのだろうか。どんな目的に役立つのだろうか。

月に空気があるのだろうか? この疑問を解くには充分な調査を必要とする。しかもこの問題には論争が設定されるのである。

この争いは常に次の二分野のあいだで行なわれてきた。月理学、すなわち月の専門的研究分野と、天文学の分野すなわち天体、特に基本的には恒星の研究と位置づけである。

宇宙時代以前でさえ、月の研究に生涯を捧げた人々によって月が観測されていたとき、月が大気を持つている徴候があらゆる場合にあった。しかるにきわめて卓越した月理学者たちによる慎重かつ的確な観測も、生涯のうちただの一カ月も月面観測についてやしたことがほとんどないような正統派天文学者連の頑固な学説をへこますことはできなかつたのである。

元ハーバード大学教授のW・H・ピカリングは次のように記している。「月が何の変化も起きない死の世界だ



という考え方は、最も不十分な根拠にもとづいているにもかかわらず、一般大衆のみならず天文学界にもきわめて広く、きわめて根強く定着しているのだ。一流月理学者すべてが全員一致で出した意見は、それに対してこれまでほとんど印象を与えることはできなかった。

「この問題の両面に関する議論はきわめて単純である。月理学者でない天文学者連は、月には空気も水もなく、したがって何の変化も起こるはずはないと主張する。一方、月理学者連の回答は、『自分たちは変化する状態が発生するのを見たのだ』と言っているだけである」

月面の周期的変化と火星の望遠鏡によつて観測された変化する状態を比較してピカリングは次のようにつけ加えている。

「月面上の類似の諸変化に関する唯一のもっともらしい説明としては、これらの変化は同一の原因で起こっているということであろう。そうだとすれば、それらは空気と水の存在を意味することになる」

月に充分な空気と水が存在することを示す以外の何物でもない、観察された自然の諸変化を専門的に論証した書物類が宇宙時代という時節までに書かれたが、ピカリングや他の学者が述べたように天文学上の確立された独断的見解をゆるがすことはできなかった。

そして宇宙時代の到来とともにNASAは月の謎の現象の領域を分捕ることができたのである。

この官僚的な政府機関は、状況の心理学的効果を十分に理解していた。つまり、世界一流の月理学者連といえども、月は死んだ変化のない世界だと公言していた正統派科学をそれまでにへこますことはできなかったという事実である。NASAを通じて公表される宇宙探査機の発見事によつて、「そうではない」という否定し得ない確証が出ない限り、状況は変わらないだろう。

### 真実を発表できない理由がある

空気も水もない月というのは正統派科学者連の宗教であった。そしてNASAがこの宗教に手をつけられない限り、政府は「生命のない月」という信条を永遠に教え、おおよげに提議する注文どおりの科学界を保持することになる。その公式は簡単だった。彼らが期待し、聞きたがっている物事だけを与えるのだ。そうすれば真実の発見事や月の特性は隠され、管理している秘密機関に知られるにすぎない。

役人たちはUFO問題を抑制できなかったのだろうか。これも異なるものではないだろう。経済、軍事、政治の各界は、自分たちの強力な立場を弱めるのに役立つような真相はいっさい発表しないのである。

月は宇宙開発計画を通じて、ただ機械的な新装置を送るための標的としておもに描かれていた。重力を克服するわれわれの人工的な方法や、元来危険を伴うロケット工学の面で見れば、ともかくも小さな業績ではなかったのだ。ただし出費も大きかったのだが――。

しかしわれわれは月に関して実際には知らされなかった。なぜなら真相を知らせれば地球上の諸状況の成り行きは取り返しのつかぬほどに変化するからだ。

本書で前にも述べたが、繰り返すと、一九六〇年代におけるNASAのおもな特命作戦は、人間を宇宙空間に送り出すことであつた。しかし政府は地球の彼方の宇宙空間の真相を洩らさないことが絶対に必要であると考えていた。この世界のものと考え方が、宇宙空間の完全な真相を受け入れる準備ができていなかったのだ。つまり宗教、間違つた知識にもとづいた組織体、政治的軍事的イデオロギー、誤つた経済の国際的システム、多くの組織化された科学団体などのすべてが準備できていなかったのである。

もしNASAが月に生命が存在することを一言でも洩らせば、その生命あるものが月固有のものにせよ外来の生命体にせよ、月面に生えている苔だろうが宇宙旅行者だろうが、多くの強力な団体や組織体に大打撃を与えることになるだろう。自称科学権威者連は無

知をさらけ出し、信用を落とし、失格の烙印を押されるだろう。世界中で学生の反乱が起こるだろう。

NASAは政府に支配されており、かわつて政府は利権を与えられた諸勢力に支配されている。だからNASAは命令に服従しなければならなかったのだ。宇宙空間に関する真実を発表すれば、いつわりの権力の根底そのものをゆるがすことになるだろう。

### 偉大な先駆者、ジエサップとフアイソフ

真の月環境を確立するのに必要な解答を出すには、宇宙時代以前の月理学記録の徹底的な調査を必要とするだろう。読者は気づいているだろうが、NASAが自分たちの有人宇宙飛行によつて月面の生命活動の確証を見のがしたことなどはあり得ない。専門の月理学者らによる初期の仕事も、月探査から得られた最新の、立証された宇宙科学によつて証明されるだろう。現在の業績は月に本当の生活環境があることを最終的に立証するだろう。

宇宙時代の直前、きわめて優秀な二人の天文学者が月に関する明確な記録を刊行した。二人とも過去五百年間の望遠鏡による観測研究や科学的記録を熟知しており、自分たちの観測結果とを比較して、月の大気存在と同期的な変化を決定的に証明することができたのである。

大気の密度は特定できず、なおも推測の域を出なかったが、大気による顕著な効果は明白であった。彼らは二人とも最高の科学者であり、他の専門家たちの月に関する研究も完全に理解していた。最初に出版したのはM・K・ジェサップである。

南半球最大の反射望遠鏡を設置した天文台を南アフリカに建設する前、ジェサップはミシガン大学で天文学と数学を教えていたが、その間天体物理学の博士論文を作成していた。彼の一大成果である『UFO問題の発展』と題する著書は一九五七年に出版された。

もう一人は一流科学者で月に関する権威と認められるV・A・ファースツである。彼の時宜を得た研究成果は一九五九年に出版されて、科学的研究によって当時知られていた月に関する情報のほぼすべてを記録していた。

『月という不思議な世界』と題するこの本は、月の大気の否定し得ない証拠と地域的に水と植物が存在する高度な可能性を提示した。十年後にファースツは無人宇宙探査機が送り返した情報と写真類の詳細な分析によって、二度目の著書で月の大気存在に関する情報その他を決定的に証明したのである。しかし一九六九年に出たこの書物のことは少しあとで述べることにしよう。

ジェサップの『UFO問題の発展』とファースツの『月という不思議な世界』はどちらも見つけるのがむづかし

く、後者は地質学、天文学、工業科学などに大いなる関心がなければ読むのさえむづかしい。

しかしこの二冊の書物を調べてみれば、後年NASAが月の環境に関する真相を巧みに隠したことを証明していることがわかるのである。最終的な分析において、NASAは人類に対して一つの事だけを証明したのである。それは宇宙船が月へ行って帰ってくることは技術的に可能だという点である。人間にとっては技術的な成功だが、人類にとっては恐ろしい隠蔽工作になるのだ。「恐ろしい」には「困難を乗り越える」の「むづかしい」という意味がある。

今日、月に生命が存在するかもしれないと信じている人は千人に一人さえないかもしれない。しかし生命はそこに存在するのだ。ずっと存在してきたのだ。

政府は秘密裡の観測研究によって一九五〇年代にはそのことを知っていた。また、ある地域の気候と温度をやわらげる大気があるし、しかもそれは植物を育てるのに十分な濃密さを持つ大気である。

### ピカリングによる月の大気存在の証明

月は独特な時間周期を持っている。地球の二十九・五日で基本的にすべての季節を終える。いかなる縦方向の地球でも太陽の昇り沈みにつれて（地球

の時計で計って）十四日間の陽のあたる日が続き、別な十四日間は夜の暗黒が続くのである。月の軸は黄道面に対してほぼ垂直であるため、異なる季節がなく（冬も夏もない）、一カ月の周期があるだけだ。

元ハーバード大学教授W・H・ピカリングは、月による木星と土星の掩蔽時に、大気による効果を撮影した。掩蔽とは天体が地球により近い惑星または月の後ろを通過するときに一時的に見えなくなる現象を意味する。

それぞれ別な機会にそれらの惑星が月の縁と接する線上にあり、一部分が隠れたときに、ピカリングのネガフィルムには木星と土星の輪郭を横切る鮮明な暗い帯が写っており、弧幅三秒と測定された。

言いかえれば、月の大気は写真に写るほどに十分な密度を持って、月面から四・八キロメートルも伸びているのである。この観測は専門の月理学者バーナードとダグラスも行なっている。

月は金星よりもはるかに小さな天体である。その体積は金星の大きさの三パーセント以下だ。したがって月の大気の総量は金星よりはるかに少ないだろう。しかし表面付近の実質的密度は比較的高いかもしれない。高度四・八キロ以上になると月の周囲の大気密度は急速に減少するようである。

一方、金星の大気層ははるかに上空まで伸びていることが知られている。

月面上空六・四キロの大気密度は、金星上空六十四キロの大気密度に等しいかもしれない。われわれの現在の学説でこの現象を説明するのは不十分である。あらゆる天体の実状は、その質量、体積、実際の表面重力で定まるのである。

あとで説明するが、月の引力は一般で受け入れられてきた数値よりも三〜四倍は強いので、各天体の実態を予想するための簡単なモデルまたは公式などはないのだ。そして惑星の大きさや質量との確な関係とともに重力が完全に理解されなければ、一惑星の大気状況を他の惑星を基準として説明することはできないだろう。

わかりやすく言うと、たとえば表面の大気密度がわかっていても、その天体と重力との複雑な関係がわからない限り、大気の広がりや各高度での密度などを予想することはできないのである。

なぜこのことが重要なのか？ 天文学者連は、月の大気の問題は恒星が月の掩蔽を受ける様子によって解決できると常に主張してきた。星々が月の縁の後ろを通過するときに瞬間的に隠れるように見えるので、天文学者連は月に大気があるはずはないと簡単に結論を出しているのだ。もし月に気体の層があるとすれば、その効果は金星による恒星の掩蔽の場合と同じほどに明瞭になるはずだと天文学者連は言っている。金星では展開する大気が恒星をチララさせて、それが金星の縁の後ろ

に消える前に急速に輝きを薄くさせるのである。しかし金星の大气はあまりに濃密で、しかも金星は大きいために大气の効果を比較することはできないのである。

## ファースト月の大気を 確認した

最近の月研究者ウィリアム・ブライアンは、月では強い風が吹かないことやその他の気象条件のために、大変澄んでいるだろうと示唆している。月の

大气は通常、表面の風によってホコリや水蒸気を運ばないだろうから、光の拡散と散乱の効果は最小だろうと指摘している。したがって、たとえ月が濃密な大気を持つていても、恒星の掩蔽は明確なものにはならないだろう。

ファーストは一九五七年三月に六・五インチ反射望遠鏡を用いて二個の恒星の掩蔽を観測したと著書に書いています。どちらの星も月の縁に接触してすぐに消えたのではなく、急速にぼんやりとして、次に強く輝きながらチラチラし、またぼんやりとして最後に見えなくなりました。

この観測時の月は新月から二・五日目の薄い三日月であった。そして月がもつと満ちていたならば、たぶん月の周囲の月光の輝きをパツクにしているために、星の掩蔽による現象は見られないだろうとファーストは述べている。ここでは月の異なる諸条件を扱っているので、観測結果は金星の大气効果を観測するほど容易に出てこない。この例はタイミング、シーイング条件、それに最も重要なことだがプロとして客観性などのすぐれた組み合わせにあったと思われる。

実際、ファーストは、その観測は月の大气の明瞭かつ間違いない確証であったこと、月の表面に低く垂れ込めた気体の層があると書いています。

この主張に対してアメリカ月惑星観

測家協会による研究から提供された証拠をつけ加えてよい。このフリー天文学者の団体は月の表面近くできらめくかすかな流星の観測結果を数十例も記録した。月を取り巻く大気がこれらの流星に十分な摩擦を与えたために、地球の観測者にとって白熱光となったのである。

ファーストはまた一九五五年五月に月の南極付近でオーロラ状の光のスジを目標したと記録している。彼が望遠鏡をのぞくと、踊るようにきらめく輝きが見えて、その中からかすかな光線が急に離れ、月の空へ垂直に上昇した。上昇するにつれてその光線は強烈な光になり、そのうち下方から薄らいでいって、ついに消えてしまった。

この光線の長さは推定百六十キロメートルに達したが、このオーロラ現象はかつて彼がスコットランドで見たことのある北方の色あざやかな光を思い出させた。この現象もたしかに大気を必要とするのである。

## 月の薄明を目撃したファースト

ファーストが指摘したように、月の大气は希薄かもしれないが、それでもやはり以上述べたこれら各種の観測結果の原因となつている。彼は当時慎重に取り組んだのだが、その当時の一般化した重力の学説を考えれば、これはたぶん妥当であろう。

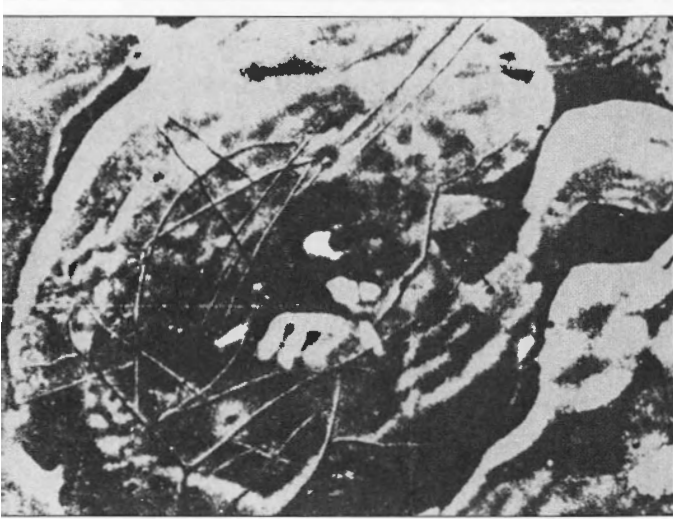
しかし月に関する基本的な仮説類が根本的に誤っているかもしれないことを他の諸発見で示唆している。そして不思議な月世界は多くの驚嘆事を起こすかもしれないことも示唆しているのである。

一九五四年七月二十二日、ファーストは月面の雨の海に接してひとときわそばえ立つアペニン山脈の夕暮れを望遠鏡で観測していた。比較するために各種のフィルターを使用しながら、彼は月面の日没が間違いない赤に染まるのみならず証明したのである。この現象は他の天文学者も観測していた。

これはファーストにとって驚異だった（彼はそれをスリリングと呼んでさえいる）。なぜなら赤く染まるということは、水と二酸化炭素を含むガスの層が月に存在することを明確に示しているからだ。

太陽光が赤くなるには十分な濃度を持つガスの層を通過しなければならぬ。地球の日の出と日の入りのときにこのことが全く顕著であることを指摘して、ファーストは、月の大気も一日の終わりに日光に対して同じ明確な反応を示すのだと説明している。このことは月の空気が水と二酸化炭素分子を含むほどに濃密であることを意味しているのである。

（第6章未完。以下次号）





How to See Aura  
by Akinori Endoh

# オーラ透視能力開発法

●遠藤 昭 則

オーラの実態と透視練習法を詳細に公開

## オーラとは何か

オーラとは何であろうか。それは人間や他の生物、そして鉱物などの周囲に放射されているものである。通常われわれの肉眼には見えないが、それが見える人達にはさまざまな形状、色として見えるのである。そして人間の場合にはそれが心の発達状態をあらわす

ものとなっている。

キリスト教宗教学の聖人の後頭部にある光輪。仏像の身体後ろにある光背。概してオーラの形というところのようなものである。これらが製作された時代の人のなかにもオーラが見える人は多数存在していたのであろう。

そして近代になってオーラを科学的に調査究明しようとアメリカ、ソ連、ヨーロッパ、日本等が動き出した。しかしその方法に共通することは、オーラを既知の科学と結びつけようという強引なものが多いということである。

微弱な静電気の場合として捉えようとするもの。電磁波として捉えようとするもの。高周波電界上に指を置いてその放電をフィルムに撮ろうとするもの（キルリアン写真）。さらにはペンデュラムを使って調べるものまで登場している。

しかしオーラについては依然として謎であり、科学的に解明できておらず、それは「人間の周囲にあるフォース・フィールド（力の場）である」ということしか言えないのである。

キルリアン写真でさえ、オーラをあらわしているものではない。図1を見るとき分かるが、オーラとキルリアン写真とは明らかに異なっているのである。しかしキルリアン写真にはフアントム・リーフと呼ばれる現象がある。葉を切り取ってもそこには生命の鑄型があるように、葉の形が現れるのだ。

これは図2のようにオーラでも同じことであり、やはりそこにはオーラが見えるのである。つまりキルリアン写真はオーラをあらわしているのではないが、オーラのように生命の場の一形態をあらわしているものなのである。

## 人間のオーラ

人間のオーラには三種類のものがある。

まず手の周囲一センチぐらいに出ている霧状のもの。これは最も見やすいものである。しかしここには色は見えない。

次は仏像の光背のように、人間の周囲に広くあるもの。これは本人の生命

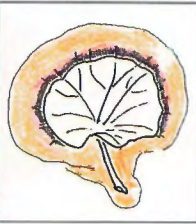


図1  
左はゼラニウムのキルリアン写真。右上は筆者が見たオレンジ色のオーラ。



左はカエデのキルリアン写真。中の図は筆者が見たカエデのオーラ。右の図は中の図のAを切ったあとのオーラ。Aの影がうすく出ている。



図2

の鑄型と呼ばれるべきもので、人体から出ているように見え、人体にこのオーラを重ねたように見えている。病気の時にはこのオーラの一部分に黒い色が現れたりすることもある。

そしてこのオーラに各人の持つ色が現れるのである。そこで色を見ようとするにはこのオーラまで見えるようにしなくてはならない。

もう一つのオーラは体内に見えるものである。体内の場所ごとに異なった

色を持つているのであるが、一般にチヤクラと呼ばれる部分に見える。これは各人の持つ感情によって変化しやすい。

## オーラの色と精神の発達状態との関係

私達は一人一色ずつ基本的な色のオーラを持っており、それは各人の精神の発達段階を示している。そして人間が活動することによってその他の色も付随して現れてくる。

基本となる色は虹の七色と同じ配列で赤を精神の低い発達段階として橙、黄、緑、青、藍、紫と順々に次元の高い段階になっている。さらに精神が高度になると白銀色、金色などもある。またこれらの色は今生でのその人の目的や性格、どのような仕事に向いているかということ、そしてそうなった過去世のカルマまでも示すものである。

ただ本人の基本的な色とは別に、赤い色を少し持っているからその人の心の状態はまだ未発達であるとは言えない。人が舞台上立って演説をしたり指揮をしたりする時、本人は明るい純粋な赤いオーラを持つのである。春川正一氏は六十一年度日本GAP総会での講演の時、下が明るい赤、上が明るい青のバランスのとれたオーラを放つ時があった。質疑応答では白銀色のオーラとなったが。

心の未発達と異なり、精神的に良くない状態というのは、オーラの色が暗く濁っていたり他の様々な色が混ざっていたりする時である。

それで基本の色が青くても、その人の思想の中に迷いや極端な頑固さ等があると色は濁ってきて暗くなり、シヨウユのような焦げ茶色のオーラに変わってゆくこともある。

GAP東京本部の月例会でもそのような人が時々見られる。そしてそういう人達はやはりGAPから離れかけている人が多い。

つまり「宇宙哲学を読んでいるからその人のオーラは良い」とは言えないのだ。宇宙哲学を生かすように本人の意志の力を使うことによってオーラが良くなつてゆくのである。

純粋な明るい色は大切である。地球人の色は、よく何かが混ざつた色をしていることが多い。しかし昭和五十八年八月にイタリアのサンピエトロ大寺院で久保田先生をはじめ筆者その他数名の人が会つたスペース・ブラザーの方は、金色の薄い膜のようなオーラの外に明るく純粋な濃く青いオーラを放つていた。このような純粋な色と濃さがあるということは、その人の目的を迷いなく一〇〇パーセント生かしているのである。このような素晴らしいオーラを放つ人は地球人には見られない（この詳細については本誌92号に「サンピエトロ大寺院の異星人」と題する記事が掲載されている）。

次にオーラの各色の持つ意味について個別に解説してみよう。

**赤** パワーがあるが、自分の行ないに酔いしれる傾向がある。それで悪いことも度を過ぎてしまうことがある。四官のコントロールがうまくできていない。

濁つた赤は反抗と個人的な弱さあらわす。

**橙** 健康をあらわす。体育の指導者やヨガの指導者などに多い。想念が強く感情も豊かである。

**黄** 行動力をあらわす。良い波にも悪い波にも乗りやすい。明るくなる時と暗くなる時の差がはっきりとしている。縁 愛情がある。癒しのパワーを持っている。感受力がある。

**青** 宇宙に自分自身が開いている。他人の対する浄化作用を持つ。超能力的傾向が強い。

**藍** 探求心旺盛である。万物に対する知的理解が深い。他の色以上に忍耐強い。

**紫** 自分の宇宙的な歩む道をしつかりと確立している。

**金** 誰とでも調和できる。

**白銀** GAPの中にもこの色を持つ人はいる。宇宙人との繋がりがあふ。本人は意識せずに他人をテレパシクに喜ばせ、浄化させる力を持つ。それで相手は自分が健康になったことも楽しくなったこともこの人が行なったとい

うことに気付かない。

## 宇宙哲学とオーラとの関係

このようにオーラを見るということは、ただ指の先一センチぐらいのオーラを見てそれで終わりということになつては何もならないのである。人体の周囲にある、もつといろいろな情報を知らうとすることこそ、オーラ透視練習の目的なのである。

またオーラを見ることは、『生命の科学』に繋がらないという人がいるかもしれないが、それは全く間違っている。オーラを見ようとするのは相手の波動を感受しようとする事なのである。その波動を色として見ているのだ。それであるからこれは相手の意識、生命力を見ようとする事になる。意識から意識へ生命力から生命力へと伝わってくるのであるから、『生命の科学』を生かさなければよく見えてくるようにはならないのだ。そういう訳であるからオーラを見ることが良いの悪いのと言うのは全く話にならない。一体そういう人は本当に腹の底からオーラを見ようとしたことがあるのだろうか。

自分の中に湧き起こる色を信ずることとは自分を信ずることであり、自分を信ずることは、自分の中にある宇宙の意識を信ずることである。それで誰でもが自信を持ってオーラ透視をしてよいのだ。アダムスキー氏もオーラが見える人で、それによって相手を見抜い

ていたということである。

## オーラ透視練習法

オーラにはさまざまな種類があるので、段階的にオーラを見る能力を開発してゆこう。そしていずれの場合にも必ずノートにその結果を記録しておいてほしい。

**A** 指またはラピス・ラズリの原石から出ている一〜二ミリの霧状のオーラを見る練習。

①白いB4の大きさの紙を前方に置く（距離は自由に）。簡単な果物を頭の中に思い描く。そして白い紙を見る。そこに今、自分の思い描いた果物を目を映写機と違って投射する（気持ちを起こす。実際に投射できる人もアメリカ人にいる）。それが紙に見えてくるようにする。目をキョロキョロさせない。見えてきたら少し休憩。

次に白い紙をもう一度見つめる。そこには自分の中にある情報が今の要領で見えてくるがあるので、それを見る気持ちで見る。一分間行なったら休憩。長く見る必要はない。映像が見えなくてもよい。毎日行なえばそれを見る神経回路がしだいに作られてゆく。

②人差指またはラピスの周囲一〜二ミリの空間を見る。バックが薄暗い所で見られるように。バックに黒い紙を置くのは不可。黒い紙は意外と部分ごとに白く光り、それとオーラとの区別がつけにくくなることもある。

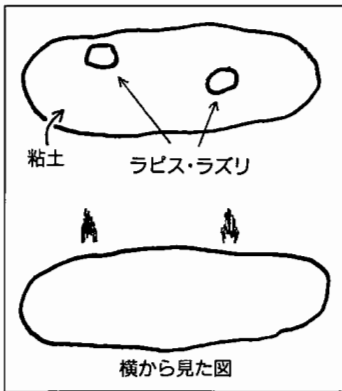
指がラピスの周囲一〜二ミリの所を見ながら、目を動かさずにリラックスさせておいて、ゆっくりと深呼吸を二回。吸うときは腰の骨を開くような気持ちで。初めは薄い放射状にしか見えませんが、毎日行なっていると、多く出ている所と少ない所が見えてくる。このオーラが一番見やすい。

③これが本当のオーラかどうかを確かめるには、**図3**のように粘土にラピスを嵌め込み、薄暗い所でオーラの出ている所を指で押さえ、明るい所に出て確認をする。

④また**図4**のようにして人差指がこちらから見て隠れるぎりぎりの所に紙をあてがい、指を動かしてみるのもよい。オーラも動くのが分かる。

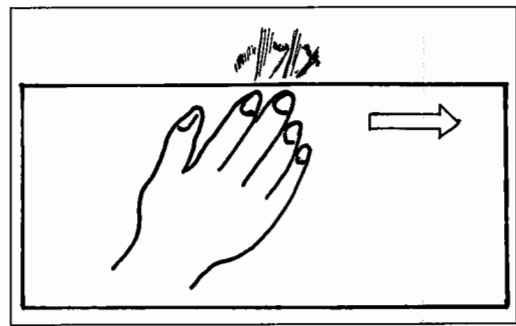
⑤このAの練習で絶対に行なってはならないことがある。指と指を近付けて同じ方向に動かすと両方のオーラがくっついて動くからそれを見ようという方法である。これはオーラを見る方法が書いてある本によく出てくる。薄暗い所でじつと指先を見ていると白いも

図3



横から見た図

図4 右手を矢印の方向にゆっくりと動かす。



のが長く出ているように見えてくる。しかしこれはオーラではない。そして指と指とを近付けると本当にくっつくように見えるのである。

一〜二ミリのオーラを見る段階ではこのようなことはまだ必要はない。一〜二ミリのものが見えればそれでよい。そうして植物の葉や他の人の指、猫の手などいろいろと興味を持ってこの一〜二ミリのものを見てほしい。得られる情報量が増えれば増える程良く見えてくるようになる。

**B** 人体の周囲、広い範囲にあるオーラを見る練習。

①西の空にオレンジ色になって、見てもまぶしくない太陽を三秒間見つける。目をとじてオレンジの球のイメージをはつきりと思い描く。できない時はもう一度太陽を見つめる。思い描いたらその球の直径をどんと

ん広げてゆく。

目をあけて、深呼吸。鼻から吸って口から吐く。一回。

②次に青い水でできた球を思い描く。思い描いたらそれをとどめておかずにとんどん広げてゆく。

目をあけて深呼吸。鼻から吸って口から吐く。一回。

③さて人間のオーラを見てみよう。これには手を見るよりも、街を歩いている人や勤め先、学校の友人などを見るようにする。手の広い範囲のオーラは始めは見えない方がよい。

まず誰にでもオーラはあるのだということを自分に言い聞かせる。そして大体この辺に見えるだろうと心の中でオーラを思い描く。このイメージが本物のオーラと混同してしまわないかと思う方がおられるかもしれない。しかしそれは大丈夫である。そのイメージを思い描くことによって自分の目から脳、そして身体に外部のオーラを見る径路を作ることになるのだ。

それから心を落ち着けて人物を見る。そして、

「自分の中にある意識が目という窓を通して見ているのだ」と思うようにする。これは物事を客観的に見るようにするためである。つまり自分と相手との間に距離をとるのだ。

オーラ透視においてこれは重要である。距離をとったことによって自分の映像空間ができる（この距離とはもちろん



心理的距離のことである。

それがうまくてきたならいよいよオーラを見てみよう。立ち止まっている人の肩から上辺りの大気中に薄いスジを探るのである。

この薄いスジを見る練習はオーラを見る上で重要である。これが色の境界線となるのである。

よく見えない時は、目を大きく開くか、細めるかなどいろいろと工夫してみるとよい。目はキョロキョロさせないように。見つめながら練習Aのときのようにゆっくりと呼吸をして待つことである。

④自分の目がキョロキョロとしていたどうかは、家で三十秒ぐらいたる一点または文字をぼーっと、目をたらず気持ちで見つめる。三十秒見ていられればよい。できない時はリラックスしてゆっくりと呼吸をしてもう一度。またオーラを見ることは絶対に批判をするために行なうことではなく、お互いに楽しむためであるということを忘れないように。

できるだけ多くの人を見て、その微妙な違いに気付くようになれば達している証拠である。花のある植物の広い範囲のオーラも見るとよい。

### C オーラの色を見る練習

心構えとしてはオーラの中にはつきりとした色が見える筈だと思わないこと。そして形とは別に自分の内部に相手のオーラの色がわき起こるときがあ

ることも覚えておく必要がある。

①人と話をする時に、この人のオーラは何色だろうと思ひ、頭の中にパッと出てくる色を感じておく。これは自分の内部に湧き起こる色に敏感になる練習である。この敏感さがなければオーラの色を見る力は育ちにくい。

②手を見つめて手の中の色を透視する。組織の色ではなくて、感じる色である。手の中の波動を色としてキャッチする練習である。

③日常生活で自分の内部に注意しており、時々自分の体内の色を見る。胸の中、へその下の腹の中、等々、神経の集中している所(いわゆるチャクラと呼ばれている所)がよい。しかし無理して色を思わないように。

④自分の内部の色を見る。それから日で行なった広い範囲の他の人のオーラを見る。見えなかつたら、こうだろうと思ひ描く。そのためにはふだんからオーラについての情報をオーラが見える人からたくさん仕入れておくことが必要。

そしてその区間ごとに色を見てゆく。感じると言った方がよいかもしれない。まず首の両側、肩の上。それから頭の真上。次に体側、足のものも周囲。どこか一箇所でも色を感じればよい。

色を見るには白い紙を見つめる練習を思い出して、そのような見方をする。ただ色が見えてくるのを待っているだけでは見えてこない。自分か

らこういう色の筈だと思つて見るようにするとよい。

見えた色と形を素早くスケッチしておく参考になる。ゆっくりと描くと自分の空想も入ることがある。

次に区間には関係なく全体的に色を見てみる。それができたら相手の身体の中へ、へその下の腹、胃の辺り、胸等の色も透視してみる。

オーラは頭で見ないで自分の身体で見ると腰を落着けて感じるようにして見るとよく見える。

またオーラを見る練習は、朝は人体の広い範囲の形を、昼とか夕方には色や広い範囲の白い霧状のものを見るようにするとよいであろう。そして夜は指先の放射を見るのである。

始めから凄いのが見えてくる筈だと期待しすぎないように。

少し見えてくると、「いや、そんなことはない。私には見えないんだ」という印象を目が発することがある。しかし本当に見えることを知っている内部の宇宙の意識は静かなものである。そこで目に、

「大丈夫、見える、見える、」  
と言ひ聞かせるのである。そうするともつとはつきりと見えてくる。

これは火星を望遠鏡で見たことのない人と同じことである。見たことのない人は、それはたぶん直径五センチぐらいに見えるもので、表面の模様も素

晴らしいものなのだろうなと思つてい

いざ望遠鏡を覗いてみたらなんと一〜二ミリぐらい。おまけに表面の模様も分からない。なんだこんなものかと幻滅してしまふのである。しかし火星から少し目をそらし、月の片隅で火星を見るようにしたり、いろいろとやっているうちに、時々見えたかな、いや錯覚だろうなと思えるものが火星表面に見えてくる。それをケント紙に描いてある円の中に忍耐強く描き込んでゆくとそこには、極冠あり大シルチスありの素晴らしい火星の模様が出来上がってくるのだ。そしてそれを望遠鏡を見たことのない他の人に見せたなら、すごい、こんなものがはつきりと見えるのかと思うであろう。オーラ透視もこれと同じである。

### オーラ透視の実例

図5は植物の雨の降る前と降つてい  
上が雨のとき、下は雨の降る前の各オーラの色を示す。



る時でのオーラの変化である。  
 雨が降る前にはオーラが濃くなり、  
 降っている時には少し黄色いような色  
 になっている。  
 図6と7は五月の下旬、勤め先の中  
 学校の運動会の練習時に見たものであ  
 る。

図6は一人の男性を見たものである。  
 グランドで強烈な日射しの下で見たオ  
 ーラなので少し薄いのであるが(ただ  
 グランドのように広い所はオーラの形  
 がよく見えるので練習には良い)。朝  
 九時のもので、思い出しながら描いた  
 ので微妙な所は省略してある。  
 図7は昼食後の午後二時頃の同一人  
 物のものである。



図6(右)と図7

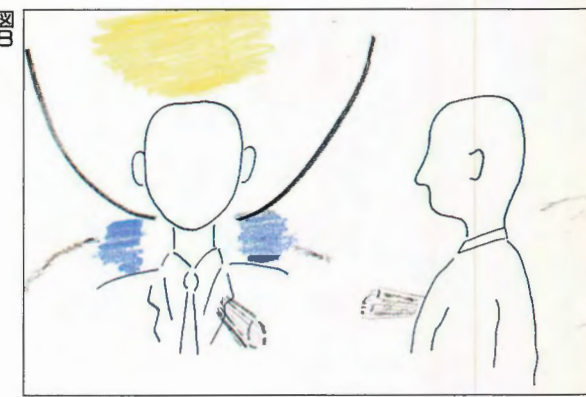


図8

形の方は朝も良く見えているのだが、  
 午後になるとその発散が多くなるよう  
 である。図に描いたのは一人であるが、  
 他に五人、同じようにして見て確かめ  
 ている。

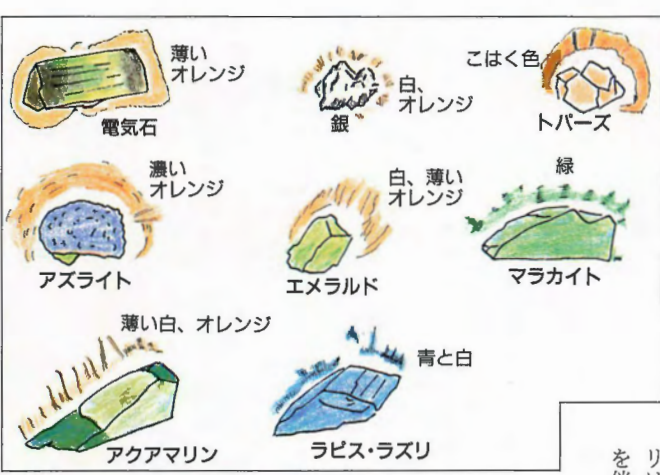
人間のオーラは私達が生きて活動し  
 ているのと同じように変化して動いて  
 いるようである。そしてどうも夕方五  
 時から六時頃に力がたくわえられてく  
 るようである。しかしその頃のオーラ  
 から見ると、その力の振動数は低いよ  
 うであるが。

また朝はオーラの出がよくないので  
 はないかと思われるかもしれないが、  
 そうではなくて、寝ている間から朝に  
 かけて、身体の力の振動数が高くなる  
 のではないかと思われる。

図8は佐藤忠義氏のオーラを今年六

月の東京月例会で見ただものである。詳  
 しいことは月例会で説明させてもらっ  
 たので省略するが、特徴的だったのは  
 左胸前方に円筒状に出ているオーラだ  
 った。こういう形を見たのは初めて  
 だったので佐藤氏に、左肩をぶつけた  
 りしたことはないかと尋ねると、二、  
 三日前に右肩を強打して随分と痛かつ  
 たということであった。それを補う作  
 用として左胸の筋肉を自然に使ってい  
 たために左からオーラが出ていたので  
 はないかと思われる。この時は会場に  
 六十名程の方がおり、かなりの方が氏  
 のオーラを多少なりとも見ることがで  
 きたということであった。

図9 原石とオーラの色を示す。

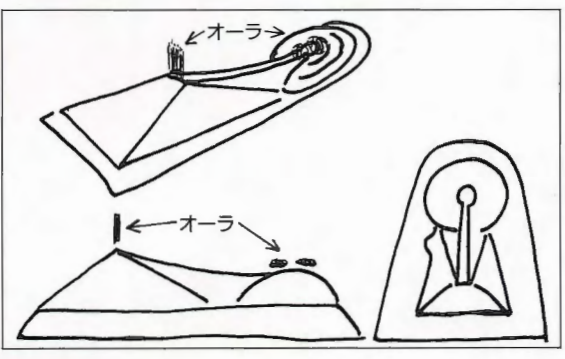


ところで宝石の原石にもさまざまな  
 形のオーラが見られる。図9を見てい  
 ただくと分かるが、石によってオーラ  
 の形も異なっている。さらにそのオー  
 ラは原石表面の色には無関係なことが  
 多い。

ラピス・ラズリなどは石本体から少  
 し離れた所に雲のようにぼつかりと出  
 ているものもある。しかし原石のオー  
 ラは人間のオーラに比べて薄いもので  
 たくさん見るとかなり疲れる。また人  
 が肌身離さず持っているとその石のオ  
 ーラが白く濃くなったりすることもあ  
 る。

図10は前方後円墳の模型から出てい  
 たオーラである。ごく薄いものが五ミ  
 リばかり出ていた。たぶん本物は色彩  
 を伴ったものであろう。昔の人の中に

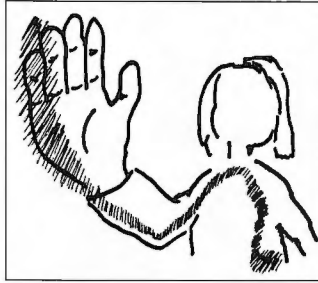
図10





は山のオーラが見える人がいて、それをうまく使おうとしたのかもしれない。  
 図11はある夜遅くJRの駅前で、まだ二十一ぐらいの女性が突然、浄化してくれると言って差し出してきた右手を見たものである。その右手から左の

図11



脾臓の辺りにかけて黒いオーラが見えるのだ。たぶん手をかざしすぎて、自分のリンパ球にも何らかの影響を与えてしまっているのかもしれない。  
 「あなたの手のこの辺のオーラの色がよくないですよ」

分かってくれるかと説明したが、分かってはくれなかつた。他の仕事をしていたら彼女本来の良いオーラが出ていたことだろう。  
 あと二つ、これはほとんど波動を色として見ている段階であろうと思われるものをあげておく。

七月の東京月例会でいつものように両手を上に挙げる動作を全員が始めた瞬間、広い室内の少し上の方にまっ白な霧状のオーラが広がったのである。これは素晴らしい光景であった。

室内にもある種の波動があるのだ。それで建物ごとに色の違う所が出てくる。しかしこの色は見るというよりも感じるという世界である。

もう一つの事例は最近流行している能力開発商品である。そして必ずといってよい程、商品から良いオーラが出ていると書いてある。私もいろいろと調べてみたが、残念ながらそれからからのオーラは見えなかつた。

ところがその図形や写真を見て、遠

隔透視でオーラを見るようにするとオーラが感じられてくるのである。たぶんそれらは目を通して脳に働きかけ、何かを開く鍵になっているのかもしれない。

これと同じことは人物を撮影した写真についても言える。よく、この写真からは良いオーラが出ているのが見えるという人がいる。私はそういうことを聞くと必ずといってよいほど、果たしてこの人は写真を横や裏から見たり、目隠しテストのようなことをしてみることがあるのだろうかと思ってしまう。

私は写真からのオーラは見えない。しかし前述のように、その写真を見て遠隔透視でオーラを見るようにするとその人のオーラが見えてくる。これは写真を通してその人の波動を感じていることになるのであろう。

### 練習の成果は必ず出る

一日に一つでもオーラを見る練習をすると、力が随分とついてくる。

GAP東京本部役員の名の二名の方はこのオーラ透視の練習を地道にこつこつと行なってきたっており、素晴らしい成果を上げ始めてきている。

一人は安藤澄雄氏である。彼はオーラ透視練習専用のノートを作り、毎日の練習結果をそこに書き込んでいる。私もノートを見せてもらったが、描いてあるオーラの図が段々と密度の濃いものとなってきている。

もう一人は佐藤忠義氏である。彼は今年の四月から練習を始めたそうであり、一日に一つはオーラを見るようにしているということである。七月に聞いたところによると色が見えてきたということがある。もちろん人体の周囲に。

このように日本GAP東京本部では人には言わないがこつこつと成果の上がる練習を行なっている方が多い。成果の上がない練習ではしようがないのである。以上の練習法を実行すれば誰でも成果が上がると確信する。

# 異星訪問奇談

想像を絶する進歩をとげた別な惑星を大母船に乗せられて訪問した日本人青年の驚異的実話と、地球人を救うメッセージ!

久保田八郎編

新書判・約二七〇頁・定価二二〇〇円・送料二〇〇円

出た!

■2年前、日本GAP発行UFOcontactee誌に連載されて大センセーションを巻き起こした「私は別な惑星へ行ってきた!」と題する驚くべき記事をまとめ、さらに証人たちの証言と編者の解説序文を加えて一書にした実録。UFOcontactee誌の連載記事掲載各号が品切れ絶版となった現在、本書は貴重な文献である。大超能力者にして愛の精神の権化たるコンタクティー春川正一氏(仮名)は東京で活躍する実在の人物。超絶した諸惑星の実態と偉大な惑星人たちから与えられた感動のメッセージは危険な地球を救う天来の声/UFO研究者、自己改良希求者必読の書。

### 全国書店で発売中

書店にない場合は直接下記へご注文下さい。(日本GAPでは扱いません)  
 〒101 東京都千代田区西神田3-5-6 振替・東京7-26932  
 (発行所) 新典社 ☎03(265)3781



# 昭和63年度日本GAP総会

## かつてない素晴らしさ！

昭和六十三年九月二十五日(日)——  
全国から来られた約二百四十名の方々と  
とって、この日のことは決して忘れ  
られない一日になったに違いない。

秋の長雨に洗い清められた東京中央  
区の銀座ガスホールで、昭和六十三年  
度日本GAP総会が開催された。午後  
一時、篠芳史氏の司会で幕が開く。

篠氏の紹介で、まず日本GAP会長  
久保田八郎先生のご挨拶が始まる。久  
保田先生が初めてアダムスキーの著書  
『空飛ぶ円盤実見記』(ア全集第一巻第  
一部)に出合ったのは昭和二十八年だ  
そうで、この三十五年間には相当のご  
苦勞をされたと推察するが「楽しいこ  
との方が多かった」と断言された。し  
かも「出会った方々はすべて師であつ  
たと感謝している」とおっしゃった。

この謙虚で、しかも積極的な姿勢こそ  
が日本GAPがここまで成長してきた  
要因であろう。久保田先生はさらに、  
「私はアダムスキーに直接会ったこと  
はない」とおっしゃったが、会わなく  
てもアダムスキーの体験に信憑性を感じ、  
その哲学の素晴らしさを見抜いて  
いたことは、久保田先生もまた「真実  
の人」であることを示している。

それから久保田先生はアリス・ポマ

ロイ女史を紹介され、「私たちがアリ  
ス・ポマロイ女史のお話をここで親し  
くお聞きできるということはこの上な  
い特権である」と結んでご挨拶が終わ  
ったが、全くその通りであったと総会  
を振り返って実感しているのは私だけ  
ではあるまい。

一時二十分、アリス・ポマロイ女史  
が登場される。ご高齢にもかかわらず  
しつかりした足取りであることに驚か  
される。篠氏が後に言っておられたが、  
椅子をおすすめしたがお断りになった  
そうである。そのお元氣さはそのまま  
ご講演にも現れており、非常に張りの  
ある、よく通る声で始まった。

「みなさん今日は。この度はご招待を  
いただきまして、厚く御礼を申し上げます」  
という日本語によるご挨拶が満  
場の拍手を呼ぶ。ポマロイ女史は以前  
から日本が好きで、特にこの日本語講  
演が決まっていたからはずいぶん日本語を勉  
強されたそうで、できれば日本語で講  
演をなさりたいとおっしゃっていたほ  
どの意気込みだったそうだ。それほど  
までにポマロイ女史はアダムスキーの  
教えを真剣に伝えようと思われているの  
である。事実、オーラの見える方々の

話によれば、講演中のポマロイ女史の

オーラは燦然と輝いて素晴らしいもの  
だったという。

私には今のところそれほどにオーラ  
は見えないが、しかし絶えることのない  
輝くばかりの微笑、弾む声、全ての  
人々を包み込むようなフィージングに  
よって、この方は本当にアダムスキー  
哲学で生きている人なのだと感じない  
ではられない。その証拠に、ポマロ  
イ女史が講演中に、ステージ上の空間  
を銀色に輝く小さなスキヤニング・デ  
イスク(探査用円盤)が飛んでいるの  
を数名の方々が目撃しているし、また、  
ある方面からの情報によれば、会場内  
に日本人タイプのスペース・ピープル  
(異星人)が数名来ていたそうである。  
これはすなわちポマロイ女史がスペー  
ス・ピープルから注目されており、確  
実に援助されているということであり、  
そのポマロイ女史が久保田先生と日本  
GAPを称賛して下さったということ  
は、久保田先生のご指導による日本G  
APの活動はスペース・ピープルの意  
志に沿ったものであるということでも  
ある。

ご講演の詳細は本号に掲載されてい  
るので省略するが、アダムスキーに関  
する驚嘆すべき内容をうかがうにつけ、  
いかにアダムスキーがポマロイ女史を  
信頼していたかを思い知らされる。

二時間に渡る大講演の後は坂本茂子  
さんの通訳により質疑応答に入る。こ  
こではポマロイ女史の宇宙哲学に対す

る理解の深さ、常識の豊かさ、万人に  
対する愛の深さを感じさせられた。

五十分から本部役員により、Uコ  
ン10号発行のお祝いとポマロイ女史を  
歓迎して音と光のセレモニーと花束の  
贈呈を行ない、本年度総会は大喝采で  
終了した。

七時からのホテル浦島における大晩  
餐会は、約百二十名の全員記念写真撮  
影の後、久保田先生とポマロイ女史の  
ご挨拶により宴が始まった。この席で  
もポマロイ女史は終始笑顔絶やさず、  
質問をする人や記念写真撮影を申し込  
む人たちにこやかに応えておられた。  
演芸も民謡の佐藤春雄氏、琉球舞踊  
の知念八代子さん、GAPのバンド・  
スカウトシッパの演奏などプロ級の豪  
華な顔ぶれが勢揃い。十時過ぎまで存  
分に楽しむことができた。

後日談になるが、司会をされた篠氏  
が「かつてない素晴らしい総会だった」  
とおっしゃっていたが、全く同感であ  
る。それをポマロイ女史に感謝を込め  
てお伝えしたところ、「それをずっと続  
けて下さい。そしてもっともっと素晴  
らしくして行って下さい」とおっしゃ  
ったそうである。

最後に、悪天候にもかかわらず遠路  
お越し下さった熱心な皆様、通訳以上  
に活躍して下さいました坂本茂子さん、有  
形無形のご援助を下さった総会を盛り上  
げて下さったたくさんの方々的心から  
御礼申し上げます。(安藤澄雄)







# エジプト広場

## 日本GAP第十回海外研修旅行 「エジプト・イタリアの旅」に参加して

### アスワンでUFOを目撃

鹿児島県 曾我部くみ子

今回日本GAPの海外研修旅行に初めて参加出来たことをとても嬉しく思います。念願が叶い、夢は必ず実現するのだという強い確信を得ることが出来ました。ミラクルワード（奇跡を起こす言葉）とイメージの力はすごいものですね。

いよいよ八月三日に出発して、とても信じられなくて地に足がつかない思いでした。初めての海外旅行で全く要領がつかめず、オロオロしてしまい、時差ボケでポーツとして、何をすることもいつもの倍ほど時間がかかって、せわしい思いをしました。この旅行でやはり忘れられない事といえば第一にUFOを目撃することが出来たという体験です。ルクソールのホテルに一泊したときのこと、忙しく片づけものをしてシャワーを浴びたあと、同室の菊地啓子さんが寝ているので涼みながらベランダに出て、前日アスワンから移動中にエリーの中にカメラを置き忘れたのが運良く出てきたことなどに感謝の気持ちこめて夜空に想念放射をしていましたら、ベランダの左側から最初星のようなものがスーッと動きだしました。飛行機とは違うようです。

「スペース・ピールさん、こんなに幸せな気持ちになれたのは、あなた方のおかげです。ありがとうございます」という想念を送った。すると空の一部の色が変わり、その中に渦巻きができた。そして視界の斜めに黒い点が走ったので、その方に目を向けると、黒い点がゆっくりと動いている。まわりに赤いオーラのようなものが見えた。

「UFOだ！」と思い、主人を呼びに行ったが、もどった時にはもういなかった。きっと今度の旅行を祝福して下さっているんだなと思い、楽しい旅になるような想いでいっぱいになった。

あこがれのエジプト。ピラミッド。大砂漠。やっと来たんだなアという想いが胸に迫る。とうとうと流れるナイル河と、それを挟むようにして人々が暮らす緑地帯。そのむこうには果てしなく砂漠が広がっている。そういえば、「エジプトはナイルの賜物だ」とガイドさんが言っていた。

アブシンベルの大神殿。王家の谷（ルクソール）。そして大ピラミッド。スフィンクス。五千年の歴史も昔日の中に埋もれて、エジプト人の濃厚な笑い声と抜けるような青空が逆に心の静けさを増すようだ。感激のエジプト。是非もう一度行ってみたい！

今こうして日本に帰ってみると今回の旅行は本当に楽しかった。UFOも度々目撃できたし、いろんな人とふれ合うことができた。「フイーリングを大切に」と、いつも上空からスペース・ピールの方々がさささきかけていてくれたような気がす

る。すばらしい旅行を企画して下さい。久保田先生と田中氏に感謝します。

### 上空からの波動を感じ続けた旅

栃木県 菊地啓子

五十三年に初めてエジプト・ギリシャ・イタリアの旅に出た。縁あって再びイタリヤを訪れる。一度目は物珍しさと興奮で通りすぎるだけだったが、今回は余裕ができ、物事を見て考え、行動する機会がふえた。

エジプトはどこへ行っても、もうろうとするほど暑い。そのなかでもアスワンは小鳥の声と水音で心なごむ。カルナック神殿の光と音のシヨウを見ていた時、胸がどきどきしてきた。空を見上げて探す。ハツとして振り向くと光っている。胸のどきどきが空から地上から私達に向けられたテレパシーだとわかった。これ以後、胸が熱くなるが多かった。

夜、女性三人、ベランダでおしゃべりしていると胸が熱くなる。一体感、平安な気持、なんと表現したらいいか——中心からわきおこる喜びが全身を包む（興奮ではない、反対。赤い点が私の視界の中心に光る。何の疑いもない。何回も強く輝き、水平に動いて消える。「また来るわ」わかっていた。胸の熱さが続いている。そのとおりに、同じ場所に輝いて左右に二つに分かれて消えた。「見せていたんださかどう？」。ゆっく

り快い温かさが引いてゆく。誰かに喜びを話したかった。光を見たことではなく全身に感じた力を。

翌朝、田中さんに光体を見たことを話す。本当は力のことを話したかったのだが。

自由時間をサツカラとギザで過ごし、へたばったが楽しい一日だった。越智さんがえらく砂漠に感激して、感動が私の胸にひびいた。言葉を書くまでもなく。

イタリアへ入りアツシジに着く。ほつとする。今までの緊張感が切れてしまう。個人的にとらわれている考えが頭に浮かんでくる。他人事に思われた。「もっと大きな視点で意味をとらえれば解決することだよ」。教会の鐘がなる。小鳥が一斉に飛び立った。

粟林のお母さんが何日も腹痛で困っている。私は何もせず見ていた。申し訳ない。だがアツシジに着いた日、手当てしろというせかされる気持になり、ついで力がわいてきた。「私を信じてくれますか」と聞くとハイと答えてくれたので、その夜、心に浮かぶまま言葉にしてイメージによるリラククスと自己調節の手伝いをした。手をあてると内側が感じられた。肉体はどんな優れたセンサーよりも確かなんだらうなと感心する。

私の肉体を通して必要なだけの自然のエネルギーが彼女に流れるイメージを描いた（効果のほどはわからないが）。自室に戻って手を見たら、高密度の超微粒子の雲が青白くみえる。使うことが許されてないものを使ってしまったようなとまどいを感じた。

ローマへ戻って観光中に幾度も胸が熱くなるが、UFOを見たりスペース・ピールに会ったりしたわけではない。しかし私は満足。うきうきしていた。

今までの行程と出来事を思い出し

### 感動SHINJYUJYO目撃

大分県 高橋泰代・徹

大分を出発する前日、久しぶりに良い天気になり、私はルンルン気分です洗濯物を干していた。明日はいよいよエジプトに向けて出発すると思うと心が高まり、思わず空に向かっ

て「スペース・ピールさん、こんなに幸せな気持ちになれたのは、あなた方のおかげです。ありがとうございます」という想念を送った。すると空の一部の色が変わり、その中に渦巻きができた。そして視界の斜めに黒い点が走ったので、その方に目を向けると、黒い点がゆっくりと動いている。まわりに赤いオーラのようなものが見えた。



てみると、それらがおもしろかった  
楽しかったということ他に、何か  
(誰か)に「こうしなさい。したほ  
うが良い」と伝えられるまま言っ  
たり動いたように思われる。もちろ  
んすべてではない。ポイントに来ると  
決まって胸に力がわいてくる。時  
心がふらふらと自我の欲望へ流され  
てゆきそうになると、誰かが私の内  
に接触し力をおこさせる。自信と信  
念がからだ中に満ちる。肉体が高い  
振動に、まったく違う人物が存在す  
る感じだ。海外旅行という特殊な環  
境でのみ生じた力とは信じたくない。

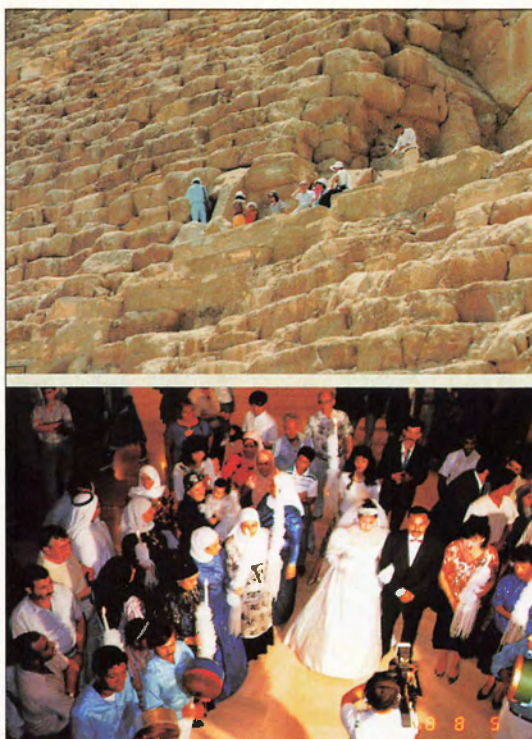
久保田先生お世話になりました。  
楽しい思い出をくださったみなさん、  
ありがとうございました。田中さん、  
感謝。今度は一緒に円盤を見ましょ  
うね！

### 素晴らしいGAP旅行団

埼玉県 栗林 聡

今回の旅行ではエジプトとイタリ  
アの代表的な遺跡や遺物や建造物を  
目のあたりにすることができたのが  
まず大きな収穫でした。そして感じ  
たものは「古代人のすごい力と高度  
な技術」でした。例えばオペリス  
タ一つにしても、切り出しから運搬、  
設置に至るまで、現代人が古代人の  
ように上手に手際よく出来るのか、  
はなはだ疑問に思えてくるのです。  
つまり現代文明があまりにも人工的  
な機械に頼り過ぎ、古代には存在し  
た、ある大切なものを失ってしまった  
ているような気がするのです。  
またこの旅行ではエジプトで特に  
「水の大切さ」を痛感させられまし

▲(写真上) カフエ主ピラミッドの正規入口前で想うGAP旅行団(撮影●菊  
地啓子)。▲(下)エジプト人の結婚式撮影●曾我部くみ子。



た。年に数度しか雨の降らないエジ  
プトでは、すべて水はナイルが頼り  
とのことで、ナイル河沿いは緑豊か  
になっているものの、少し離れると  
そこはもう乾燥した砂漠地帯が広が  
っていたからという。もちろんノドの  
方も乾燥したという。もちろんまず  
が……。このように見えてくると、日  
本がいかに水の豊かな自然に恵まれ  
た国であるかがよくわかりました。

最後に、今回の旅行の最大の収穫  
は、初めてGAPの人たちといろい  
ろな話が出来たことです。やはり普  
通の団体旅行じゃない。皆さんと  
フリーリングがよく合う素晴らしい  
旅行でした。そして体調を崩したと  
きなども大いに助けて下さった皆様  
ありがとうございました。

### エジプトと日本の有難さを知る

埼玉県 栗林トセ

六歳になったばかりの子供(新一)  
が地球儀でエジプトを指さしながら  
「僕はここに行くんだよ」と友達に  
自慢していました。みんなに「六歳  
でエジプトに行く子なんていないよ」  
と言われながら主人と一家三人の出  
発となりました。

エジプト。憧れていたエジプト。  
猛烈に暑い。持参した乾湿計を見る  
と温度43度、湿度30%。遺跡の説明  
を聞いていても頭がふらふらして。  
もうどうでもよくなってきました。  
アスワンに行く途中、ヌビア人の  
民家に立ち寄った際、冷たい飲み物  
を出して私達をもてなして下さった  
ので、ボールペンと子供のお絵描き  
帳一冊を差し上げたら、目を輝かせ  
て大変喜んでいました。こんなに喜  
んで貰うならエンピツの一ダースや

ノートでも持ってくるんだったと思  
いました。エジプトでは日本では考  
えられないような汚れた紙幣を使っ  
ており、水と共に紙が大変貴重なん  
だと感じました。それとエジプトで  
は就学率が30%で、70%が文盲との  
ことでした。

アスワンではナイル河でヨットに  
乗って夕涼みをしました。ヨットの  
上で仲間と踊ったりしましたが、現  
地の人のリズム感のすばらしさ、ま  
つ白い歯の美しさと、そして素足。自  
然的ですばらしいと思いました。  
イタリアではインテリアがとても  
すてきで、昔から偉大な芸術家が出  
ているのが納得できました。スバゲ  
ティーの本場とあって、とてもおい  
しかったです。子供が子供料金が含ま  
れていないのにスバゲティーを二皿平  
らげたのはびっくりしました。

今回の旅行ではエジプトの猛暑で  
水の飲みすぎによって体調をくずし  
てしまひ、イタリアでは病院で点滴  
を打ってもらうという事態が生じま  
したが、日本では体調をくずすとオ  
カユに梅干しを食べると治るん  
ですが、外国ではそうはいかず、あ  
らためてお米の有難さ、そして体の  
大切さを痛感しました。

また仲間の温かい言葉の言葉  
や越智さんには温かい中国茶をポッ  
トに入れて持って来て下さったり、  
菊地さんや氏家さんにはリラックス  
のためのマッサージをして頂き、皆  
さんも疲れていらつしやるのに大変  
嬉しく思いました。  
最後に、子供がうるさくて皆様に  
御迷惑をおかけして、ふだんの親の  
しつけの悪さを痛感致しましたが、  
それと共に皆様に可愛がって頂き、

有難うございました。久保田先生、  
田中さん、参加された皆様に心から  
感謝致します。

### エジプトの旅を夢で予知

愛媛県 越智三千可

まだ旅の感想を言葉で表現できる  
ようになるのに、しばらく時が必要  
みたいですが。とにかく他の大陸とは  
全くちがう印象を受けてしまいまし  
た。

GAPについて何も知らず、初対  
面の方々の中で不安で迷ってしま  
したが、ローマで田中さんに迎えられ  
てやっと落ち着きました。同行の皆  
様には足手まといとなつてしまつた  
のではないかと心配です。でも親切  
にいろいろお教えたいただき、心から  
感謝しています。

エジプトが目的でしたが、暑さと、  
けた違いの大自然の中で、だんだん  
余分なものをはぎとられて単純にな  
っていきました。毎日たくさん見物  
しましたが、心の深いところでは大  
きなやさしい何かに包まれていまし  
た。今もそれは続いています。

そしてこの旅のことは、数カ月前、  
前、夢で何度も見ていたということが  
わかりました。その時は他の国の  
ことだと思つていましたが、エジプ  
トに入つて、しばらくして気づきま  
した。あの夢はこの旅のことだつた  
と。

この旅を計画して下さった久保  
田先生、いつも心を配って下さつ  
た田中さん、マスケットのような新  
ちゃん、そして同行の皆様、おかげ  
で最も印象深い旅になりました。あ  
りがとうございます。

# 本誌バックナンバー掲載記事目録

※印は絶版。在庫なし。お申し込みの際は郵便振替にて日本GAP宛ご送金下さい。バックナンバーに限り送料は不要です。

## No.102 昭和68年7月25日発行 ¥900

UFO目撃で驚嘆、大変化した私——後藤泰二  
 仙台市上空にUFO長時間出現——遠藤昭則  
 富士山周辺でテレビシーに応えるUFO群——長沼宏志  
 ミラクルワードとイメージ法で奇跡を起こす——田中 正  
 良い想念であなたの環境は良くなる  
 UFO-宇宙からの完全な証拠⑤——ダニエル・ロス

## No.101 昭和68年7月25日発行 ¥900

宇宙の家族のUFO目撃の日々——坂本茂子  
 精神的指導者に対する警告——G.アダムスキー  
 円盤の窓から手を振る“異星人”——齊藤庄一  
 長野県に出現したUFOの大群——博田文喜  
 頻繁なUFO目撃と超能力体験——佐々木八郎  
 UFO-宇宙からの完全な証拠④——ダニエル・ロス

## No.100 昭和63年1月25日発行 ¥900

UFO問題とアダムスキー——久保田八郎  
 富士山二合目から目撃したUFO——遠藤昭則  
 私はこうして超能力を開発した——坂本正廣  
 アメリカの不思議な土地——水野和彦  
 UFO-宇宙からの完全な証拠③——ダニエル・ロス

## No.99 昭和62年10月25日発行 ¥700

UFO-宇宙からの完全な証拠②——ダニエル・ロス  
 山中湖畔で空中を飛んだ自動車/——清水 南  
 富士山にUFOが大挙出現——清水敏恵  
 <写真>大分市上空のUFO  
 アダムスキーの大地とマヤの国へ——久保田八郎

## No.98 昭和62年7月20日発行 ¥700

木星の衛星イオに古代都市跡を発見/  
 UFO-宇宙からの完全な証拠①——ダニエル・ロス  
 静岡市上空にUFO頻繁に出現——遠藤昭則  
 太陽系惑星にまだ仲間がいる?  
 連夜のテレビシー送信に応じた出現した円盤——片岡 豊  
 万物の実体と想念の重要性——知念清邦  
 私は別な惑星へ行ってきた/(最終回)——春川正一

## No.97 昭和62年4月20日発行 ¥700

驚異の「生命の科学」と円盤大接近——伊藤達夫  
 八王子市でUFOを撮影——降旗和彦  
 別な惑星の偉大な人類と文明——G.アダムスキー  
 私は別な惑星へ行ってきた/④——春川正一

## No.96 昭和62年1月20日発行 ¥700

私のオーラ透視とテレビシー現象——清水 南  
 京都市上空にUFO5回出現——久保田八郎  
 想念放射、透視、UFO目撃——遠藤昭則  
 UFOと心霊は無関係——G.アダムスキー  
 私は別な惑星へ行ってきた/③——春川正一

## ※ No.95 昭和61年10月20日発行 ¥700

茨城県千代田村のUFO——日本GAP茨城支部  
 アダムスキー問題に対する考察——内田格男  
 私のUFO目撃と不思議な体験——中嶋順子  
 ジャンボジェットに並行して飛んだ円盤——久保田八郎  
 私の別惑星訪問体験とアダムスキーの真実性——春川正一

## ※ No.94 昭和61年7月20日発行 ¥700

テレビシーで飛来した真っ黒い円盤——堀江健一  
 八丈富士山麓でUFOを撮影——谷口美雄  
 地球を救う愛の想念放射運動——山崎清美  
 母船の周囲には人工大気層がある——G.アダムスキー  
 私は別な惑星へ行ってきた/②——春川正一

## ※ No.93 昭和61年4月20日発行 ¥700

月面にいた2機のUFO/  
 超低空に出現した大型円盤と黒い人影/——笠原弘可  
 私も光体を見た——伊藤達夫  
 多くの館——G.アダムスキー  
 質疑応答——G.アダムスキー  
 私は別な惑星へ行ってきた/①——春川正一

## No.92 昭和61年1月20日発行 ¥700

偉大な惑星から来た兄弟たち——野口敏治  
 サン・ピエトロ大寺院の異星人——久保田八郎  
 米トップ科学者、UFO墜落の事実を認める——ゴードン・クレイトン  
 質疑応答——G.アダムスキー  
 地球の哲学と宇宙哲学の相違(完)——松原真弓

## ※ No.91 昭和60年10月20日発行 ¥700

円盤に乗った日本人少年——伊藤達夫  
 ブラジル人教授の円盤搭乗事件——久保田八郎  
 質疑応答——G.アダムスキー  
 太陽系の惑星に知的生物が存在!?  
 地球の哲学と宇宙哲学の相違②——松原真弓

## ※ No.90 昭和60年7月20日発行 ¥700

朝霧高原の不思議な“月”——伊藤達夫  
 旭川にも月擬装UFO出現——石川晴道  
 尾道市に出現したアダムスキー型円盤と母船  
 ムーンゲート第14章(完)——ウィリアム・L・ブライアン  
 アダムスキー問題の真実性と宇宙哲学実践法——久保田八郎

## ※ No.89 昭和60年4月20日発行 ¥700

八ヶ岳に出現した円盤——秋山京子  
 富士山麓にUFO頻出——高梨和明  
 金星文字解読研究——遠藤昭則  
 ノアの箱舟とアブラハム——久保田八郎  
 アステロイド帯と月のクレーター——ウィリアム・L・ブライアン

## ※ No.88 昭和60年1月20日発行 ¥700

驚異の高松市円盤降下事件/——伊藤達夫  
 人工衛星による写真と地球上の異様な発見物ウィリアム・L・ブライアン  
 米政府はUFO問題の真相を公開せよ——ダニエル・ロス  
 太田市上空に頻出するUFO——久保田八郎  
 不思議な予知夢の実現——内藤重雄  
 テレビシー開発基礎トレーニング——久保田八郎

## ※ No.87 昭和59年10月20日発行 ¥700

月と地球は空洞のコアをもつ天体か——ウィリアム・L・ブライアン  
 宇宙から来る訪問者たちは地球人を指導しようとする——ジェニー・アベ  
 絶対に真実であったアダムスキーの体験——遠藤昭則  
 丸窓の並んだ母船が出現/——後藤澄子  
 二十一世紀の地球——松原真弓  
 異星人イエスの足跡を訪ねて——久保田八郎

## ※ No.86 昭和59年7月20日発行 ¥700

月には濃密な大気と強い引力がある——ウィリアム・L・ブライアン  
 超低空で接近したアダムスキー型円盤/——遠藤昭則  
 山腹に着陸した巨大な円盤?——清水 南  
 アダムスキー型円盤、超低空で出現/——清水 正  
 テレビシーと透視②——久保田八郎

## ※ No.85 昭和59年4月20日発行 ¥700

宇宙飛行士の月面の演技!?——ウィリアム・L・ブライアン  
 沖縄のUFO事件——新里義雄  
 テレビシー送信と奇跡的治癒——鈴木謙次郎  
 ある不思議な一夜——十菱 麟  
 テレビシーと透視——久保田八郎



# 旭川上空に白銀色の円盤！

## スペース・ピープルの祝福？

### 第七回旭川・札幌合同支部大会報告

スペース・ピープルの祝福を感じながら第七回旭川・札幌合同支部大会が北の街、旭川市のターミナルホテルで六月二十六日、盛大に開催された。

低温に推移していた道内は久保田先生が来旭される前日より気温が急上昇し、奇跡的に快晴に恵まれた旭川は、平均気温を五〜七度も上回り、三日間は沖縄の那覇に次ぐ三十度Cを記録。これはまさに久保田晴れ！

支部大会は氏家裕理子さんの素晴らしい司会で始まった。伊藤重信氏の体験講演は、われわれGAP会員が今一

## 日本GAP合同支部大会



度謙虚にアダムスキー哲学の原点に立ち返る事の重要性について豊富な体験と知識にもとづいて話された。

引き続いて久保田先生の「アダムスキーが二十世紀最大の偉人である理由」と題する力強い講演に移った。特に真実の隠蔽と報道操作が常であるNASAの実態が浮き彫りとなり、またアダムスキーの真実性と哲学の応用について、どうあるべきかの示唆がなされた。

質疑応答では会員諸氏の日頃の真摯な生き方がそのまま表出したものばかりだった。その後の夕食会も和気あいあいたる雰囲気の中にも進行し、独身美人会員でピアノ教師でもある石原美佳さんのエレクトーン演奏で幕を閉じた。

翌二十七日の市内観光ではアイヌ記念館上空に銀色のUFOが飛来して、久保田先生をはじめ他の人たちが目撃、祝福と示唆的な波動に満たされた。その他にも二十四日と二十五日の夜に会員諸氏の目撃があいっただ。これらの現実を目のあたりにして今こそ私達は偉大なる異星人と久保田教師のもとに宇宙哲学を学び、実践し、低次の波動に惑うことなく、「信念の力、希望の力、絶対にあきらめない力」で突き進んで行くこうではありませんか。遠くより参加下さいました方々に厚く御礼を申し上げます。

### アイヌ記念館上空に円盤出現！

久方ぶりに旭川の大会に出席させて

頂いた。一週間ぐらい前までは現地が雨続きで十三度Cという。こりや冬だなと思ひ、モモヒキなどを準備して行ったが、着いてみれば真夏の暑さ。三日間雲一つない日本晴れ。暑すぎてお天道様に文句を言いたくなるほど天候に恵まれた。

大会は少人数ながらも真剣な雰囲気は数百名の会合に勝るとも劣らぬものだった。質疑で出された各質問も高度な内容のものばかりで、レベルの高さに驚いた。

講演では人間がデマに惑わされやすい性質を指摘し、明治の初期、札幌農学校のウィリアム・クラーク博士の有名な言葉「Boys be ambitious.」を例にあげて、博士が実際に言った言葉との相違点を説明し、伝承やデマに対する地球人の盲信性を挙げた。講演の主体はアダムスキー哲学とその実践法にあったが、万物を神（宇宙の意識）の顕現とみなすアイヌの汎神論にも言及し、アイヌこそムー大陸人の後裔の一派であり、平和主義のもとに生きた尊敬にあたいする原日本人であるという筆者の持論を展開して、この虐げられた種族の宇宙的思想を称えた。

そのせいか翌日はアイヌ記念館上空に円盤が出現した。十一名で観光に出発。旭川市内の川村カ子トアイヌ記念館へ見学に行き、隣接する大きな土産物店へ入り、外へ出て「円盤でも出ないかな」と、青空を見上げたとき、

真珠に似た銀白色の小さな円型物体が逆S字型の航跡を描いて飛ぶのを筆者は目撃した。「円盤だ！」と大声で皆さんに知らせようとしたが、あいにく付近に仲間がいない。右手で空中を指さしていると一同が集まってきた。空中でピカピカ光る物を見たという人が他にもいた。アイヌに敬意を抱く筆者と皆さんを祝福してスペース・ピープルが出現されたと確信している。当日も終日快晴だったがこの場所以外ではついにUFOは出なかつた。素晴らしい大会を開催された両支部の各位に深甚の謝意を表したい。

(久保田八郎)

▲アイヌ記念館売店前で上空を見る一行。円盤が出現して消えた直後。(撮影：伊藤重信)





# ジョージ・アダムスキー全集

久保田八郎訳 全8巻 B6判・本文上質紙・厚手表紙箱入豪華本

偉大な進化をとげた惑星の人々とコンタクトしたアダムスキーの驚くべき体験と、深遠な宇宙的思想を伝えたこの全集は、人類に宇宙的覚醒と真の生き方を示す最高の指針。UFOと宇宙哲学の研究者必読の名著です。

## 1 宇宙からの訪問者

三三八頁 二五〇〇円

ジョージ・アダムスキーのあまりにも有名な体験記。一九五二年十一月二十日に米カリフォルニア州の砂浜で金星人と会見した経験、空飛ぶ円盤は着陸した。本書の第1部とし、円盤や母船に乗り、多数の異星人と会見した実録を第2部とした驚異的な書物。本全集の中心をなす最重要なもの。

## 2 UFO問題の真相

二六二頁 二五〇〇円

第1巻の補遺的なUFOと異星人問題の真相を詳述。特に円盤の推進理論や、聖書とUFOとの関係を述べた箇所は重要である。第2部はアダムスキーの世界講演旅行記。各国のGAPグループの活動と反応や、サイレンス・グループの妨害が克明に描写されている。

## 3 UFOとアダムスキー

三五〇頁 二五〇〇円

アダムスキーが実際に体験した母船による宇宙旅行を詳細に述べた「金星旅行記」と「土星旅行記」から成る本書第1部「死と空間を超えて」が圧巻。またアダムスキーが存命中に日本GAP会長・久保田八郎に送り続けたほう大な情報と書籍類を収録して第2部とした。

## 4 宇宙哲学

一四八頁 一三〇〇円

人間のセンス・マインド(肉体的心)と宇宙の意識との一体化を中心思想として、人間を進化させる方法を明快に理論整然と説く。この哲学は、人間の意識と物質との関係の解明と応用とをめぐり21世紀の科学の最先端をゆくもので、アダムスキーの哲学関係三著作の中心となるもの。

## 5 テレパシー開発法

一九〇頁 一八〇〇円

人間に内在する宇宙的な能力のうち、テレパシー能力の開発法を説明したもの。特に目・耳・鼻・口の四官をコントロールして、内部の意識から来るテレパシックな印象を感じる方法を詳しく解説し、他人と無言の会話を行う技術を描いた。群書の全く存在しないガイドブック。

## 6 生命の科学

二〇五頁 一八〇〇円

アダムスキーが他界する数年前に出した「Science in Life」と題する十二冊の講座を和訳して一書にまとめたもの。アダムスキーの宇宙的哲学の総まとめ的な一大金字塔で、真実のテレパシックと心靈的の境界通信の相違を明確にし、心靈現象の接近を警告する画期的な書。

## 7 アダムスキー論説集

三七〇頁 二五〇〇円

日本GAP機関誌に掲載されたのみで、単行本化されていなかったアダムスキーの論説や講演録等を網羅編さんした。特に死去する直前の最後の講演が圧巻。第2部にはアダムスキー研究者として名高い久保田八郎が数度渡米してアダムスキーの高弟たちとインタビューした記事を取録。アダムスキーの偉大な面が描写されている。

## 8 質疑応答集

二六六頁 二〇〇〇円

アダムスキーは一九五八年に質疑応答集を自費出版で頒布した。五分冊から成る小冊子で、全部で百問の質問と回答を取録してある。内容は現在の混乱した世界のUFO研究界に的確な解答と示唆を与えるものとして驚くほど新鮮である。これで本書はア氏の重要な文献すべてを網羅した。

発行所宛直接注文の場合に限り、左記のように定価・送料をサービスいたします。(郵送料等は別途) 送料無料。書籍代のみご送金下さい。特別セット価格 八〇〇〇円(送料共) 全巻セット価格 一四七〇〇円(送料共)

☆一冊注文  
☆第一巻より第四巻まで一括注文(正価 八八〇〇円)  
☆第五巻より第八巻まで一括注文(正価 一六九〇〇円)  
☆第一巻より第八巻まで一括注文(正価 一六九〇〇円)

■申込先▶文久書林 〒113 東京都文京区西方1-19-10 西方ハウス2F ☎(03)813-9561 振替/東京4-2521 日本GAPでは取り扱いません

## 英文版 UFOcontactee No.4 B5・12頁・コート紙使用 ¥400(送料¥170・3冊まで¥240)

久保田会長が心血を注いで作った英文版Uコンは世界各国のUFO研究団体間で絶賛を博しています。春川正一氏の宇宙的体験談(第2回)、アダムスキーの質疑応答集Q12よりQ31までを掲載し、昭和62年度日本GAP総会を写真入りで報じた国際的文献。英語学習にも好適。注文は振替または切手で日本GAP宛にどうぞ。

### 編集後記

★本号の庄巻は冒頭に掲げたアリス・ポマロイ女史のGAP総会における講演「ジョージ・アダムスキーの思い出と宇宙哲学」の全文です。アダムスキーが世界的な名門校カリフォルニア工科大学から教授として迎えられようとしたとは、この驚くべき事実だけでもアダムスキーが真実の人であったことを立証しています。

★その総会も空前の大盛況を呈して無事終了しました。出席頂いた会員各位に深謝いたします。本号ではすでに来年度総会の企画を開始しています。ご期待下さい。

★「カイロ上空に輝くUFOが出現」はありふれた出来事のようにですが、実はGAP旅行団の行く先々でUFOが出現するという意味深長な事実とある種の示唆を含んでいます。

★「私のUFOコンタクトと宇宙的目覚め」も筆者がきわめて特殊な、宇宙的カルマを持つことがうかがわれる手記です。このたぐいの人が日本GAPに多いのも同質結果の法則によるものでしょうか。

★「UFO宇宙からの完全な証拠。今号から月に関する米政府機関の隠蔽策の暴露記事が展開。一般人が別な情報を与えられている実態を浮き彫りにしています。次号からさらに面白くなります。

★UFO目撃報告、UFO写真、超能力開発体験、宇宙哲学、宇宙科学研究等の原稿を募集しています(心靈的なものは遠慮下さい)。採用分には薄謝を呈します。

★本誌は約百十名のボランティアにより全国の主要書店に卸されています。この奉仕活動に参加ご希望の方はハガキでお申し込み下さい。説明書をお送りします。(K)

日本GAP機関誌・季刊 冬季号  
UFO contactee 103号  
編集発行人 久保田八郎  
発行所 日本GAP  
〒113 東京都文京区西方一色1-12-1 511  
☎03-6511-0958  
振替 東京4-359112  
昭和六十三年十月二十五日発行  
定価九〇〇円・送料二〇〇円  
※本誌掲載の全記事・写真共、他の印刷物への無断転載を禁じます。



# 日本GAP全国月例研究会案内

支部名	日 時	会 場	会 費	携 行 品 ・ 行 事
東京本部	毎月第2土曜日 午後1:30→6:00	上野公園内「東京文化会館」4階会議室。 ☎03-828-2111。J R「上野駅」の「公園口」下車。改札口の真向かいスグ。 連絡先=日本GAP本部 ☎03-651-0958	会場費 ¥500 セミナー受講料 ¥1000 計¥1500	1:30→2:10 会員による体験講演。 2:15→3:30 久保田会長による「宇宙哲学」「アダムスキー論説集」講義。 テレバシー練習、近況報告、自己紹介、質疑応答。
大阪支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	大阪府吹田市出口町4丁目「吹田市民会館」 ☎388-7351。J Rまたは阪急電車「吹田駅」下車。 連絡先=平塚和義 ☎06-436-3478	¥300	テキストとして「宇宙哲学」「論説集」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレバシー練習・研究発表・座談会。
新潟支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	長岡市今朝白1丁目「けさじる荘」 ☎0258-33-7400。長岡駅東口より徒歩5分。無料駐車場あり。 連絡先=星 富治夫 ☎02579-2-5562	¥500	テキストとして「宇宙哲学」「論説集」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレバシー練習・座談会。
福岡支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	福岡市天神町5丁目1-23「福岡市民会館」3F国際会議控室 連絡先=喜多正宜 ☎092-863-5438	¥500	テキストとして「宇宙哲学」「論説集」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレバシー練習。
名古屋支部	毎月第2日曜日 午後1:00→4:30	名古屋市中区金山1丁目5番1号「名古屋市民会館」特別会議室。 ☎052-331-2141(代)。J R東海・名鉄・地下鉄の金山橋より徒歩5分。 連絡先=林 国宜 ☎0586-45-6468	¥300	テキストとして「宇宙哲学」「論説集」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。研究発表・テレバシー練習・座談会。
仙台支部	毎月第4日曜日 午後1:10→4:20	仙台市番町4丁目141(イナヨナ)ビル内5Fエルパーク仙台セミナー室 ☎022-268-8300。仙台駅よりバスで県庁市役所前下車、3越アパート隣。 連絡先=笠原弘可 ☎022-295-0725	¥300	テキストとして「宇宙哲学」「論説集」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレバシー練習・座談会。
山形支部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00	山形市小白川町「社会福祉センター」 ☎0236-42-5181。山形駅よりバスで貯金局前下車・徒歩3分。 連絡先=柴田光明 ☎0233-25-3261	¥200	テキストとして「宇宙哲学」「論説集」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレバシー練習・研究発表・座談会。
札幌支部	毎月第1日曜日 午後1:00→4:30	中央区北一条西13丁目「札幌市教育文化会館」会議室。 ☎011-271-5821 連絡先=高野省志 ☎011-822-8260	¥500	テキストとして「宇宙哲学」「論説集」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレバシー練習・座談会。
静岡支部	毎月第1日曜日 午前10:30→5:00 ※午前中は「生命の科学」の研究会。テキスト持参。	静岡市黒金町「静岡労政会館」5階会議室。 ☎0542-21-6280。静岡駅北口より徒歩5分。 連絡先=野口敏治 ☎0542-86-7729	¥200	テキストとして「宇宙哲学」「論説集」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレバシー練習・研究発表。
旭川支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	旭川市6条通4丁目「勤労者福祉会館」2F小会議室。 ☎0166-26-1304。 連絡先=川上三秀 ☎0166-61-0044	¥500	テキストとして「宇宙哲学」「論説集」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。研究発表・質疑応答・テレバシー練習。
群馬支部	毎月第2日曜日 午後1:00→5:00	群馬県太田市「社会教育総合センター」3F。 連絡先=久保寺信一 店：☎0276-25-5958 自宅：☎0276-45-3544	¥200	テキストとして「宇宙哲学」「論説集」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。座談会。
青森支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	青森市松原「青森市民文化センター」教養室。 ☎0177-34-0163。 連絡先=田村嘉彦 ☎0177-38-0416	¥500	テキストとして「宇宙哲学」「論説集」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレバシー練習・研究発表等。
沖縄支部	毎月第4土曜日 午後6:00→10:00	那覇市客宮1-2-1「那覇市民会館」1F A会議室。 ☎0988-55-5081。与儀公園の隣。 連絡先=新里義雄 ☎0988-54-1623	¥1000 (積立金共)	テキストとして「宇宙哲学」「論説集」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。質疑応答・想念観察とテレバシーの研究報告・自己紹介・座談会等。
秋田支部	毎月第2日曜日 午後1:00→5:00	秋田市八橋運動公園1-2「中央公民館」趣味の間。 ☎0188-24-5377。 連絡先=伊藤正治 ☎0188-62-2831	¥200	テキストとして「宇宙哲学」「論説集」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレバシー練習・座談会。
神奈川支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	川崎市川崎区富士見2-5-2「川崎市立労働会館」4階4号室。 ☎044-222-4416。J R京浜急行「川崎駅」下車。市バス・ふ頭線・労働会館前。 連絡先=清水 正 ☎0488-66-7048	¥500	テキストとして「宇宙哲学」「論説集」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。研究発表・座談会等。
茨城支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00 ※10月19-10日の移動月例会に変更。 申込は☎0298-52-3573石井まで。	水戸市梅香1-2「三の丸公民館」小集會室。 ☎0292-24-6600。水戸駅北口より徒歩10分。 連絡先=清水勝一 ☎0292-73-1903	¥300	テキストとして「宇宙哲学」「論説集」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。座談会・研究発表等。
長野支部	毎月第4日曜日 午後1:00→4:30	塩尻市大門7番町「塩尻総合文化センター」第1会議室。 ☎0263-54-1253。 連絡先=博田文喜 ☎0263-58-8510	¥500	テキストとして「宇宙哲学」「論説集」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレバシー練習・座談会・研究発表等。
紀南会	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	和歌山県新宮市新宮6682-1「新宮市福祉センター」1F相談室。 ☎0735-21-2760。J R西日本新宮駅下車、徒歩5分。 連絡先=松口幸之助 ☎0735-34-0605(呼・田中)	¥300	テキストとして「宇宙哲学」「論説集」と「宇宙からの訪問者」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレバシー練習・研究発表・座談会。
栃木支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	鹿沼市(市役所裏)「御殿山会館」1F小会議室。 ☎0289-64-4334。JR鹿沼駅から西へ1.5km。東武新鹿沼駅から北へ1.5km。市内行きのバスに乗り天神町下車、徒歩5分。 連絡先=渡辺克明 ☎0289-62-3319	¥500	テキストとして「宇宙哲学」「論説集」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレバシー練習・座談会・研究発表等。
長崎支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	長崎市魚の町5番1号「長崎市民会館」 ☎0958-25-1400。公会堂電停前。 連絡先=元木和雄 ☎0958-22-5521	¥200	テキストとして「宇宙哲学」「論説集」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレバシー練習・座談会・研究発表等。
鹿島会	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	鹿児島市与次郎2丁目3-1「鹿児島市民文化ホール」 ☎9922-57-8111 連絡先=鶴田清則 ☎9932-5-4398	¥200	テキストとして「宇宙哲学」「論説集」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレバシー練習・座談会・研究発表等。
高松支部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00 ※11月のみ高松市民文化センターに会場変更。(高松市松島町1-15-1 ☎0878-33-7722)	高松市玉藻町9番10号「香川県民ホール」5F第1会議室 ☎0878-23-3131。J R高松駅より徒歩7分。 連絡先=関 高明 ☎0878-88-1334	¥400	テキストとして「宇宙哲学」「論説集」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレバシー練習・座談会・研究発表等。

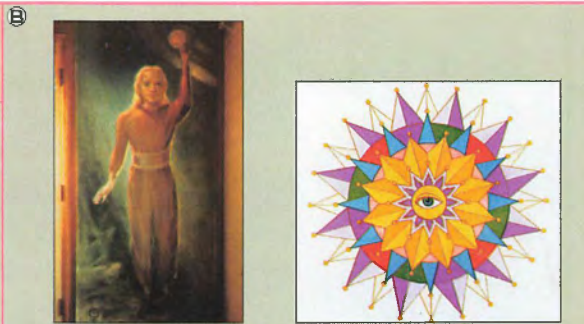


あなたも超能力者にになれる!  
**テレバシー能力開発用ESPカード**

テレバシー、透視力開発用のESPカードはアメリカのアユーフ大学で科学的に開発されたゼナーカードが主体になっています。色カードは目を閉じたまま各カードの上に手をかざして色の発する波動を感知しながら色を言いあてる練習に使用するものです。堅牢なプラスチック製。



50枚1セットケース入り 使用説明書付き  
 ¥4,800 送料¥350(2~5個¥700)



①オーソン肖像写真 ②シンボルマーク

①1952年11月20日、カリフォルニアの砂漠でアダムスキーが劇的な最初のコンタクトをした金星人は「宇宙からの訪問者」第二部でオーソンという名で出てくるが、これをア氏の記録やアリス・ウエルズのスケッチにもとづいて女流画家ゲイ・ベッツが描いた名画の写真。(キャビネ判・カラー写真) [上半身写真もあり。定価¥600]  
 ②この金星のシンボル・マークの中央にある眼は「すべてを見透す眼」で、宇宙の意識をあらわし、周囲の四層の星は人間のマインド(心)の発達状態をあらわしている。(サービス判・カラー写真) 上記2点共、重要な資料となります。他所では入手できません。

①¥600 送料¥120 } 一括注文の場合送料¥120  
 ②¥300 送料¥60 }

..... 大いなる信念と勇気を与えるGAP能力開発テープ .....

毎月行なわれている日本GAP東京本部月例研究会のなかから、日本GAP会長・久保田八郎先生が宇宙的フィーリングをもってアダムスキーの名著を解説した講義などが収められたテープ。ドライブ中や、通勤・通学電車内で、あるいは就寝前に聞いたりすれば絶大な信念と勇気がわき起こります。5月分より在庫。DDドルビー録音・ドルビー編集。

■日本GAP東京本部月例研究会録音テープ①

内容=「宇宙哲学」・「アダムスキー論説集」解説講義/近況報告/質疑応答(一部)

テープ1本(120分) ¥1300 送料¥200

※このテープは日本GAPでは取り扱いません

◆申込先◆ 〒133 東京都江戸川区本一色1-24-3-202 松村芳之 ☎03-653-9387 振替・東京0-162644

■日本GAP東京本部月例研究会録音テープ②

内容=「宇宙哲学」・「アダムスキー論説集」解説講義/テレバシー実践講義/テレバシー練習(テキスト付)/近況報告/質疑応答(全部)

テープ2本(90分×2本) ¥1900 送料¥240

**会員募集**

日本GAPはUFO研究界の大先駆者・久保田八郎が故アダムスキー氏と提携して1961年に創立したわが国最大のUFOと宇宙哲学の研究大集団/多数の会員と共に宇宙的人間を目指す/入会案内書をハガキで日本GAPへ申し込もう!

—日本GAP—

**GAPテレホンカード**

第1回のテレホンカードは好評裡に品切れになりました。第2回目は金星の田船を黄金色であしらった優美でシンプルなデザインです。少数につき早目にご注文を。



©1977 ホワイトテレホンカード:50

1枚¥1500 送料10枚まで¥60

**会員バッジ**



ジョージ・アダムスキーが金星人から与えられた唯一のバッジと形、色共全く同様に複製した径18mmの丸い優美なバッジです。薄青色地に金色のシンボルマークが浮彫りされており、縁も金色です。表面には透明樹脂がかけてありますからキズがつかず、光を反射してキラキラ輝きます。男性用は裏側が心棒ネジどめ式、女性用は裏側が安全ピン式です。ぜひお求め下さい。ご注文のさいは男性用・女性用の別を明記して下さい。(無断複製を禁じます)

1個¥2000 送料4個まで¥120

—幸せを呼ぶ—

**GAPシール**

シールを製作しました。WITH COSMIC CONSCIOUSNESS (宇宙の意識と共に)の文字がシンボルマークを取り囲む優雅なデザイン。径6cm、5cm、4cm、3cm、2cmの5枚1セット。青と赤の2種類あります。自動車の窓、運転台、カバン、書籍・ノートの表紙、その他の持ち物に貼っておけばいつも宇宙的フィーリングに満ちて気分さわやか。良き想念が良い物事を招きよめます。表面光沢。防水加工。裏面のり付。ご注文の際は、青、赤の区別をお忘れなく。

1セット¥900 送料5セットまで¥60



◎を除く商品の申込先・申込方法

住所・氏名・電話番号・商品名・種類・色・個数等を明記の上右記へ郵便振替または現金書留でお申し込み下さい。

〒133 東京都江戸川区本一色1-12-1-511 日本GAP  
 振替/東京4-35912 ☎03-651-0958



# ® サプリミナルテープを無料で差し上げます!!

サブプリミナルテープをBGM音楽として聴くだけで

## あなたの人生が変わる!

先着  
500名様限り

先着500名様に限り  
サブプリミナルテープを無料で差し上げます!!

朝日放送  
文化放送  
TBSラジオ  
FM80.2  
FM73.1  
FM76.1



「記憶力・集中力強化」「女性にもてる魅力的性格」「性エネルギーの強化」「恋愛・仕事の成功」「最高の頭脳」等々を全く努力なしに現実のものにしてくれる奇跡のテープ「サブプリミナルテープ」がアメリカからやってきました。

発売を記念して先着500名の方に試聴用テープを無料で差し上げます。今すぐおハガキお電話でお申込み下さい。

「朝日放送」「文化放送」「TBSラジオ」等でも紹介

● **スティーヴン・ハルパーン博士のプロファイル**

音楽・音・言葉の潜在意識への作用の研究で世界的にその名を知られる心理学博士。学者であると同時に「瞑想音楽の神様」とも米国はもとろんヨロップへ各国にその名を知られ、世界的なファンを数多く持つ。博士の音楽は鑑賞用の音楽としても高く評価されているが、博士の長年の研究のエッセンスが凝縮した「音楽の薬」としての効能も医学・心理学・教育関係者の間で高い評価を受けている。いろいろな分野で博士の音楽を取り入れている。カイザー・バーマント病院をはじめ全米一流の医療機関では、博士の音楽を薬品の代わりとして患者に与え、著しい効果を見せている。

- ◆ **数多くの目的別テープを販売中**
- 現在の左のテープをはじめとして、「能力開発」「恋愛成功」「ビジネス能力向上」「魅力的性格づくり」「速読・学習能力向上」等々をテーマにしたシリーズを販売いたしております。
  - 大脳を活性化させる
  - 心身の緊張をとる
  - 女性を魅了する
  - 集中力の強化
  - お金を引きつける
  - 個性的魅力を出す
  - 自信をつける
  - 勉強の習慣をつける
  - 学習能力を上げる
  - 速読能力をつける
  - 猿理の実行
  - ストレスコントロール
  - 積極的思考者の習慣づけ
  - コミュニケーション能力の強化
  - 減量の実現
  - 性エネルギーの強化
  - スポーツ・運動の習慣づけ
  - さわやかな毎日を送る
  - 他人を無条件でひきつける

あのハルパーン博士があなたのために制作!!

「魅力的性格・潜在能力向上」「最高の頭脳」...これらを努力なしに現実のものにしていただける奇跡のテープ「サブプリミナルテープ」がアメリカからやってきました。それがアメリカでは知らない人はいないほど有名な心理学博士スティーヴン・ハルパーン博士の開発したサブプリミナルテープです。

本という驚異のベストセラーを続け、その確かな効果が発証されています。

**BGMとして聴く**

ただで効果が!!

このサブプリミナルテープ、耳に聴こえるのは、うっとりするような美しいメロディーの心がゆたたりとつづいてくる静かな音楽だけ。日本の曲でいえば、夏多郎の音楽にイメージが似ている。この音楽だけでもストレスを解消し、気分をさわやかにするすぐれた効果がある。しかし、実はこの音楽に「ハルパーン博士が開発した他に真似のできない高度な音響学テクニック」を駆使して、ある心理学的な言葉のメッセージが耳に聴こえているのです。(潜在意識に独特の刺激を与える音楽の波長が、耳に聴こえないメッセージの波長を潜在意識へ運び、植えて入っています。)

この音楽に交って入っている、耳に聴こえない心理学的メッセージがたまたまアメリカの音楽で聴いているだけで、自然に理想の恋人ができてしまふ。仕事勉強の能率が驚くほど上がる。知らず知らずのうちにまわりの人から好かれるようになってしまふ。という現象を引き起こす秘密なのです。

「本を読んだり趣味に熱中している時」に、BGM音楽として聴き流しているだけで、夢がかなってしまふ。このアメリカの苦勞いらずの科学的プログラムが、ついに日本の皆様にもご利用いただけるようになったのです。



## 先着500名の方に試聴用テープを無料進呈中!!

■ サプリミナルテープは、アメリカでも「ウォールストリートジャーナル」「タイム」「オムニ」等に記事として取り上げられ話題になっています。

■ 当社のサブプリミナルテープは、雑誌・新聞等で大きく取り上げられたのをはじめ、文化放送「やる気まんまん」、TBSラジオ「日本全国8時」等でも「アメリカからやってきた驚くべきテープ」として大々的に紹介されました。

■ 試聴用テープをご希望の方は、「無料サンプルテープ①希望」と明記の上、おハガキ・電話でお申込み下さい。

試聴用サンプルテープと詳しい案内書を無料でお送りします。(サンプルテープの返品義務や商品購入の義務は全くありませんので安心してお申込み下さい。)

● 今回お届けする「無料サンプルテープ①」はS・ハルパーン博士の自らの作曲による、7つの波動レベルからなる心と体そして頭脳を最高のつろぎの状態に導く音楽に、耳に聴こえない言葉を同調させたアメリカで最も人気のあるテープのひとつです。

● 当社では「恋愛成功」「ビジネス成功」「魅力的性格づくり」「潜在能力の開発」等々の数多くのシリーズを販売しています。これらのシリーズを詳しく紹介した案内書も無料サンプルテープと同時に送らせていただきます。

〈申込方式〉住所・氏名・年齢・職業・電話番号を明記の上「無料サンプルテープ①希望」と下記まで、おハガキ・お電話で今すぐお申込み下さい。(サンプルテープのお申込みは16才以上の方に限らせていただきます。)

〒107 東京都港区南青山1-26-4  
アメリカンライブラリー社 UFO@係  
電話 東京03(479)5864 (日・祭日も受付中)



# ●「セドナ・リサーチ・プロジェクト」参加者募集中●

この不思議なエネルギーで

# あなたには何が起ころるか？



▲アリゾナ州セドナのエネルギースポットのある岩山



まもなく申込を  
締め切らせていただきますので  
お申込みはお早目に!

セドナ・エネルギー・ストーンの小片とエネルギーを調整する金箔がカプセル内に入っています。ヘッド部分はセドナを聖山と仰ぐ有名なホビ・インディアンの胸像。(銀製) 専用チェーン・専用ケース付



▲セドナの町の遠景

## セドナエネルギー・ストーンにふれた 150名のアメリカ人の体験データの部

●「氣力」が非常に満ちあふれてくる  
●自分自身に対する自信のようなものが出てくる

- 意識が高まり気分が高揚してくる
- 他人へのやさしさ、人類愛のような次元の高い「愛」の感情が自然に出てくる
- 深い瞑想状態に非常に入りやすくなる
- 呼吸が自然に深くなる
- 体がホカホカ暖かく心地よくなる
- 夜よく眠れるようになる
- 頭痛や頭痛がやわらかくなる
- 肩こりがなくなる
- 疲れにくくなる
- 長年の持病が直ってしまった
- ケガや病気の回復が早くなる
- 直観力が非常に強くなる
- 創造的意欲・芸術的感性が磨かれる
- 直観力が非常に強くなる
- 男女の別、年齢層等によって、バラつきはあるが、以上のような心理的変化、肉体的変化を報告した人が90%を超えた

また、次のような神秘的体験を報告した人も多かった。

- 顔や手足から金粉が吹き出した
- 幽体離脱を初めて体験した
- 正夢や予知夢をたびたび見るようになった
- 自分の前世と思われる記憶・ビジョンが潜在意識の奥深くから湧き上がってきた

## 超能力者の透視による情報

何名かの超能力者の透視によると

- 通常の電磁気とは次元の違う「電磁氣的エネルギー」が渦巻き状に出ている
- 石の表面に幾何学的な模様が見え、状態と並んで見える
- 金色やエメラルドグリーン、美しいオーラが量量に出ている
- この石のエネルギーは、人間の意識を目覚めさせたり、マインドパワーや肉体の活力を高めたたりする非常にレベルの高いバイブレーションを持っている

## 「セドナ・リサーチ・プロジェクト」参加のご案内

「電氣的エネルギー(男性的エネルギー)の強いアメリカとは対称的な磁氣的エネルギー(女性的エネルギー)が非常に強い日本列島の土地に長く住む日本人には、この不思議なエネルギーがどのような作用するか？」を調査するため「セドナ・リサーチ・プロジェクト」が企画されました。現在、日本全国から参加者を募集しています。応募資格は16才以上の男女で、一定期間(ペンダント)を着用し心理的変化、肉体的変化を体験報告として提出していただく。感受性豊かな方であればごなたでも応募できます。

参加者にはペンダント代金、5,000円の支払い(ペンダント到着後7日以内に同封の払込用紙にて送金)と体験報告提出が義務づけられ、又「セドナ・エネルギー・ストーン情報」と「今回のプロジェクトの結果報告」を無料で受け取れる特典があります。ペンダント到着後7日以内にペンダントを返却すれば参加はキャンセルできます。

▲申込み方法

住所氏名(年令(生年月日))、電話番号、

●オーラが見えるようになった  
●ヒーリング(病氣治療)能力が身についた  
●サイキックな体験をしばしばするようになった  
●目に見えない「実体」からインスピレーションやアドバイスを受けるようになった

〒107 東京都港区赤坂9-1-27  
日本ニージェンセンター UFO@foc  
電話 東京 03(479)6576  
受付時間 AM 10:00 ~ PM 20:00

定価900円・送料2000円